

尼崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
(生き生き!!あま咲きプラン) 策定のための
アンケート調査結果報告書

令和5(2023)年3月

尼崎市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書を見る際の注意事項	1
II 高齢者実態調査結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 体を動かすことについて	11
3. 食べることについて	22
4. 毎日の生活について	25
5. 物忘れについて	34
6. 地域での活動について	37
7. たすけあいについて	55
8. 健康について	58
9. 災害時や緊急時の対応などについて	72
10. 高齢者に対するサービスについて	74
11. 今後の生活や高齢者施策全般について	91
III 在宅介護実態調査結果	100
1. 回答者の属性	100
2. 主な介護者について	101
3. 高齢者に対するサービスについて	105
4. 主な介護者の就労状況について	109
5. 生活状況について	115

I 調査概要

1. 調査の目的

第9期計画（令和6年度から令和8年度）を策定するにあたり、高齢者等の生活状況や健康状態、地域の課題やニーズ等を的確に把握し、市における介護や福祉などの事業の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査概要

調査種別	配布数	回収数	回収率
① 高齢者実態調査	4,000	2,142	53.6%
未認定者	2,000	1,172	58.6%
要支援認定者	1,000	560	56.0%
要介護認定者	1,000	410	41.0%
② 在宅介護実態調査	611	611	100.0%

○調査方法：①高齢者等実態調査：郵送配布－郵送・WEB回収

②在宅介護実態調査：認定調査員による訪問ヒアリング

○調査期間：令和5年2月～ 令和5年3月

3. 報告書を見る際の注意事項

○グラフおよび表中のn数（number of case）は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表している。

○回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

○百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

○1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

○グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

○年代別・介護度別等のクロス集計表については、その他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

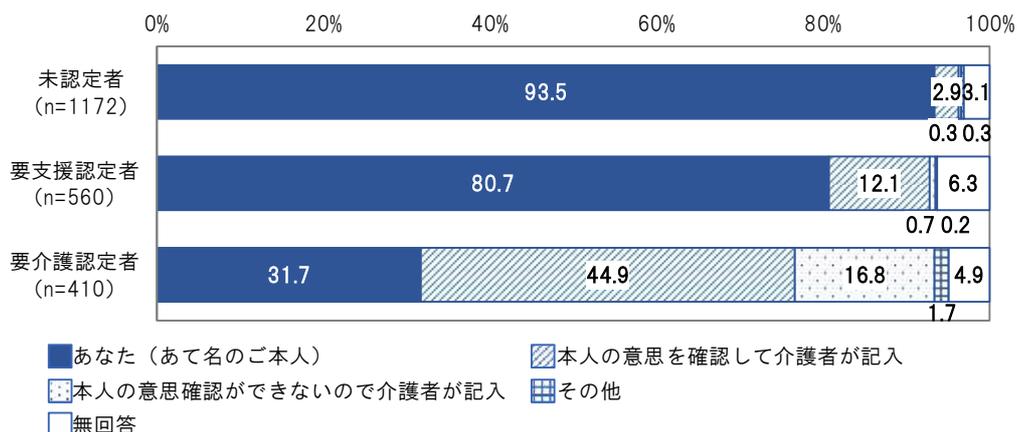
Ⅱ 高齢者実態調査結果

1. 回答者の属性

(1) 記入者

問 この調査票に回答しておられる方はどなたですか。(1つに○)

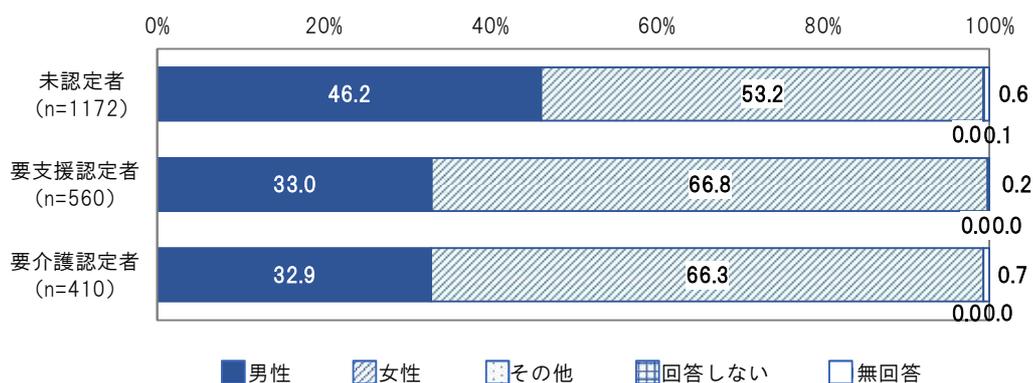
○調査票の記入者は、未認定者・要支援認定者では「あなた(あて名のご本人)」が大半を占めているのに対し、要介護認定者では「本人の意思を確認して介護者が記入」が4割以上を占めて最も高くなっている。



(2) 性別

問 あなたの性別をお答えください。自分としての認識でお答えください。(1つに○)

○性別は、未認定者では「男性」が4割を超え、「女性」が約半数となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「女性」が6割を超えて高くなっている。

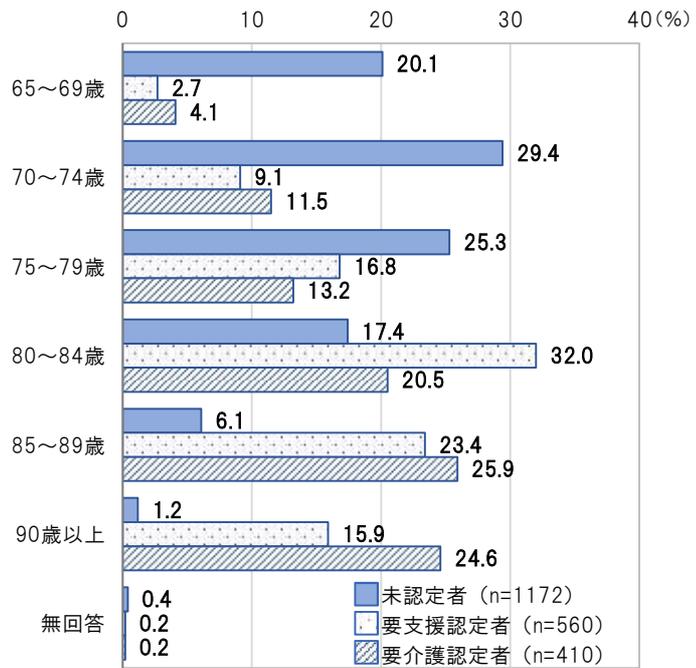


(3) 年齢

問 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

○年齢は、未認定者では「70～74歳」が約3割と最も高く、次いで「75～79歳」(25.3%)となっているのに対し、要支援認定者では「80～84歳」、要介護認定者では「85～89歳」が最も高くなっている。

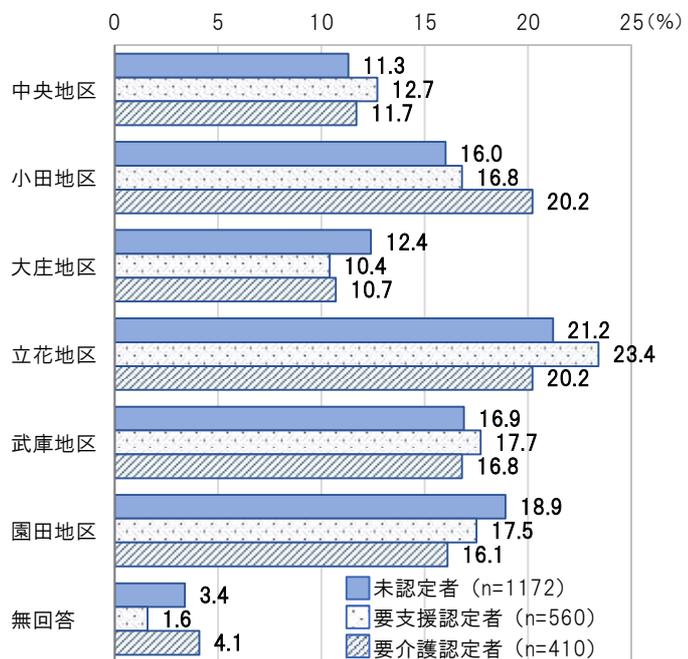
○未認定者では『前期高齢者(65～74歳)』が約半数となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では『後期高齢者(75歳以上)』が大半を占めている。



(4) 居住地区

問 あなたの現在のお住まいはどこですか。(1つに○)

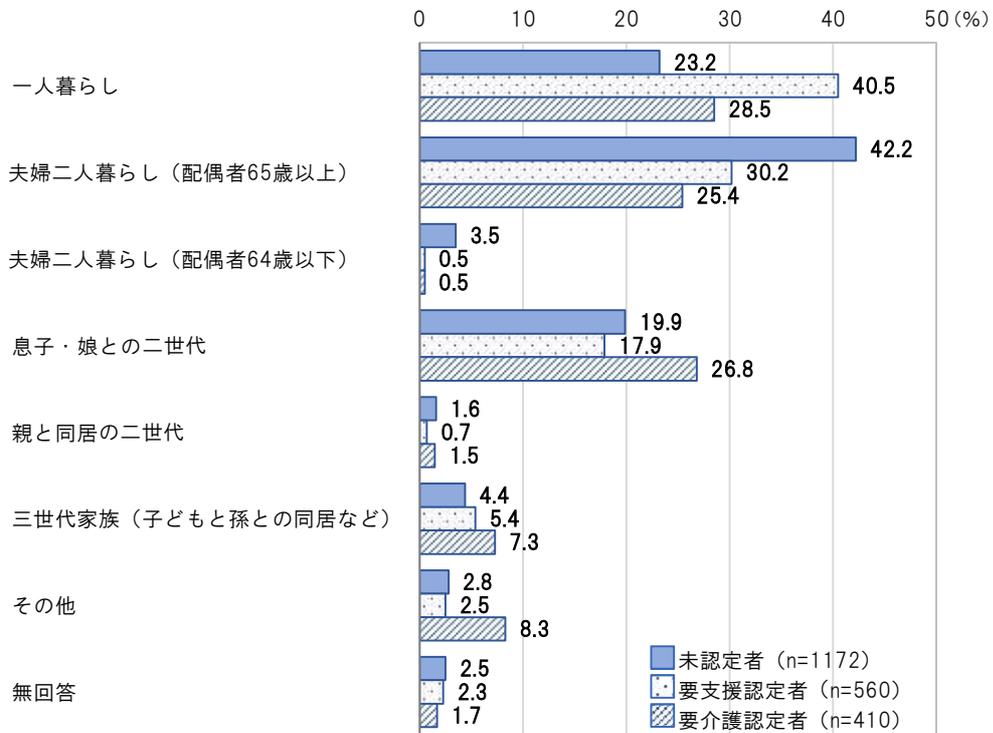
○居住地は、未認定者・要支援認定者ともに「立花地区」が最も高く、要介護認定者では「小田地区」及び「立花地区」が最も高くなっている。



(5) 世帯構成

問 あなたの世帯構成についてお答えください。(1つに○)

○世帯構成は、未認定者では「夫婦二人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が4割を超えて最も高くなっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「一人暮らし」が最も高くなっている。特に要支援認定者では4割を超えている。

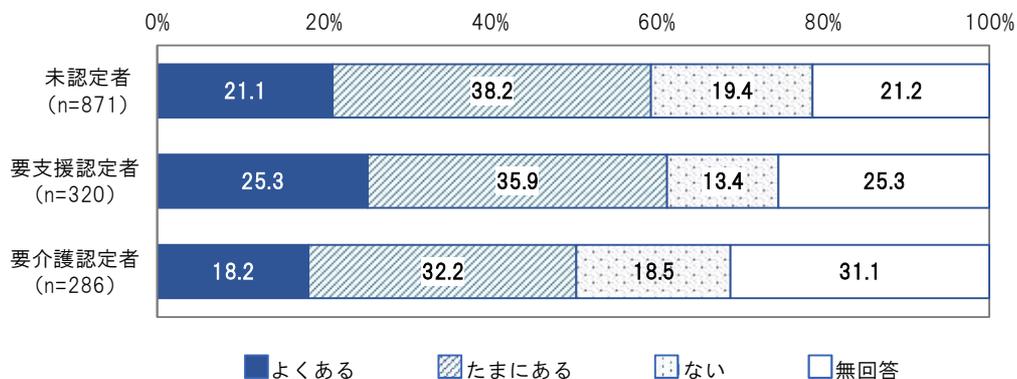


(5-1) 日中一人になることの有無

(5) で「一人暮らし」と回答した人以外

問 あなたは、日中一人になることがありますか。(1つに○)

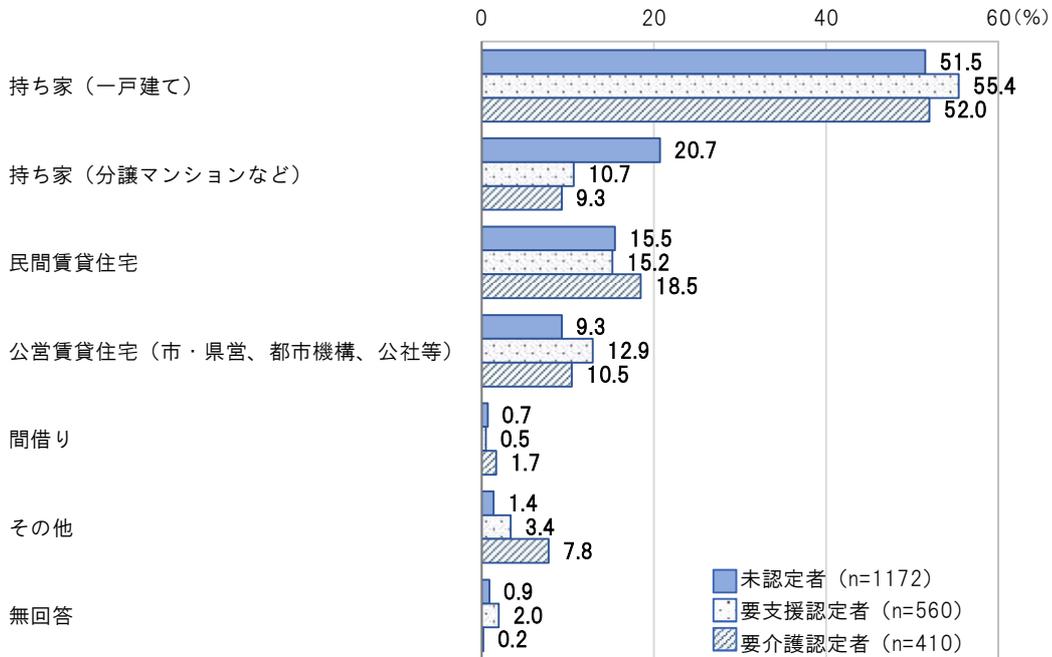
○同居世帯の高齢者のうち、日中一人になることについては、すべての区分で「たまにある」が3割を超えて最も高く、「よくある」と合わせた『日中一人になることがある』は、未認定者・要支援認定者では約6割を占めている。



(6) 居住形態

問 あなたのお住まいについて、お答えください。(1つに○)

○居住形態は、すべての区分で「持ち家（一戸建て）」が半数を超えて最も高く、次いで、未認定者では「持ち家（分譲マンションなど）」、要支援認定者・要介護認定者では「民間賃貸住宅」が高くなっている。

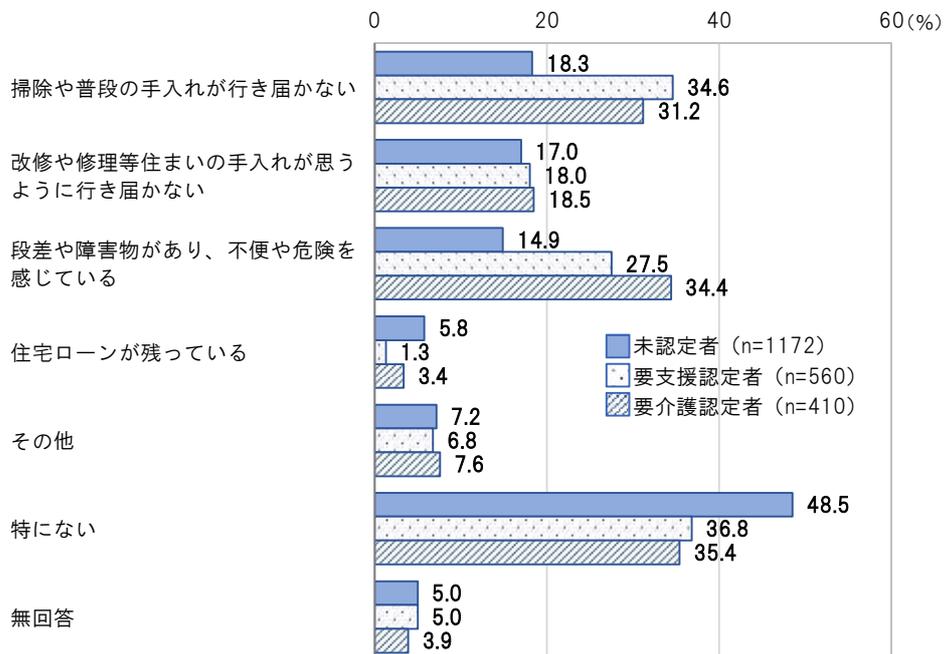


(7) 住まいについて不安に感じること

問 あなたのお住まいについて不安に感じることは、どんなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

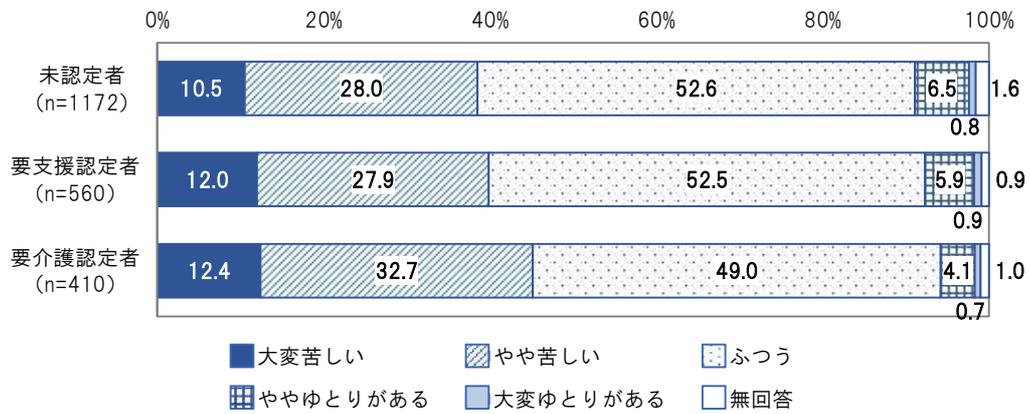
○住まいについて不安に感じることは、すべての区分で「特にない」が最も高くなっているものの、要支援認定者・要介護認定者では「掃除や普段の手入れが行き届かない」や「段差や障害物があり、不便や危険を感じている」がともに3割程度と高くなっている。



(8) 経済的にみた暮らしの状況

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じますか。(1つに○)

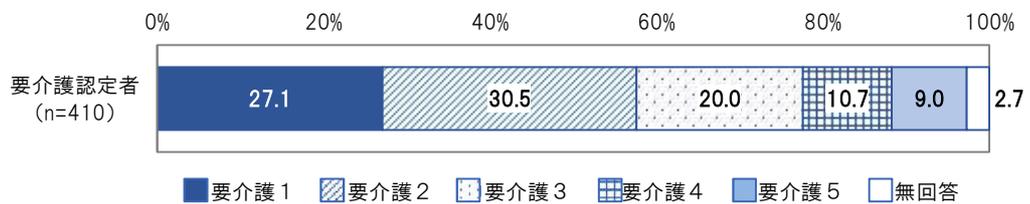
- 経済的にみた暮らしの状況は、すべての区分で「ふつう」が約半数を占めて最も高くなっている。
- 「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、未認定者・要支援認定者では4割未満となっているのに対し、要介護認定者では4割を超えてやや高くなっている。



(9) 要介護度《要介護のみ》

問 あなたの要介護度をお答えください。(1つに○)

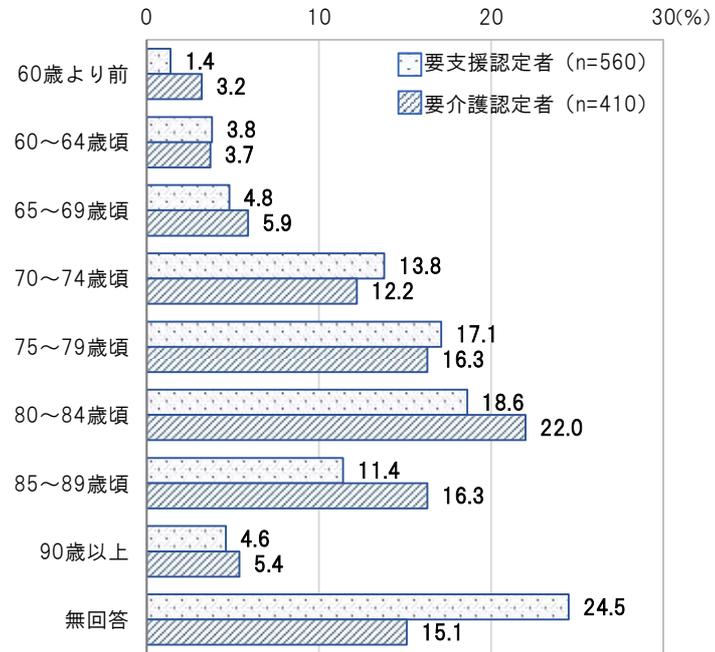
- 要介護認定者の要介護度は、「要介護2」が30.5%と約3割を占めて最も高く、次いで「要介護1」(27.1%)、「要介護3」(20.0%)の順となっている。



(10) 何らかの援助が必要になった年齢《要支援・要介護のみ》

問 あなたが日常の生活動作等で何らかの援助が必要になったのは何歳頃からですか。

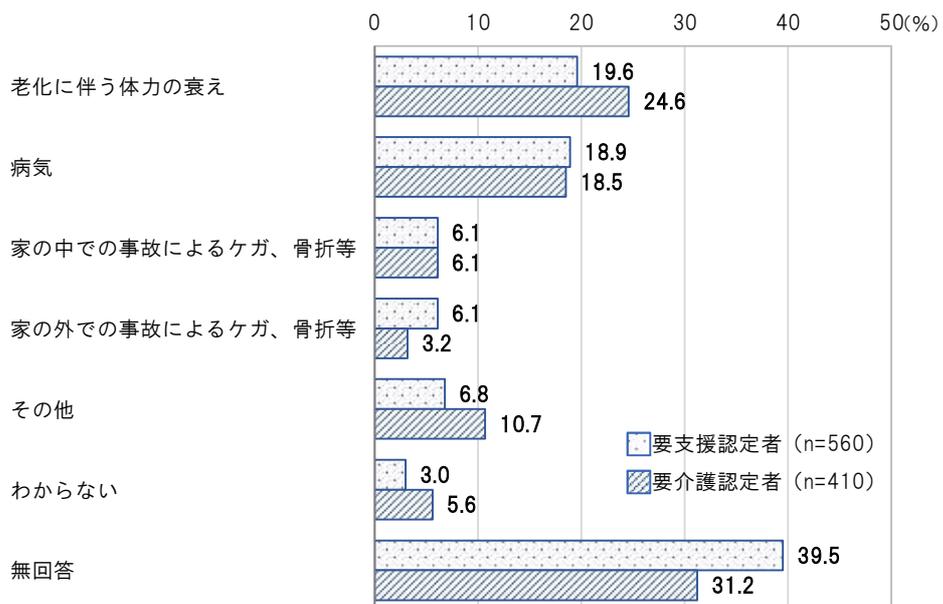
○要支援認定者・要介護認定者の何らかの援助が必要になった年齢は、ともに「80～84歳頃」が最も高くなっている。また、70歳を境に割合が高くなる傾向がみられる。



(11) 初めて要介護認定を受けた時から要介護区分が重くなった直接的な原因《要支援・要介護のみ》

問 初めて要介護認定を受けた時から、現在の要介護区分が重くなった方におたずねします。重くなった直接的な原因は何だとお考えですか。(1つに○)

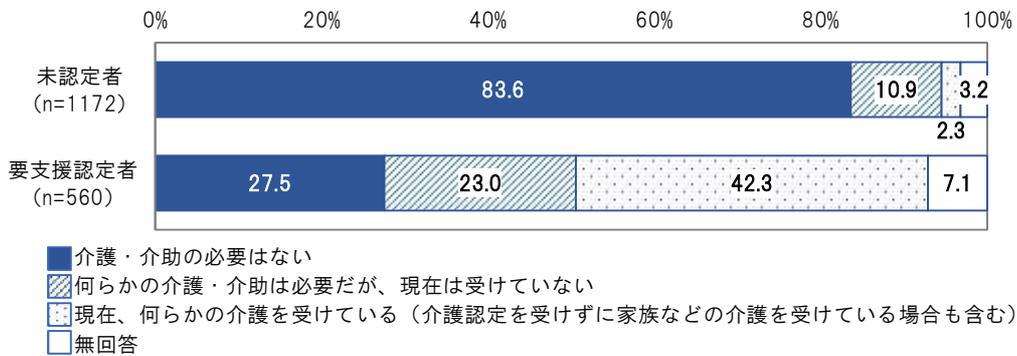
○初めて要介護認定を受けた時から要介護区分が重くなった直接的な原因は、ともに「老化に伴う体力の衰え」が最も高く、次いで「病気」の順となっている。



(12) 普段の生活における介護・介助の必要の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたは、普段の生活で、どなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

○普段の生活における介護・介助の必要の有無は、未認定者では「介護・介助の必要はない」が8割を超えているのに対し、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が約4割を占めて最も高くなっている。

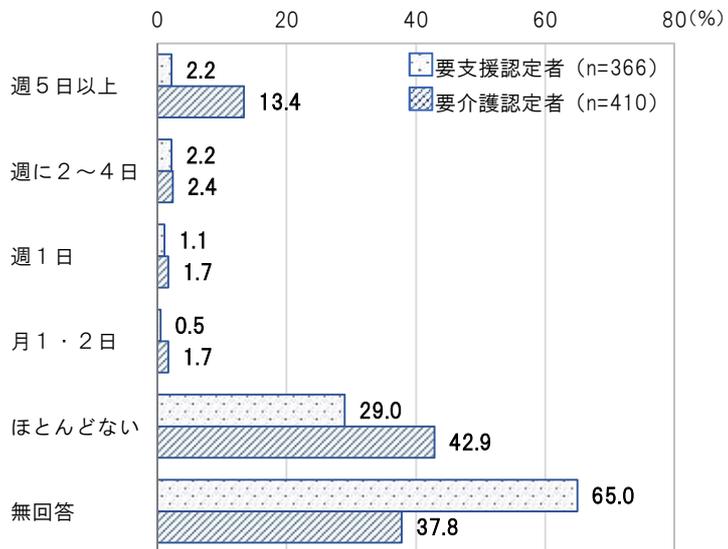


(13) 早朝や夜間に次の支援を必要とすることの有無《要支援・要介護のみ》

問 早朝や夜間に次の支援を必要とすることはありますか。その頻度はどのくらいですか。(各設問、1つに○)

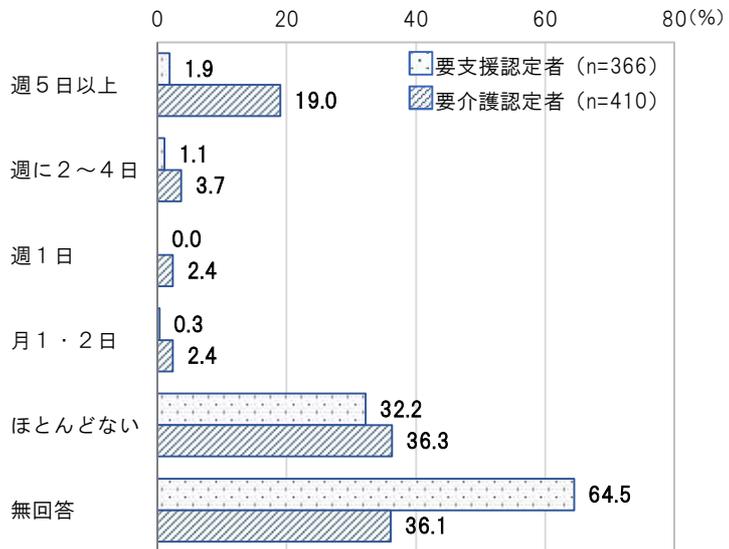
① 体位・姿勢を変える

○体位・姿勢を変えることへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が1割を超えている。



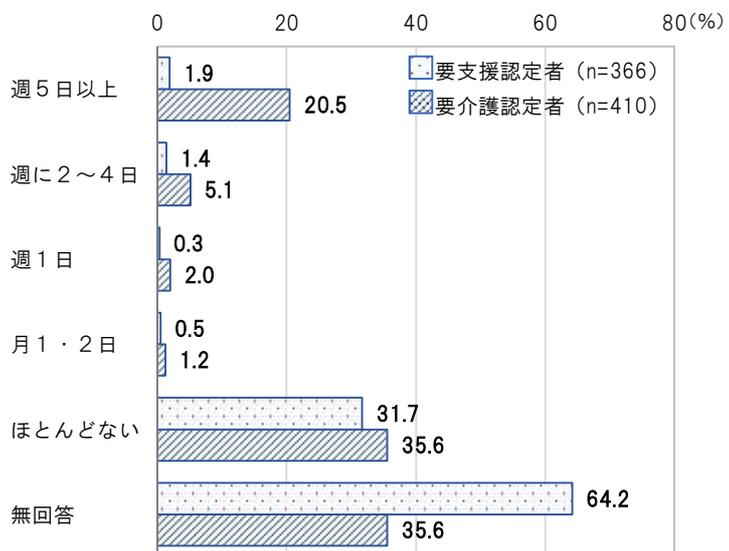
② 排泄の手助け

○排泄の手助けへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が約2割を占めている。



③ 認知症のための見守り

○認知症のための見守りへの支援の頻度は、「ほとんどない」が最も高くなっているものの、要介護認定者では「週5日以上」が約2割を占めている。

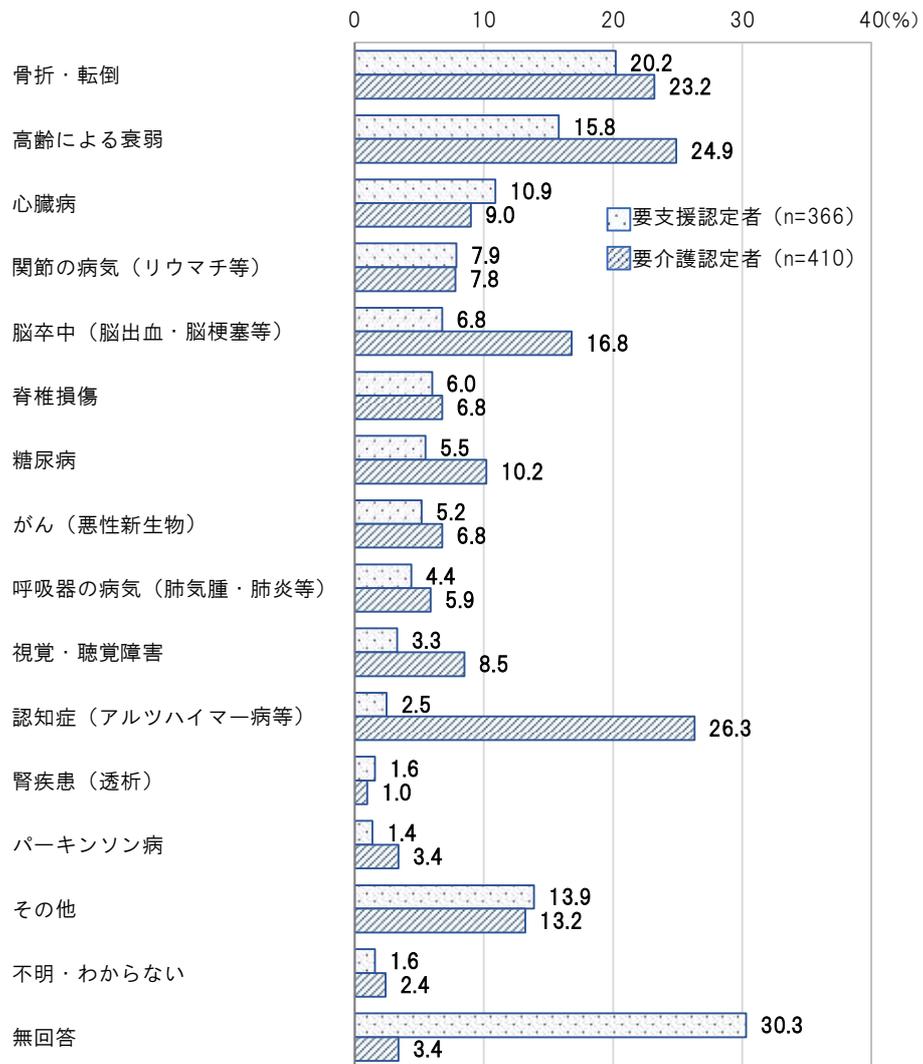


(14) 介護・介助が必要になった主な原因《要支援・要介護のみ》

問 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

○介護・介助が必要になった主な原因は、要支援認定者では「骨折・転倒」が最も高く、次いで「高齢による衰弱」、「心臓病」、「関節の病気（リウマチ等）」の順となっている。

○要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」が最も高く、次いで「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の順となっている。



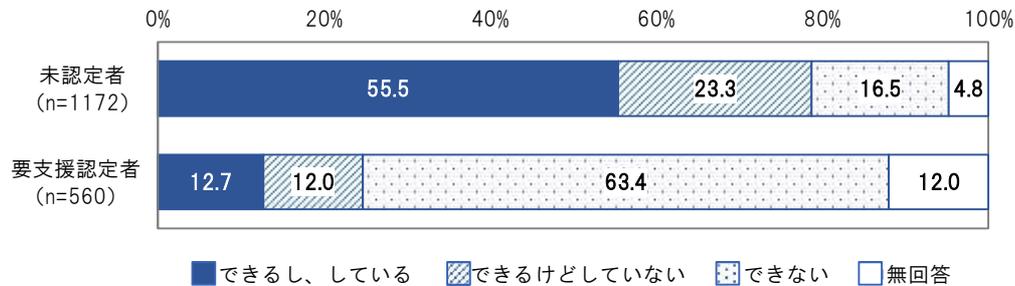
2. 体を動かすことについて

(1) 運動機能の状況《未認定・要支援のみ》

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

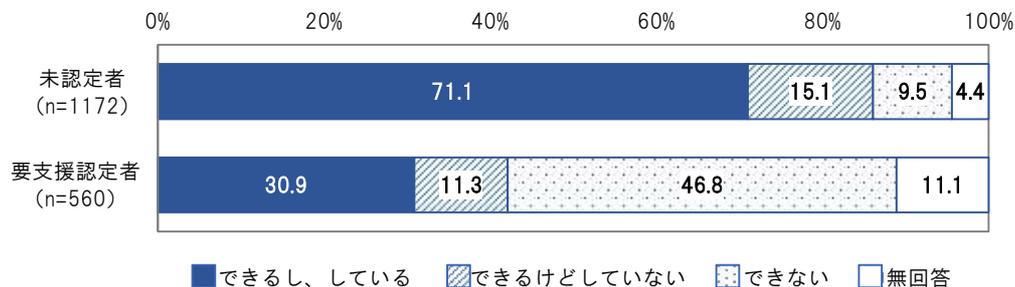
○階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかは、未認定者では「できるし、している」が半数を超えているのに対し、要支援認定者では「できない」が6割を超えて最も高くなっている。



② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

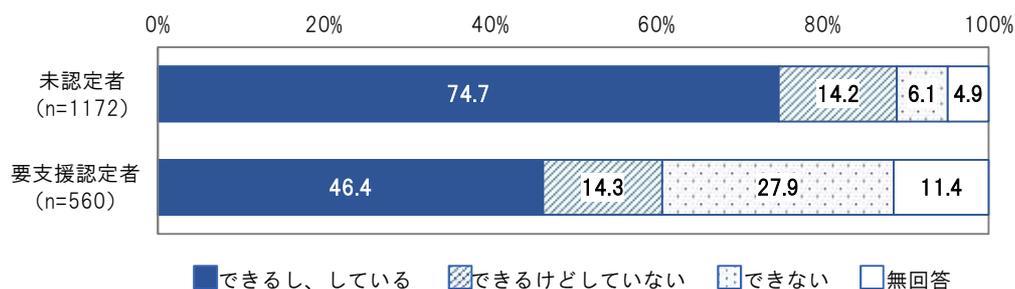
○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかは、未認定者では「できるし、している」が7割を超えているのに対し、要支援認定者では「できない」が4割を超えて最も高くなっている。



③ 15分位続けて歩いているか

問 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

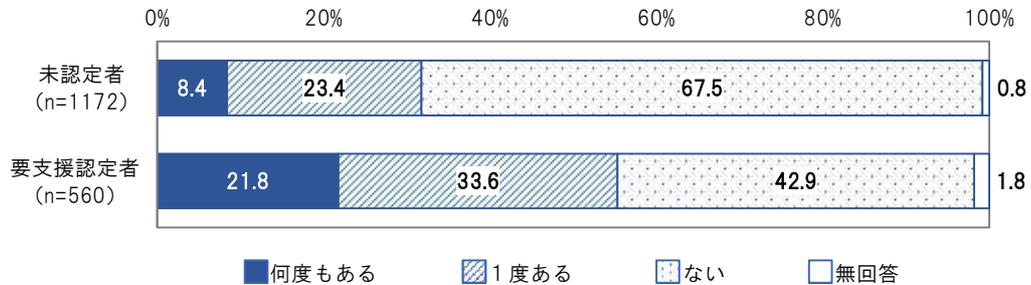
○15分位続けて歩いているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、要支援認定者では「できない」が3割近くを占め、未認定者に比べて高くなっている。



(2) 過去1年間の転倒の経験《未認定・要支援のみ》

問 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○)

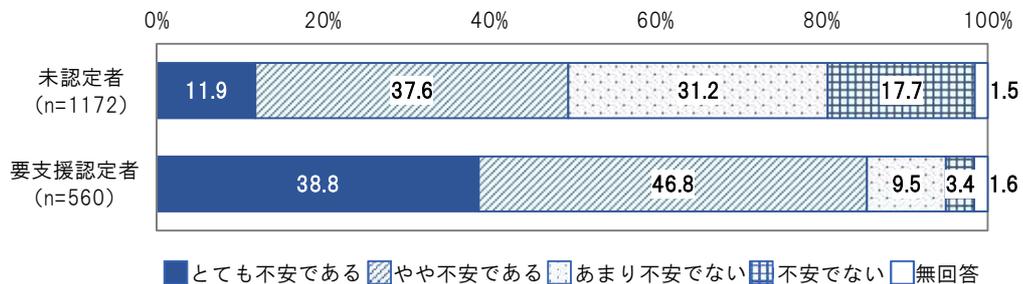
○過去1年間の転倒の経験は、未認定者・要支援認定者ともに「ない」が最も高くなっているものの、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』が、未認定者では約3割、要支援認定者では半数を超えている。



(3) 転倒に対する不安の有無《未認定・要支援のみ》

問 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○)

○転倒に対する不安の有無は、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』の割合をみると、未認定者では半数未満となっているのに対し、要支援認定者では8割を超えて高くなっている。

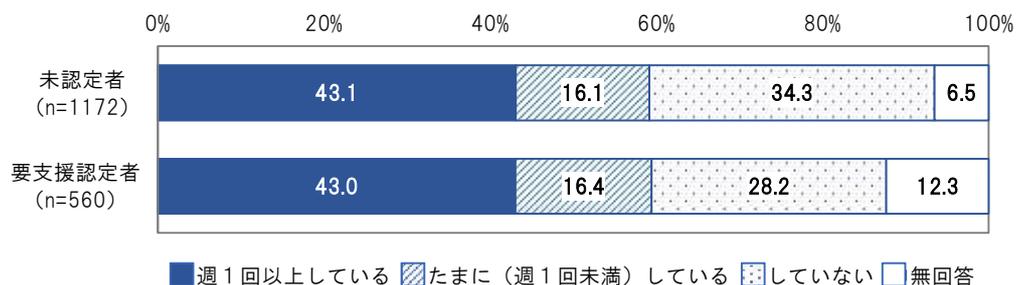


(4) 定期的な運動の状況《未認定・要支援のみ》

問 定期的に運動をしていますか。(1つに○)

○定期的な運動の状況は、未認定者・要支援認定者ともに「週1回以上している」が4割を超え、「たまに(週1回未満)している」を合わせた『している』の割合ではともに約6割を占めている。

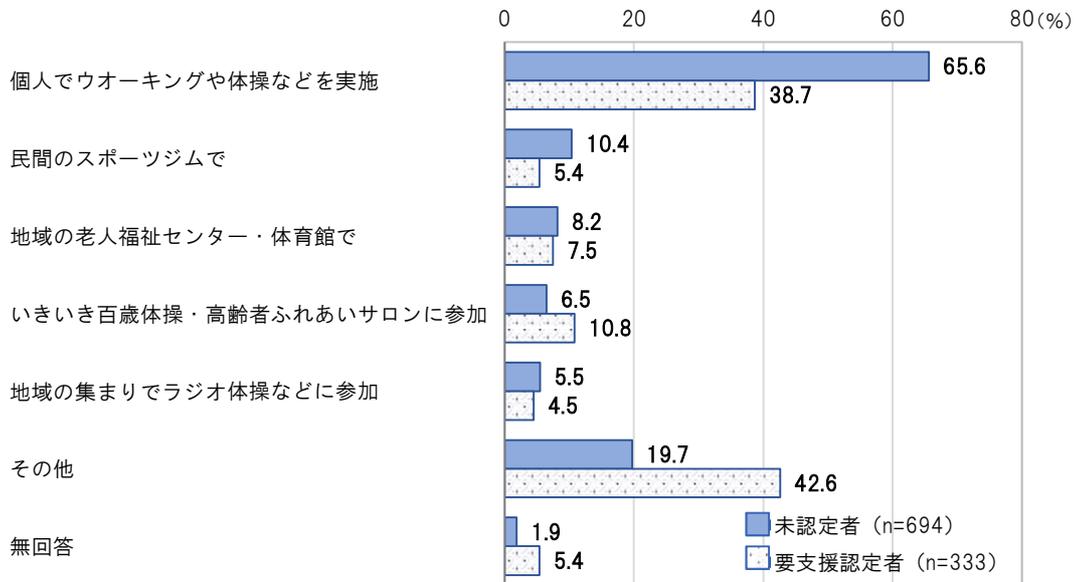
○一方で、「していない」は、未認定者で3割を超え、要支援認定者に比べてやや高くなっている。



(4-1) 運動の方法《未認定・要支援のみ》

(4) で『している』と回答した人のみ
 問 運動はどうやって行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

○運動をしている人の方法は、未認定者・要支援認定者ともに「個人でウォーキングや体操などを実施」が最も高く、次いで、未認定者では「民間のスポーツジムで」、要支援認定者では「いきいき百歳体操・高齢者ふれあいサロンに参加」が高くなっている。

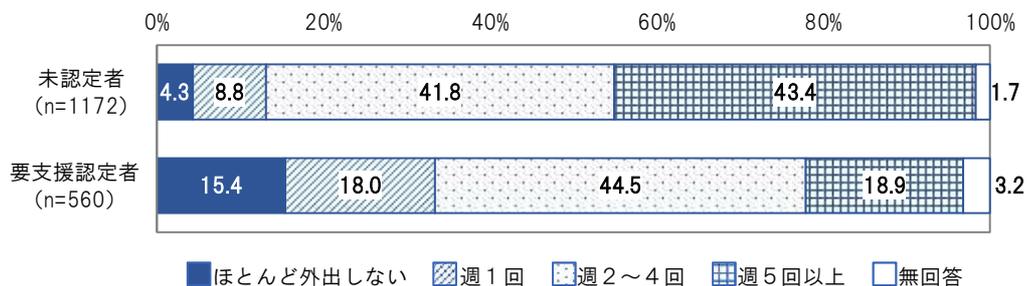


(5) 外出の頻度《未認定・要支援のみ》

問 週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

○外出の頻度は、未認定者では「週5回以上」が4割を超えて最も高く、次いで「週2～4回」、「週1回」の順となっており、『週1回以上』外出している人が9割以上を占めている。

○一方で、要支援認定者では「週2～4回」が4割を超えて最も高く、『週1回以上』外出している人は8割程度となっており、「ほとんど外出しない」が1割を超えている。

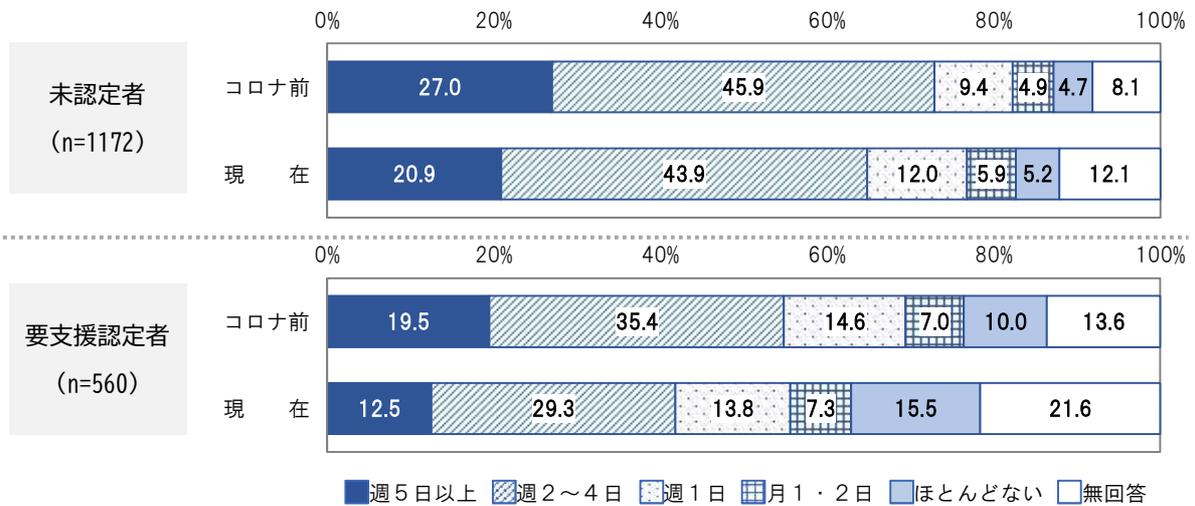


(6) 新型コロナウイルス感染症による外出頻度の変化《未認定・要支援のみ》

問 あなたの、新型コロナウイルス感染症の拡大前と現在における外出の頻度について、以下のそれぞれの目的ごとにお答えください。(各項目、1つに○)

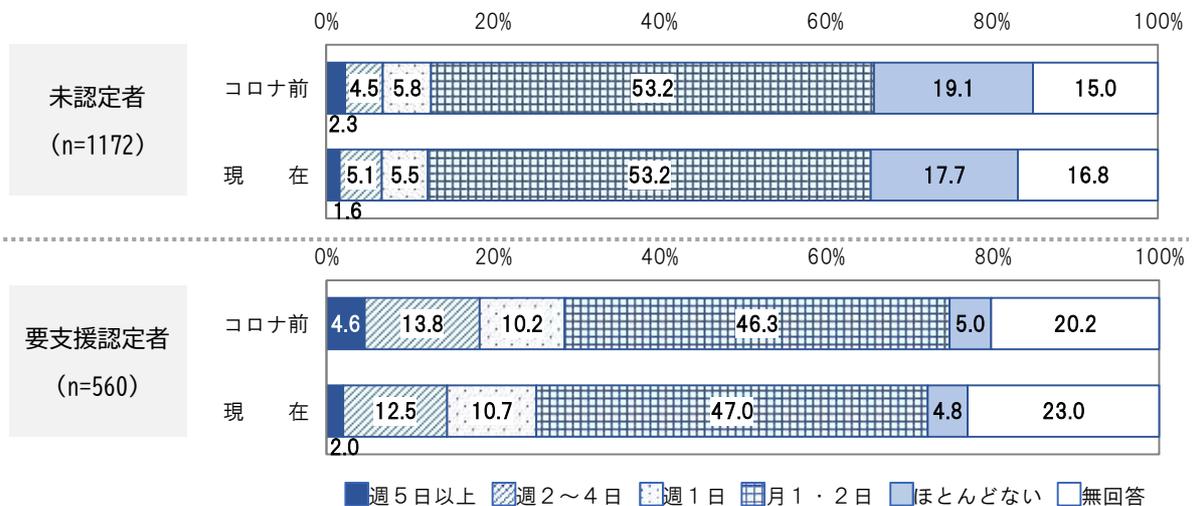
① 買い物

○買い物での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前では『週1日以上』（「週5日以上」+「週2～4日」+「週1日」）が8割を超えていたのに対し、現在では8割未満となっている。
 ○要支援認定者は、コロナ感染症拡大前では『週1日以上』が約7割であったのに対し、現在では約半数となっており、未認定者に比べて要支援認定者で新型コロナウイルス感染症の影響が大きい結果となっている。



② 通院

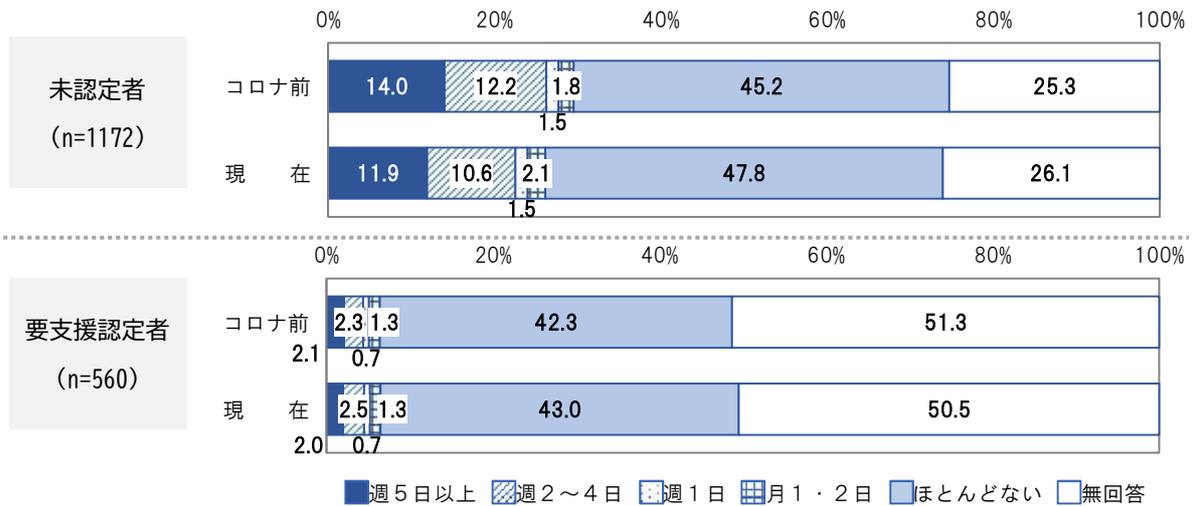
○通院での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前・現在ともに「月1・2日」が半数を超えて最も高く、ほぼ同様の傾向となっている。
 ○要支援認定者は、コロナ感染症拡大前では『週1日以上』がやや減少しており、新型コロナウイルス感染症による通院控えがややみられる結果となっている。



③ 就労

○就労での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前では『週1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」）が3割近くとなっていたのに対し、現在では2割程度とやや頻度が少なくなっている。

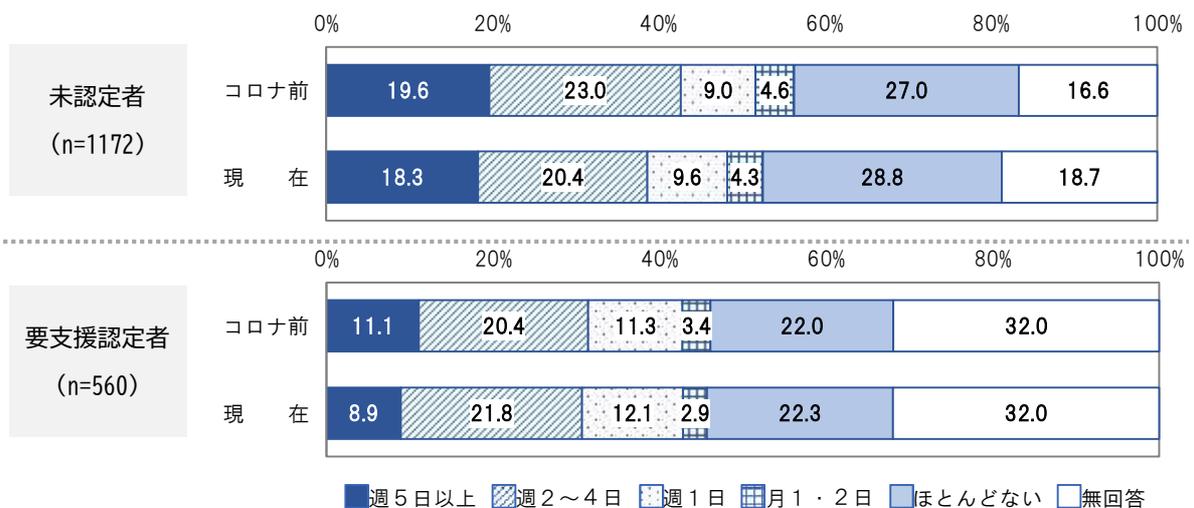
○要支援認定者は、コロナ感染症拡大前・現在ともに「ほとんどない」が大半を占め、就労している人が少ないことから、新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな影響はみられない。



④ 運動

○運動での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前では『週1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」）が半数以上となっていたのに対し、現在では半数未満とやや頻度が少なくなっている。

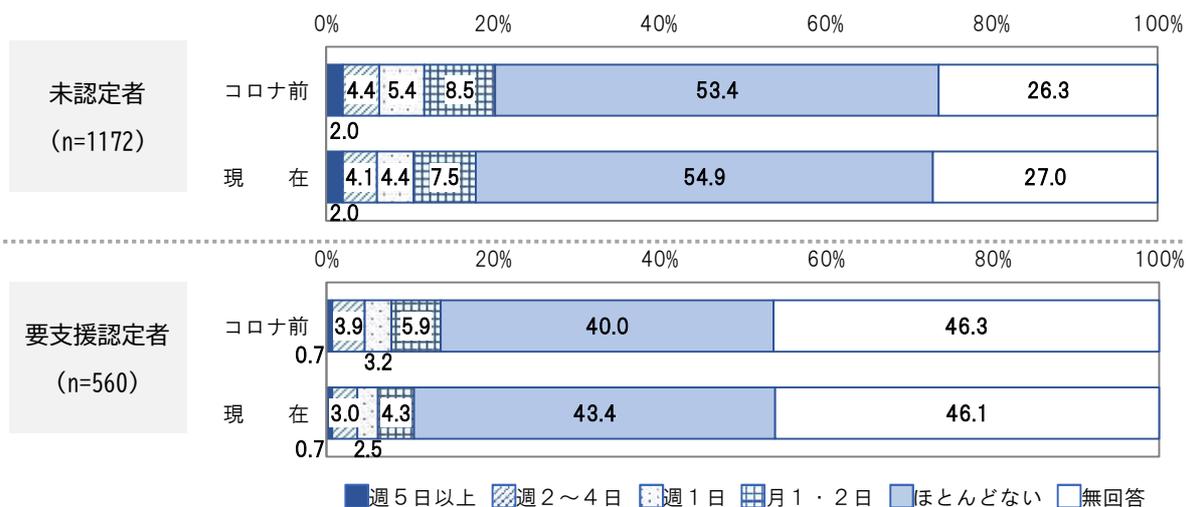
○要支援認定者は、コロナ感染症拡大前・現在ともに『週1日以上』は4割程度となっており、新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな影響はみられない。



⑤ 教養活動

○教養活動での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前・現在ともに「ほとんどない」が半数を超えて最も高くなっている。『月1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」＋「月1・2日」）がコロナ感染症拡大前では約2割となっていたのに対し、現在では2割未満とやや頻度が少なくなっている。

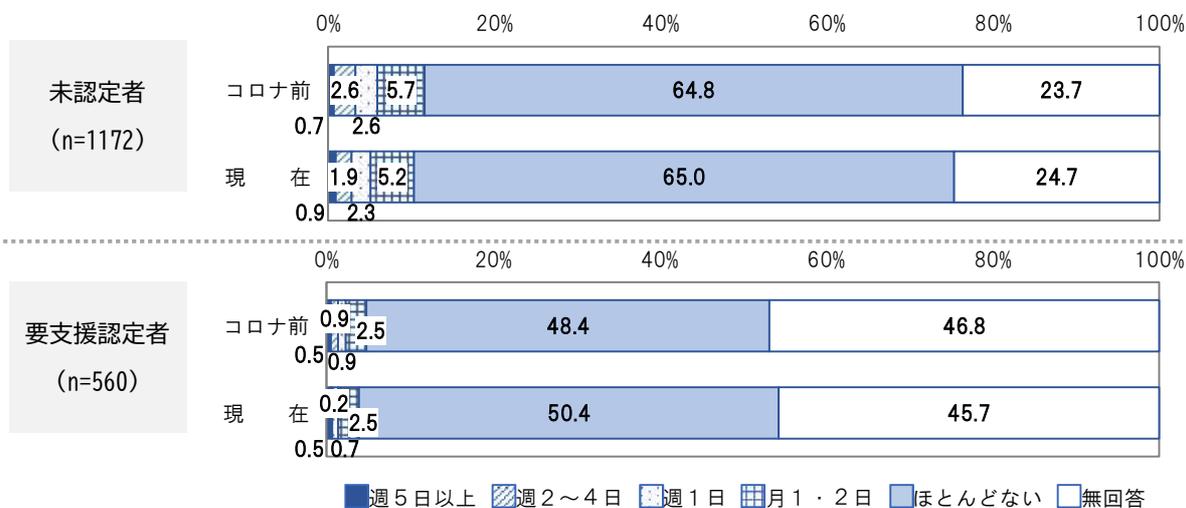
○要支援認定者においても同様に、「ほとんどない」が最も高くなっている。『月1日以上』がコロナ感染症拡大前では1割を超えていたのに対し、現在では約1割とやや頻度が少なくなっている。



⑥ ボランティア活動

○ボランティア活動での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前・現在ともに「ほとんどない」が6割を超えて最も高くなっており、新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな影響はみられない。

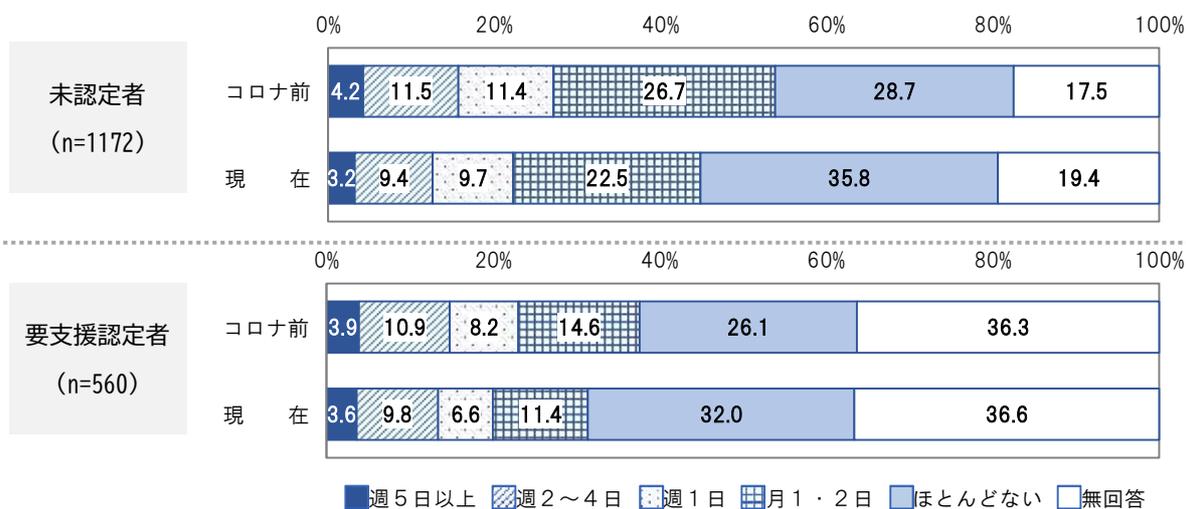
○要支援認定者においても同様に、「ほとんどない」が最も高く、新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな影響はみられない。



⑦ 友人との交流

○友人との交流での外出の頻度は、未認定者は、コロナ感染症拡大前では『月1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」＋「月1・2日」）が半数以上になっていたのに対し、現在では4割程度と頻度が少なくなっている。

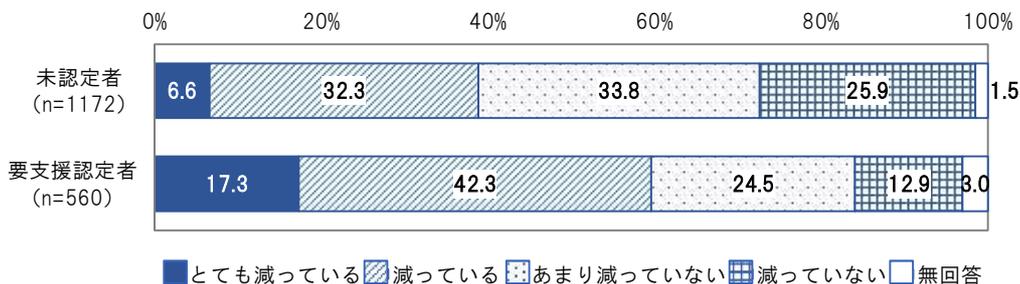
○要支援認定者は、『月1日以上』がコロナ感染症拡大前では4割近くとなっていたのに対し、現在では約3割と頻度が少なくなっている。



(7) 昨年と比べた外出回数の増減《未認定・要支援のみ》

問 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○)

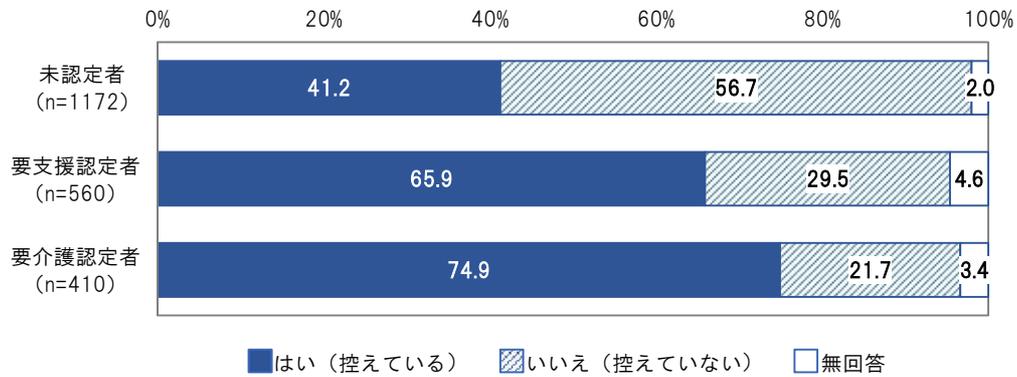
○昨年と比べた外出回数の増減は、未認定者では「あまり減っていない」が最も高く、「減っていない」と合わせた『減っていない』が6割近くを占めているのに対し、要支援認定者では「減っている」が4割を超えて最も高く、「とても減っている」と合わせた『減っている』が約6割を占めている。



(8) 外出控えの状況

問 外出を控えていますか。(1つに○)

○外出控えの状況では、未認定者では「いいえ (控えていない)」が半数を超え、「はい (控えている)」を上回っているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「はい (控えている)」が「いいえ (控えていない)」を上回っている。

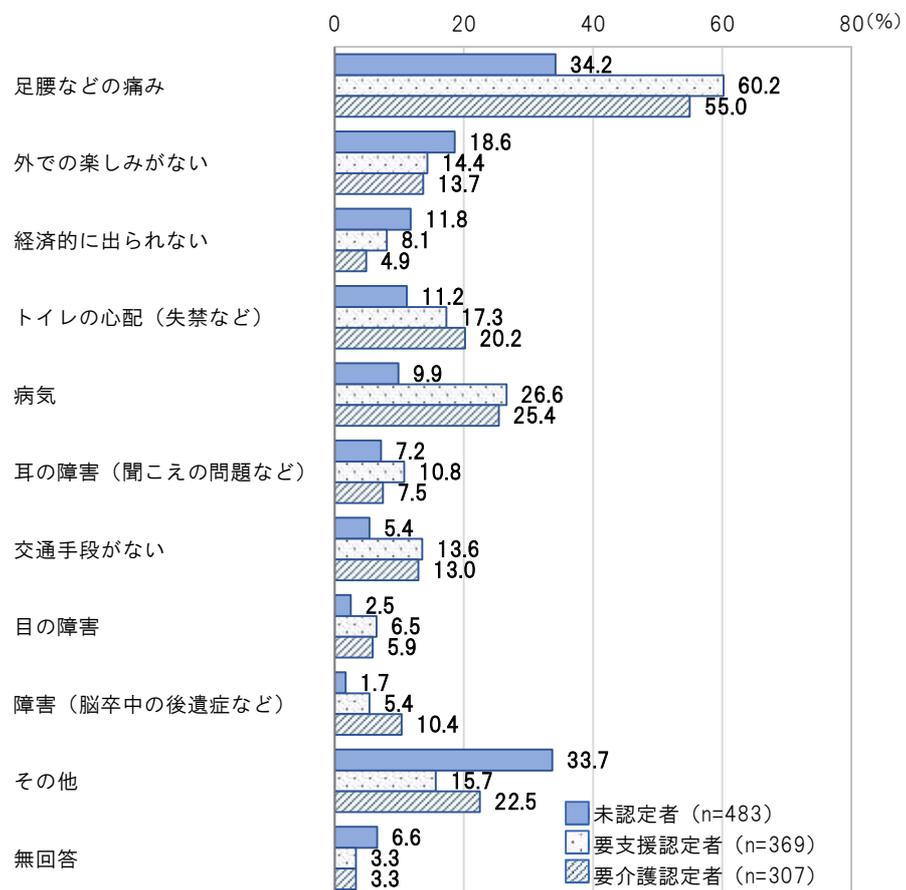


(8-1) 外出を控えている理由

(8)で「はい (控えている)」と回答した人のみ

問 外出を控えている理由は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

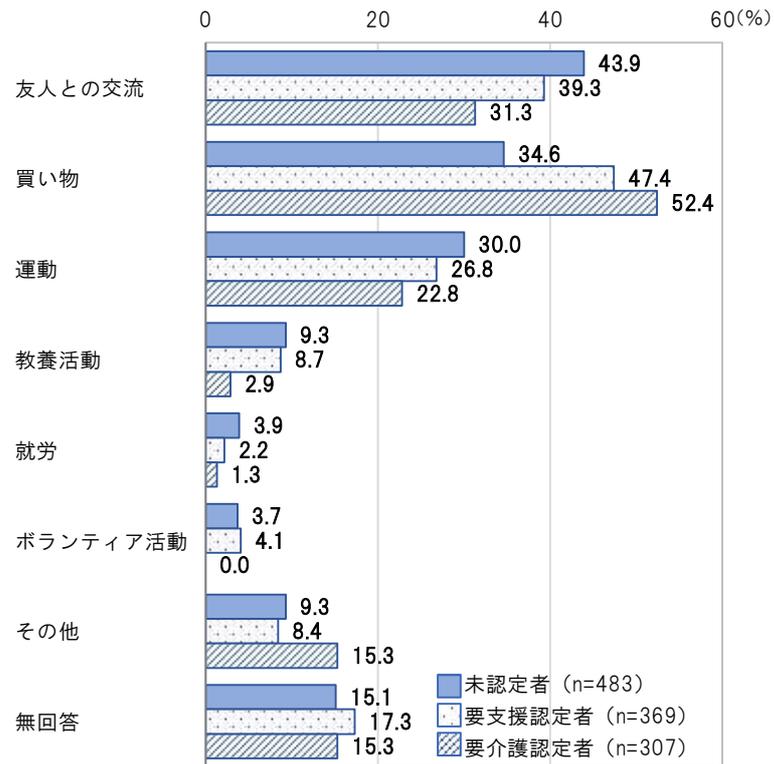
○外出を控えている理由は、すべての区分で「足腰などの痛み」が最も高くなっているものの、次いで、未認定者では「外での楽しみがない」、要支援認定者・要介護認定者では「病気」や「トイレの心配 (失禁など)」などが高くなっている。



(8-2) 外出機会を得たら実施したいこと

(8) で「はい(控えている)」と回答した人のみ
 問 外出を控えている事情を解消できて、機会を増やせるとしたら何をしたいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

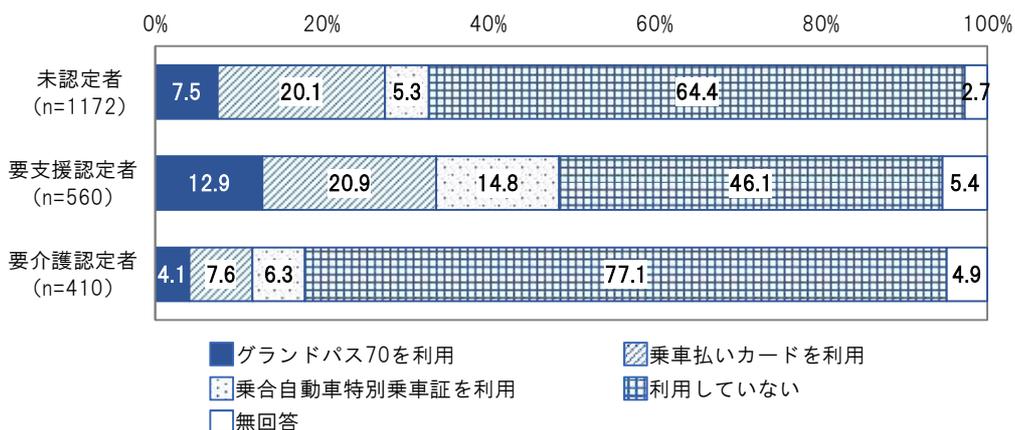
○外出機会を得たら実施したいことは、未認定者では「友人との交流」が最も高く、次いで「買い物」、「運動」の順となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「買い物」が最も高く、次いで「友人との交流」、「運動」の順となっている。



(9) 市助成のバス券の利用状況

問 あなたは市の助成を受けてバス券を利用していますか。(1つに○)

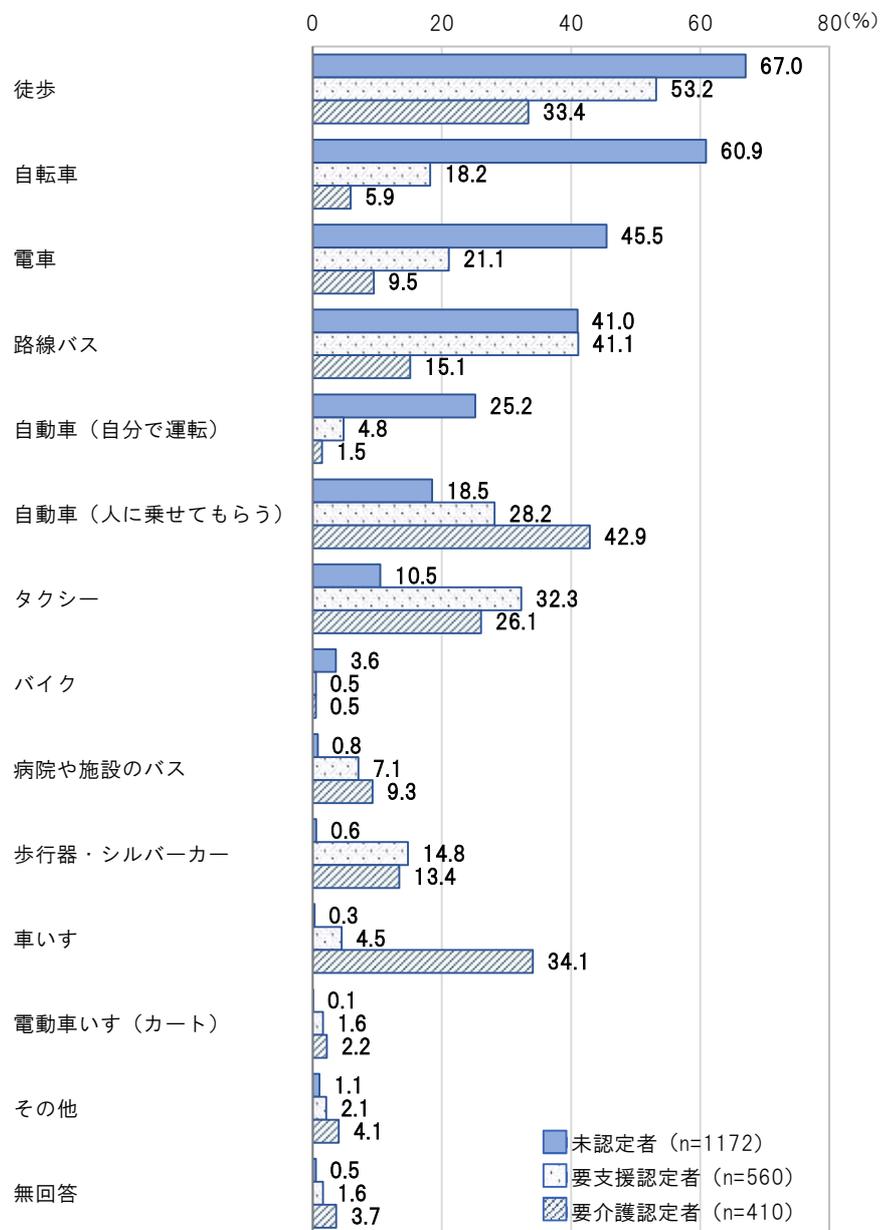
○市助成のバス券の利用状況では、すべての区分で「利用していない」が最も高くなっているものの、要支援認定者では半数近くが利用している結果となっている。
 ○市助成のバス券を利用している人では、「乗車払いカードを利用」が最も高く、特に未認定者・要支援認定者ではともに約2割を占めている。



(10) 外出の際の移動手段

問 現在外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

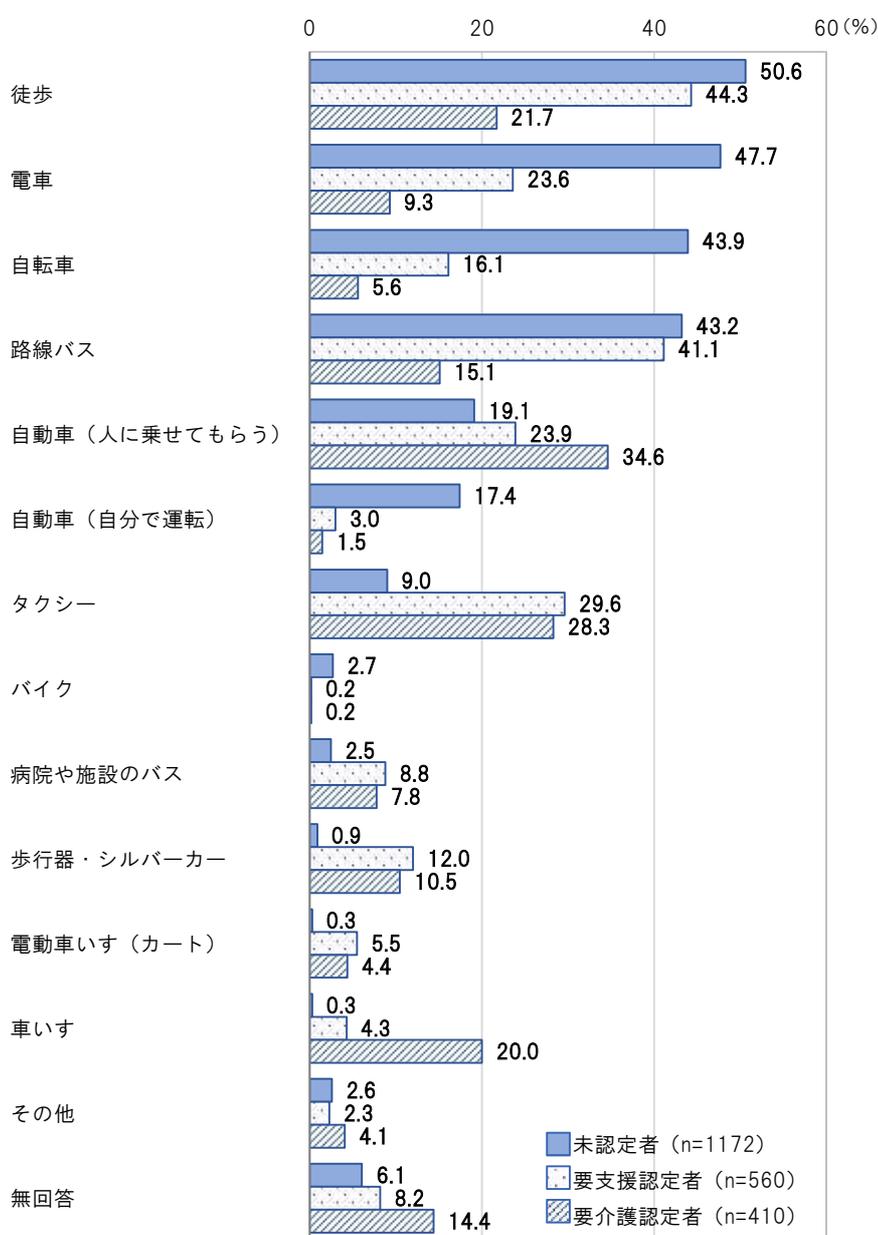
- 外出の際の移動手段は、未認定者・要支援認定者では「徒歩」が最も高く、次いで、未認定者では「自転車」、「電車」、「路線バス」の順となっているのに対し、要支援認定者では「路線バス」、「タクシー」、「自動車（人に乗せてもらう）」の順となっている。
- また、要介護認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が4割を超えて最も高く、次いで「車いす」、「徒歩」、「タクシー」の順となっている。
- 介護度が高くなるにつれて「自動車（人に乗せてもらう）」や「病院や施設のバス」、「車いす」が高くなる傾向がみられ、反対に「徒歩」や「自転車」、「電車」、「自動車（自分で運転）」では低くなる傾向がみられる。



(11) 外出を増やすために利用したい移動手段

問 今より外出頻度を増やすためには、どの移動手段を利用したいですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 外出を増やすために利用したい移動手段は、未認定者・要支援認定者では「徒歩」が最も高く、次いで、未認定者では「電車」、「自転車」、「路線バス」の順となっているのに対し、要支援認定者では「路線バス」、「タクシー」、「自動車（人に乗せてもらう）」の順となっている。
- また、要介護認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が3割を超えて最も高く、次いで「タクシー」、「徒歩」、「車いす」の順となっている。
- (10)と比べると利用している移動手段と同様の結果となっているものの、「電車」や「路線バス」などの公共交通機関の利用を望む人が多い結果となっている。

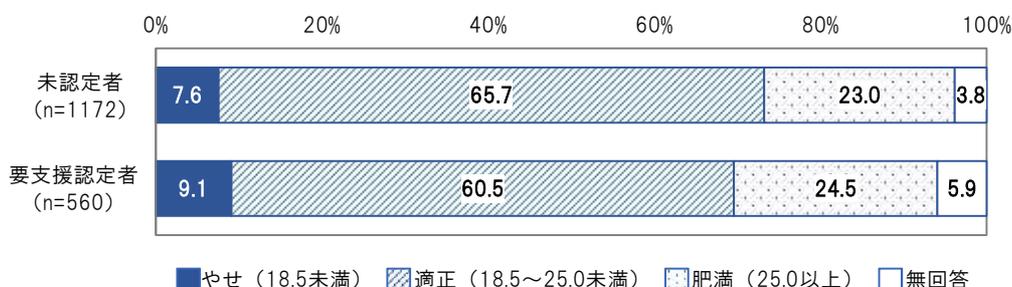


3. 食べることについて

(1) BMI (身長・体重より算出)《未認定・要支援のみ》

問 身長・体重をお答えください。

○身長・体重から算出したBMIをみると、未認定者・要支援認定者ともに「適正 (18.5~25.0 未満)」が6割を占めている。次いで「肥満 (25.0 以上)」が2割を超えて高くなっており、「やせ (18.5 未満)」は1割未満となっている。

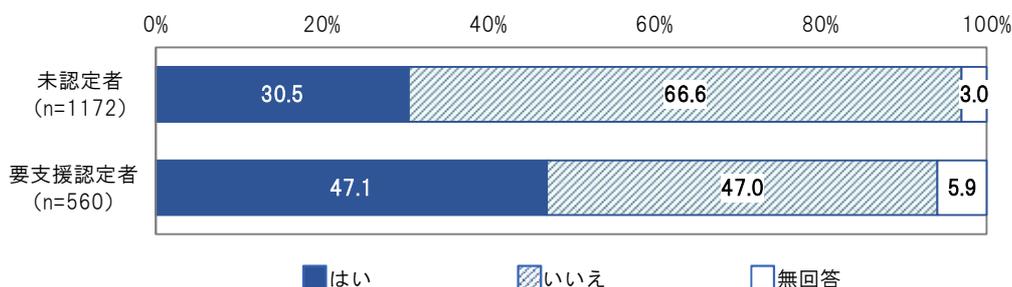


(2) 歯や栄養の状況《未認定・要支援のみ》

① 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

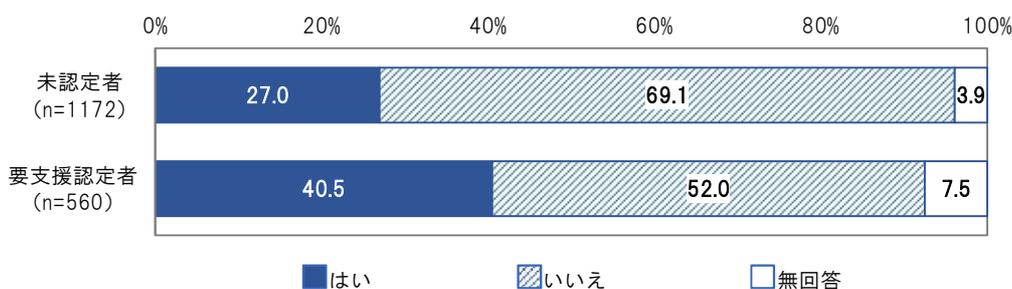
○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかは、未認定者では「いいえ」が6割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が半数近くを占めて高くなっている。



② お茶や汁物等でむせることがあるか

問 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

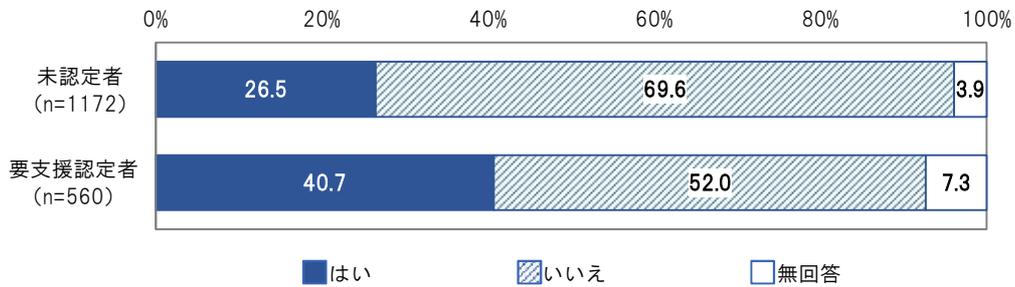
○お茶や汁物等でむせることがあるかは、未認定者では「いいえ」が約7割を占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。



③ 口の渇きが気になるか

問 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

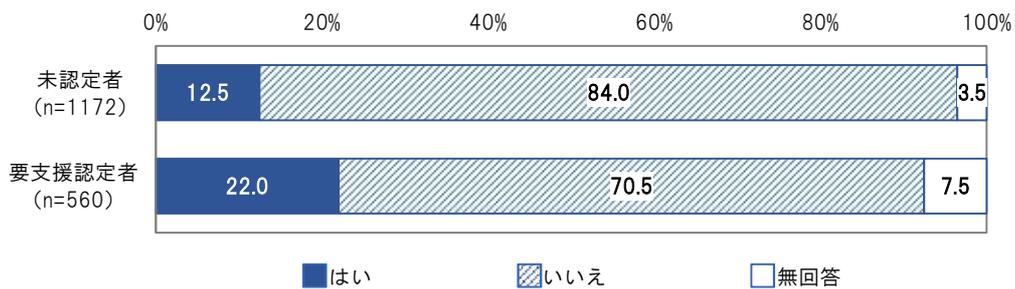
○口の渇きが気になるかは、未認定者では「いいえ」が約7割を占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。



④ 6か月間で2～3kg以上の体重減少があるか

問 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありますか。(○は1つ)

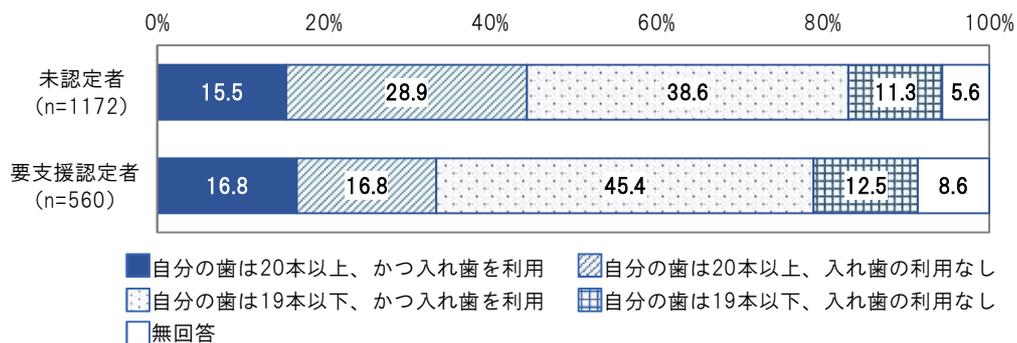
○6か月間で2～3kg以上の体重減少があるかは、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が大半を占めているものの、要支援認定者では「はい」が2割を超え、未認定者を大きく上回っている。



(3) 歯の数と入れ歯の利用状況《未認定・要支援のみ》

問 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(1つに○)
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

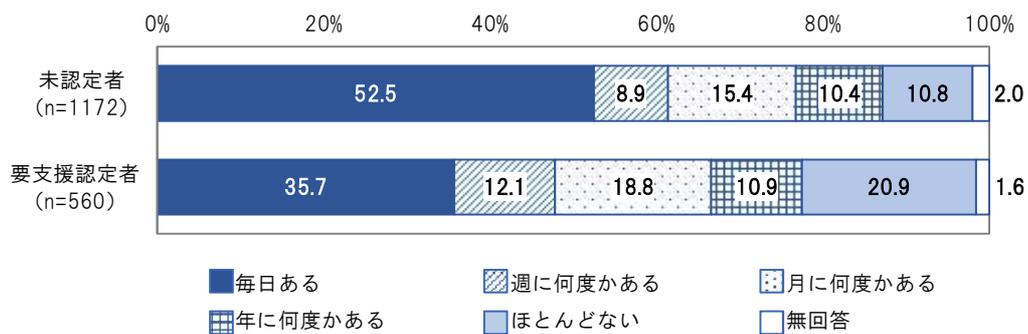
- 歯の数と入れ歯の利用状況は、未認定者・要支援認定者ともに「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高くなっている
- 「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」を合わせた『自分の歯は20本以上』が未認定者では4割を超えているのに対し、要支援認定者では3割程度となっている。



(4) 共食の状況《未認定・要支援のみ》

問 どなたかと食事をともにする機会がありますか。(1つに○)

- 共食の状況は、未認定者・要支援認定者ともに「毎日ある」が最も高くなっているものの、未認定者では半数を超えているのに対し、要支援認定者では4割未満となっている。
- また、「ほとんどない」では、要支援認定者では約2割を占め、未認定者を大きく上回っている。



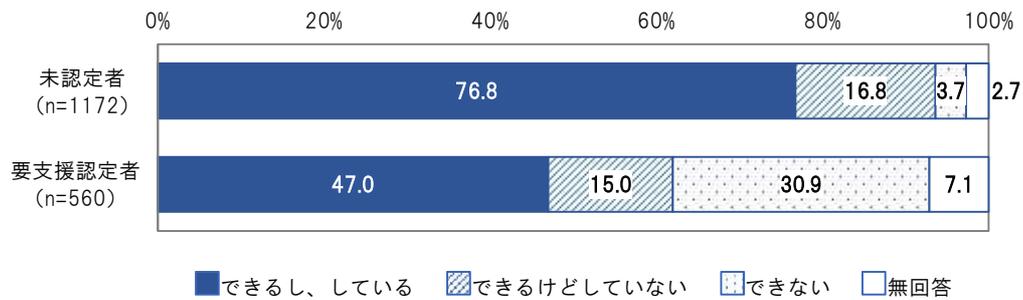
4. 毎日の生活について

(1) 日常生活の状況《未認定・要支援のみ》

① バスや電車を使って1人で外出しているか

問 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (○は1つ)

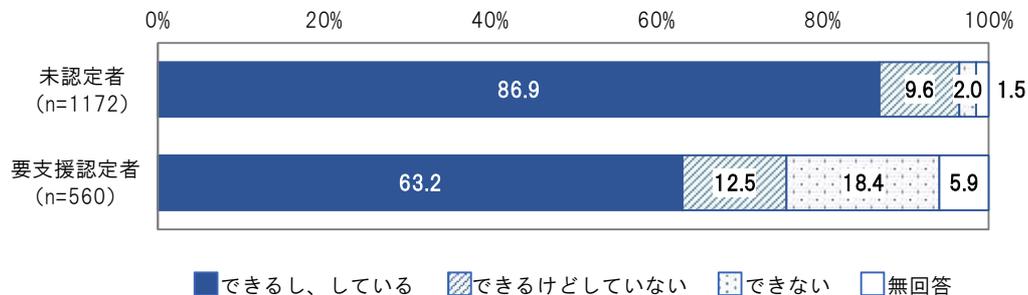
○バスや電車を使って1人で外出しているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者では半数未満となっている。また、要支援認定者では「できない」が約3割を占めている。



② 自分で食品・日用品の買物をしているか

問 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

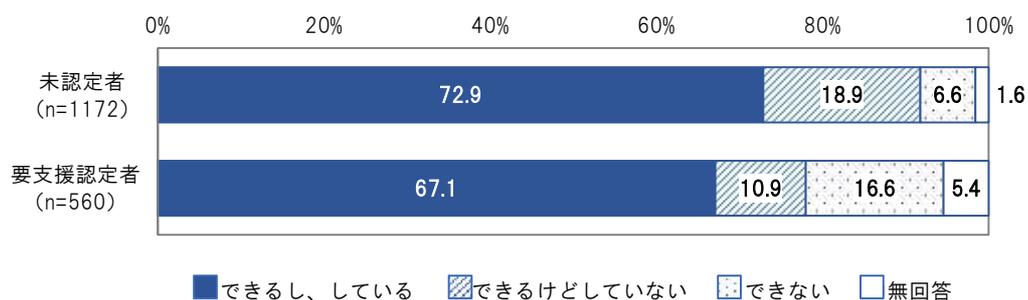
○自分で食品・日用品の買物をしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では6割程度となっている。また、要支援認定者では「できない」が2割近くを占めている。



③ 自分で食事の用意をしているか

問 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

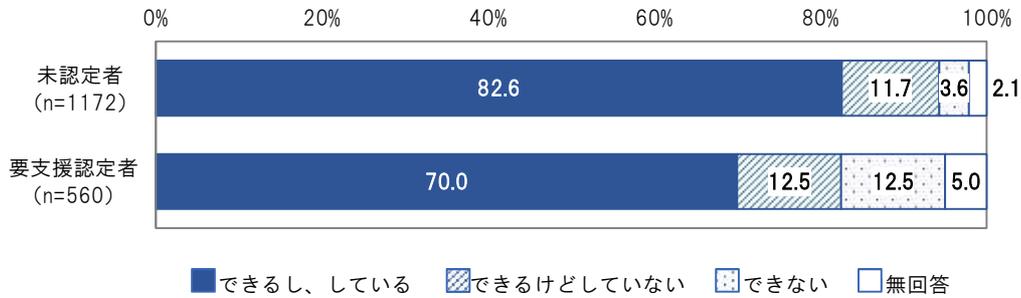
○自分で食事の用意をしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者では7割未満となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。



④ 自分で請求書の支払いをしているか

問 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

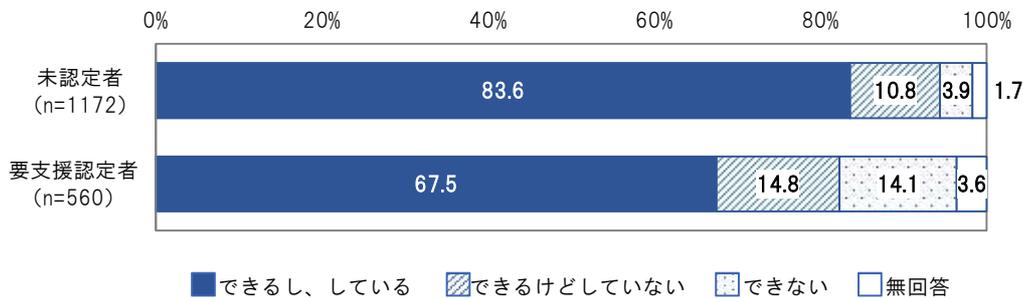
○自分で請求書の支払いをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では約7割となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。



⑤ 自分で預貯金の出し入れをしているか

問 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

○自分で預貯金の出し入れをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「できるし、している」が最も高くなっているものの、未認定者では8割を超えているのに対し、要支援認定者では7割未満となっている。また、要支援認定者では「できない」が1割を超えている。

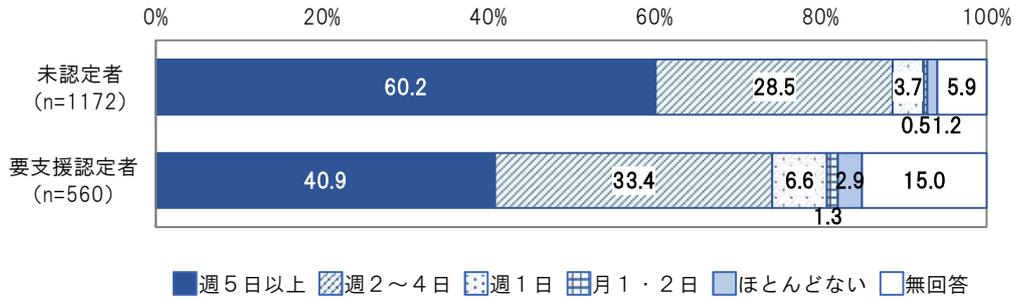


(2) 入浴の場所と頻度《未認定・要支援のみ》

問 あなたの入浴の場所と頻度について、お答えください。(各項目、1つに○)

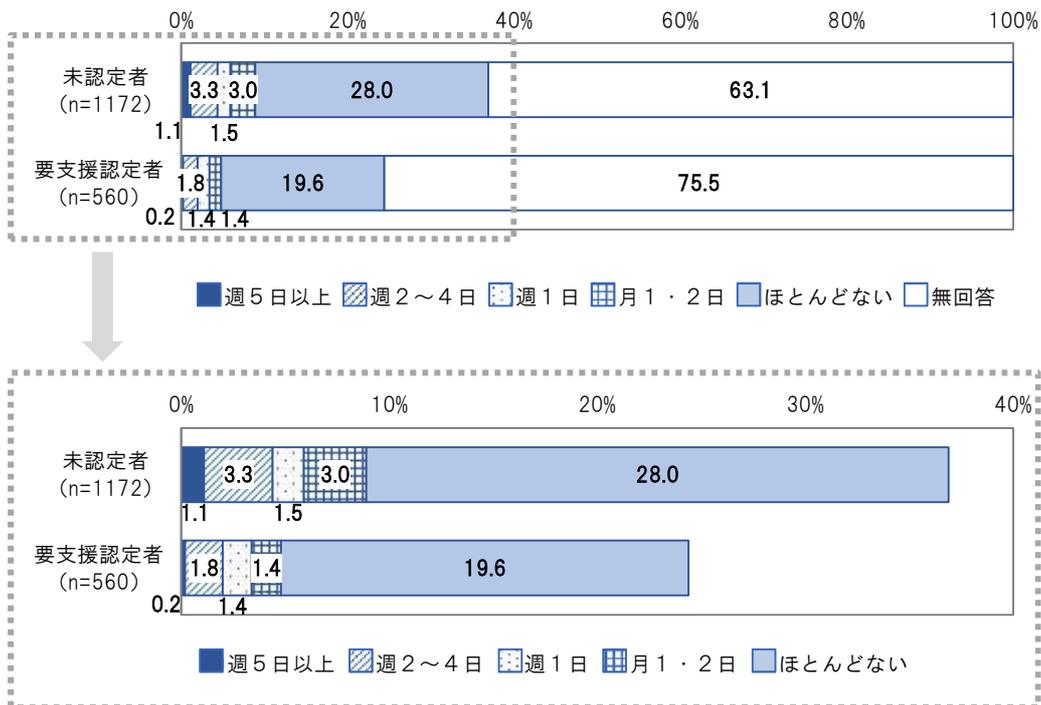
① 自宅で

○自宅での入浴頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「週5日以上」が最も高くなっているものの、未認定者では約6割を占めているのに対し、要支援認定者では約4割となっている。



② 銭湯で

○銭湯での入浴頻度は、未認定者・要支援認定者ともに『月1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」＋「月1・2日」）が1割未満となっており、要支援認定者の頻度がより少なくなっている。



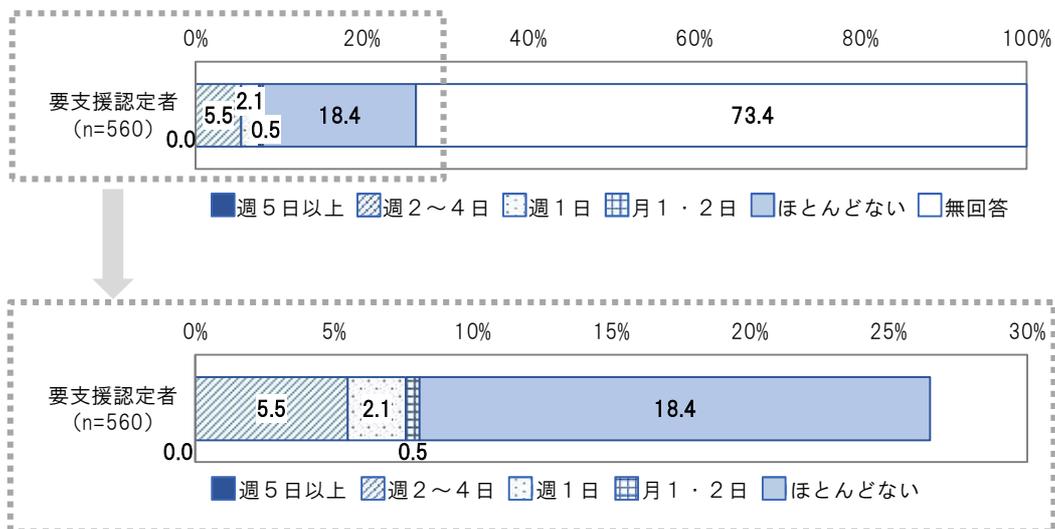
③ 自宅で（訪問入浴等の支援を受けながら）《要支援のみ》

○要支援認定者の訪問入浴等の支援を受けながら自宅での入浴頻度は、『月1日以上』（「週5日以上」＋「週2～4日」＋「週1日」＋「月1・2日」）が3.2%となっている。



④ 介護施設で《要支援のみ》

○要支援認定者の介護施設での入浴頻度は、『月1日以上』（「週2～4日」＋「週1日」＋「月1・2日」）が1割近くとなっている。

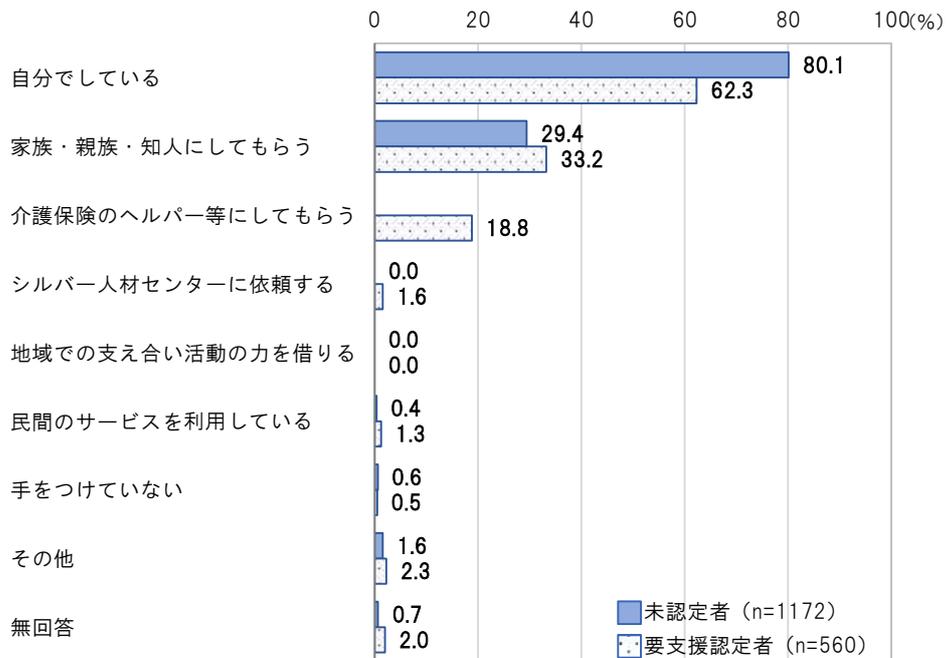


(3) 家事を主にしている人《未認定・要支援のみ》

問 家事をどうされているかについてお答えください。(各設問、あてはまるものすべてに○)

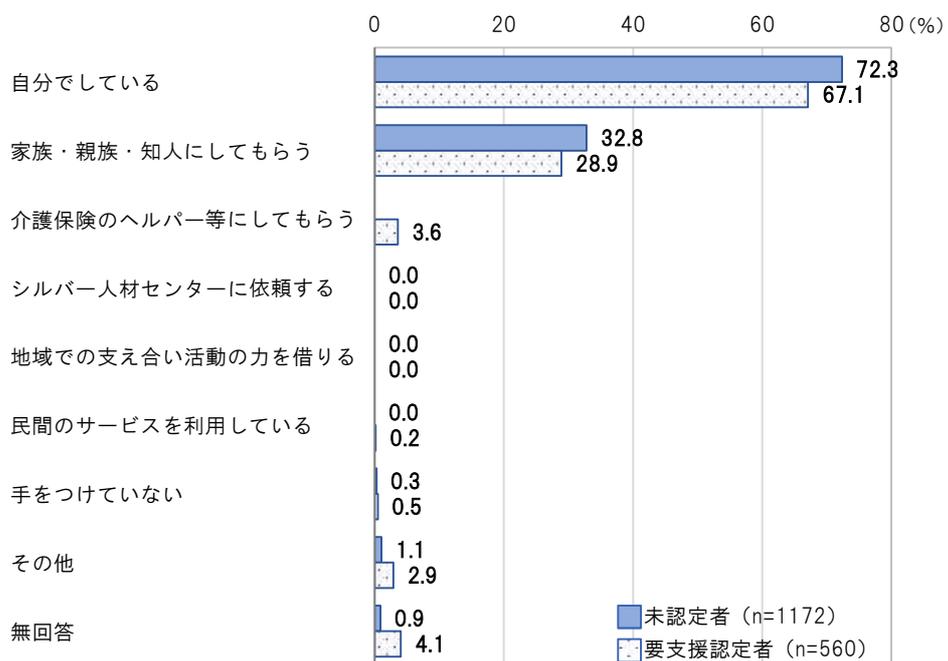
① 掃除

○掃除をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで、「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にしてもらおう」が2割近くを占めている。



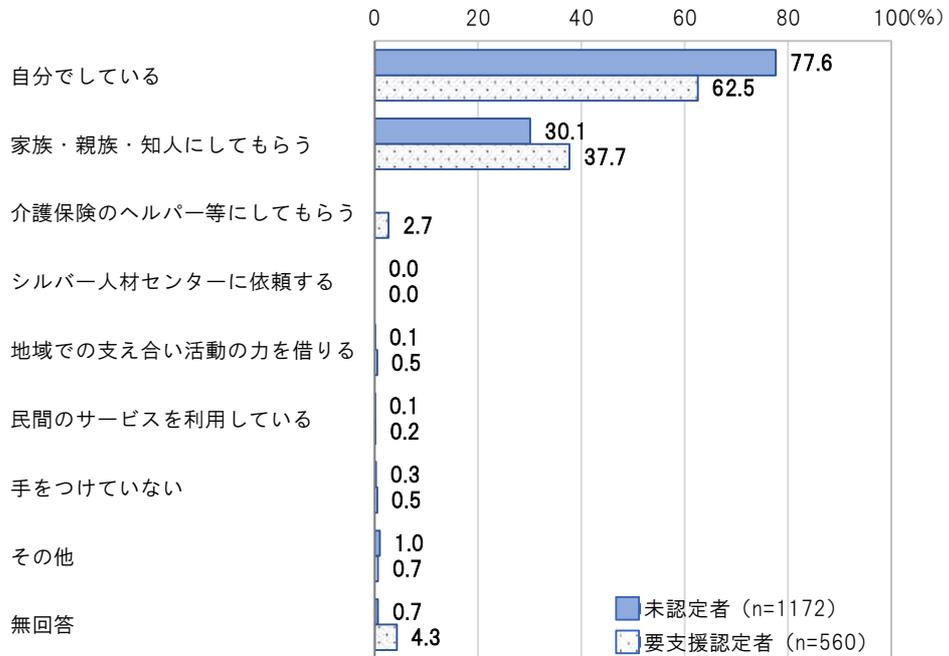
② 洗濯

○洗濯をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで、「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にしてもらおう」が3.6%となっているが、未認定者・要支援認定者で大きな差異はみられない。



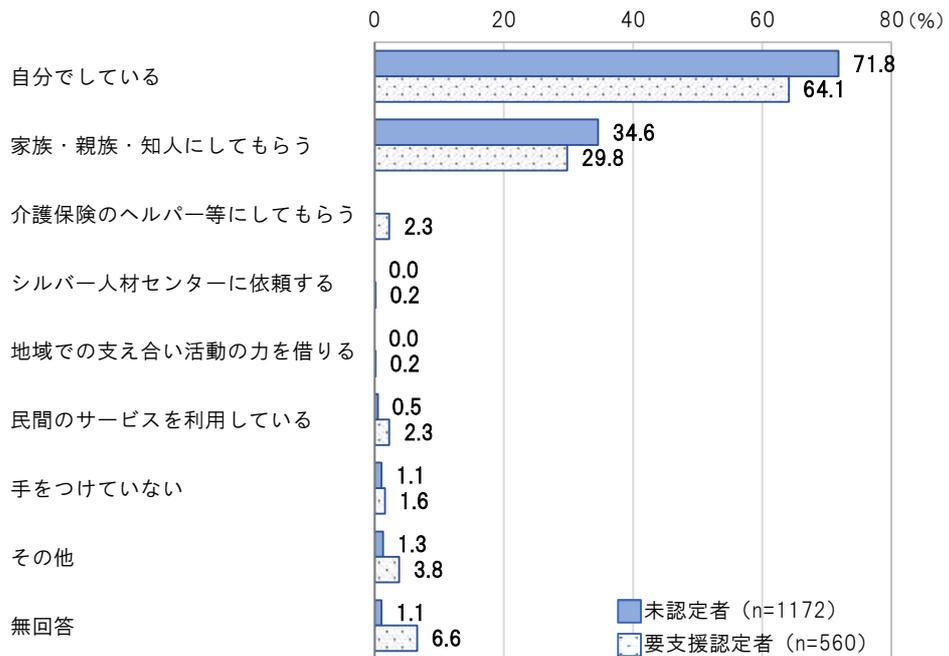
③ ごみ出し

- ごみ出しをしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで、「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。
- 「家族・親族・知人にしてもらおう」では、要支援認定者が4割近くを占め、未認定者を上回っている。



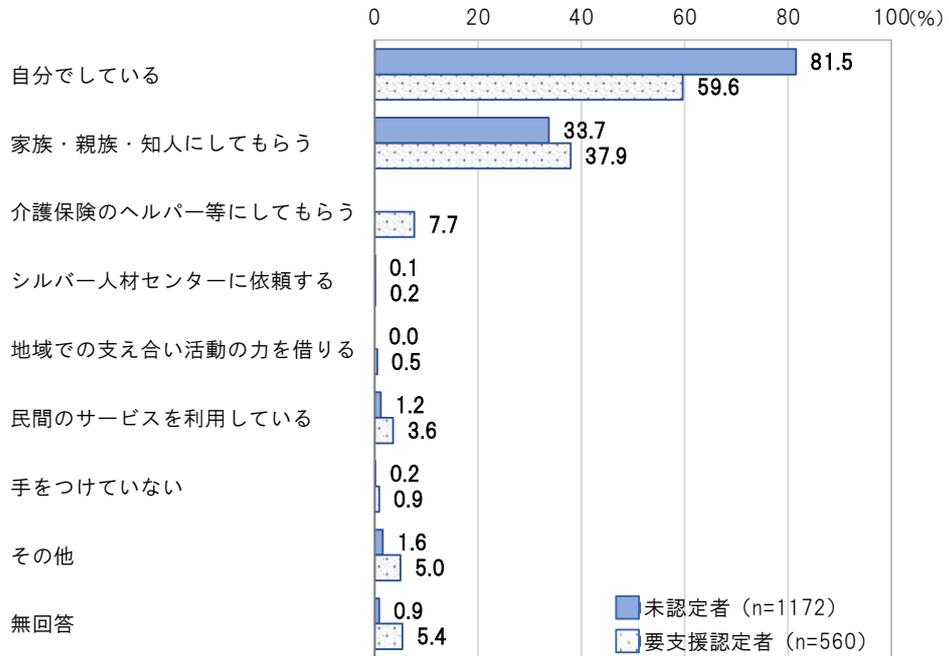
④ 調理

- 調理をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで、「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にしてもらおう」が2.3%となっているが、未認定者・要支援認定者で大きな差異はみられない。



⑤ 買い物

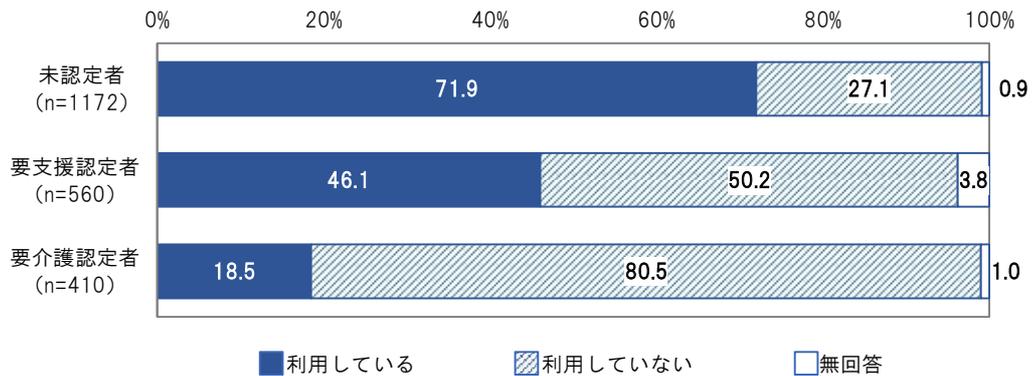
○買い物をしている人は、未認定者・要支援認定者ともに「自分でしている」が最も高く、次いで、「家族・親族・知人にしてもらおう」となっている。要支援認定者では「介護保険のヘルパー等にしてもらおう」が1割近くを占めている。



(4) スマートフォンやタブレット、パソコンの利用状況

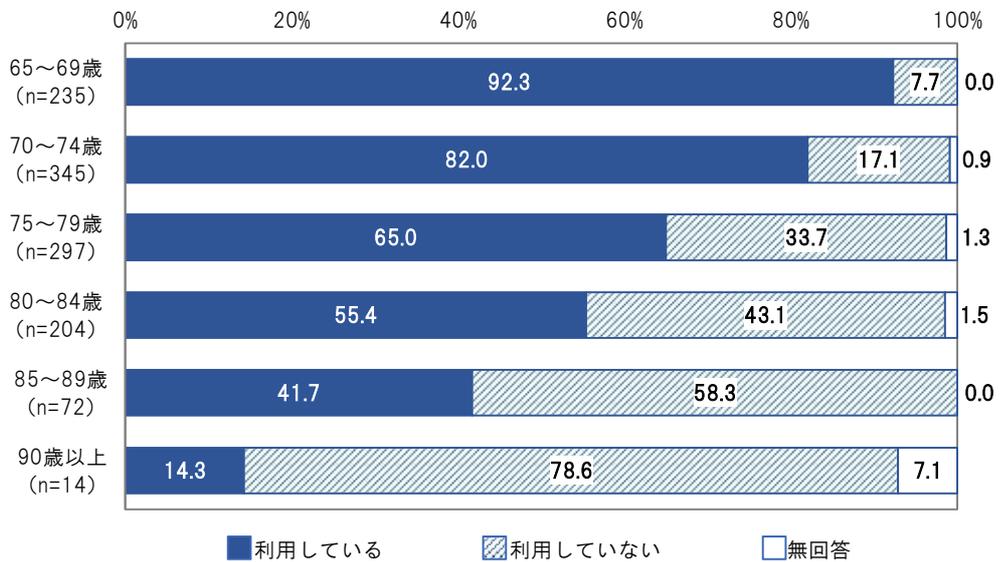
問 日常生活でスマートフォンやタブレット、パソコンなどを利用していますか。(1つに○)

○スマートフォンやタブレット、パソコンの利用状況では、未認定者では「利用している」が7割を超え、「利用していない」を上回っているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「利用していない」が「利用している」を上回っている。特に、要介護認定者では「利用している」は2割未満と低くなっている。



《年齢別 (未認定者)》

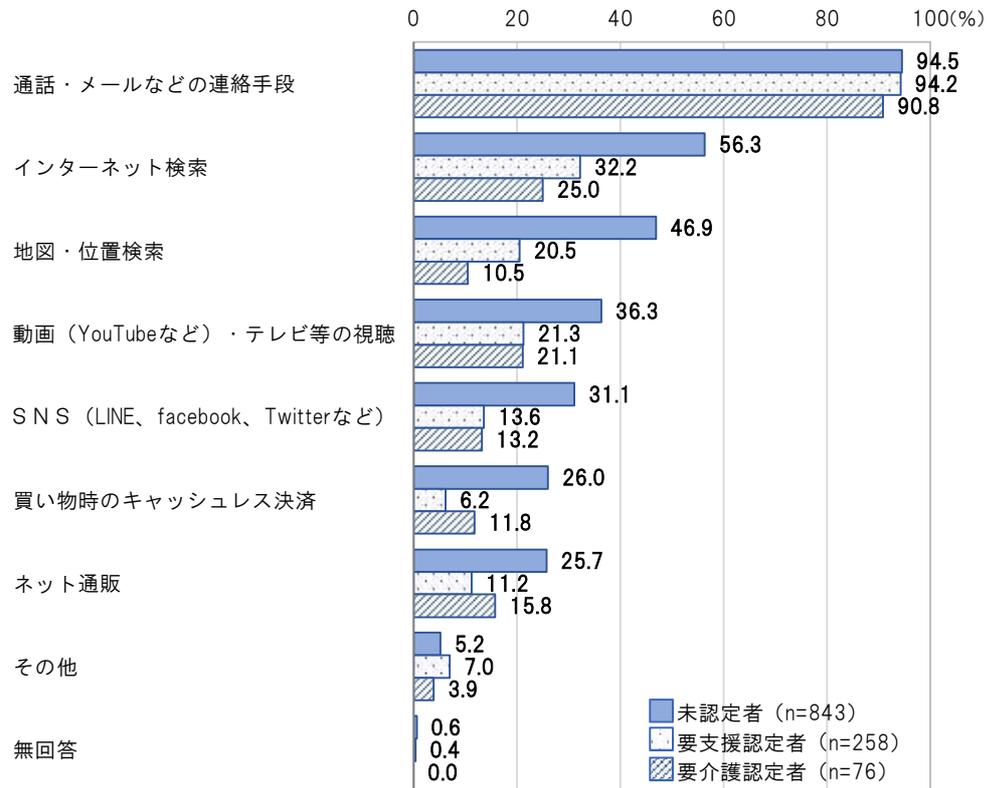
○未認定者での利用状況を年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用している」が高くなっており、特に65～69歳では9割以上の利用率となっている。



(4-1) スマートフォンやタブレット、パソコンの利用内容

(4) で「利用している」と回答した人のみ
 問 どのようなことに利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

- スマートフォンやタブレット、パソコンの利用内容は、すべての区分で「通話・メールなどの連絡手段」が9割を超えて最も高くなっている。
- 次いで、未認定者では「インターネット検索」、「地図・位置検索」、「動画 (YouTube など) ・テレビ等の視聴」の順となっており、「通話・メールなどの連絡手段」以外の項目では未認定者の利用割合が高くなっている。



《年齢別 (未認定者)》

- 未認定者での利用内容を年齢別にみると、すべての項目で年齢が下がるほど割合が高くなる傾向がみられる。また、SNSの利用では、80歳を境として利用率に大きな差異がみられる。

		回答者数 (人)	通話・メールなどの連絡手段	インターネット検索	地図・位置検索	動画・テレビ等の視聴	SNS	買い物時のキャッシュレス決済	ネット通販	その他	無回答
年代別	65～69歳	217	96.8	76.0	56.7	56.7	44.2	37.8	45.2	3.2	-
	70～74歳	283	93.6	58.0	53.0	38.2	32.5	27.2	27.6	4.9	0.7
	75～79歳	193	94.8	45.1	42.5	23.3	24.9	18.7	10.9	5.2	1.0
	80～84歳	113	94.7	39.8	27.4	18.6	16.8	15.9	12.4	8.8	-
	85～89歳	30	83.3	33.3	26.7	23.3	16.7	13.3	16.7	10.0	3.3
	90歳以上	2	100.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

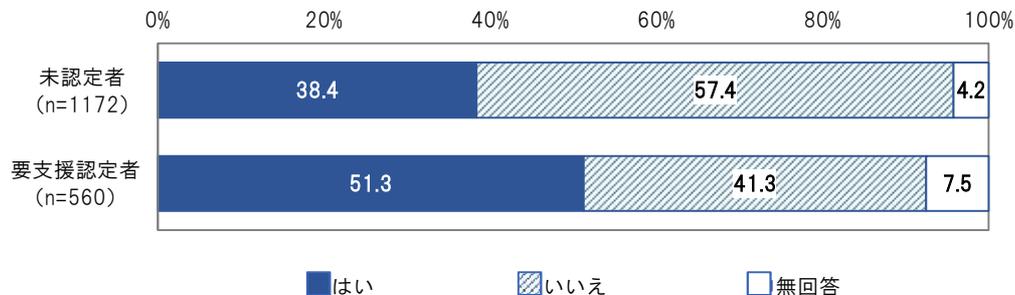
5. 物忘れについて

(1) 物忘れの状況《未認定・要支援のみ》

① 物忘れが多いと感じるか

問 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

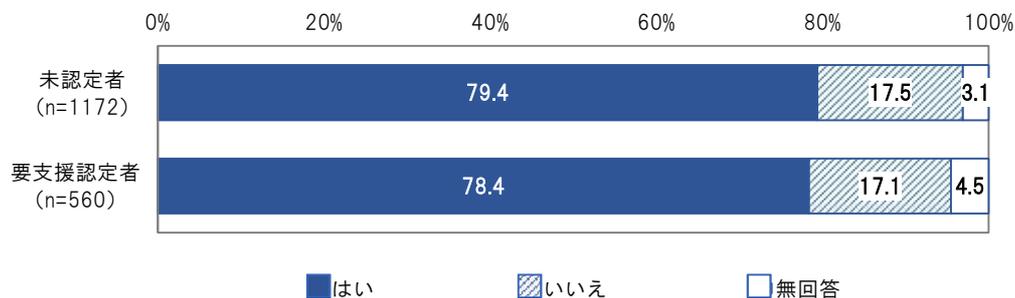
○物忘れが多いと感じるか、未認定者では「いいえ」が6割近くを占めているのに対し、要支援認定者では「はい」が半数以上を占めて高くなっている。



② 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているか

問 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

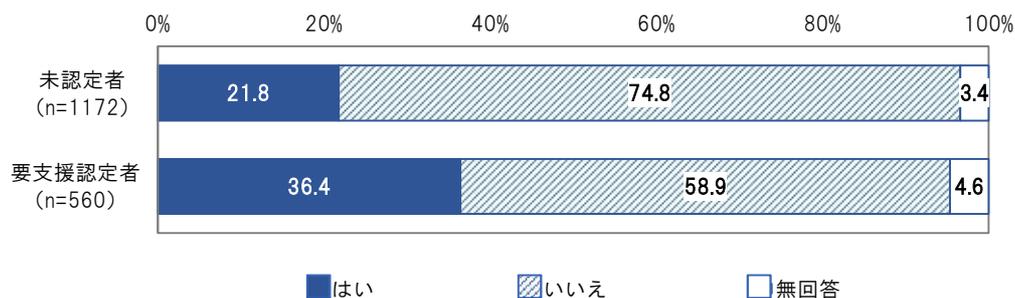
○自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかは、未認定者・要支援認定者ともに「はい」が8割近くを占めており、大きな差異はみられない。



③ 今日が何月何日かわからない時があるか

問 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○は1つ)

○今日が何月何日かわからない時があるかは、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が「はい」を上回っているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者では6割未満と低くなっている。

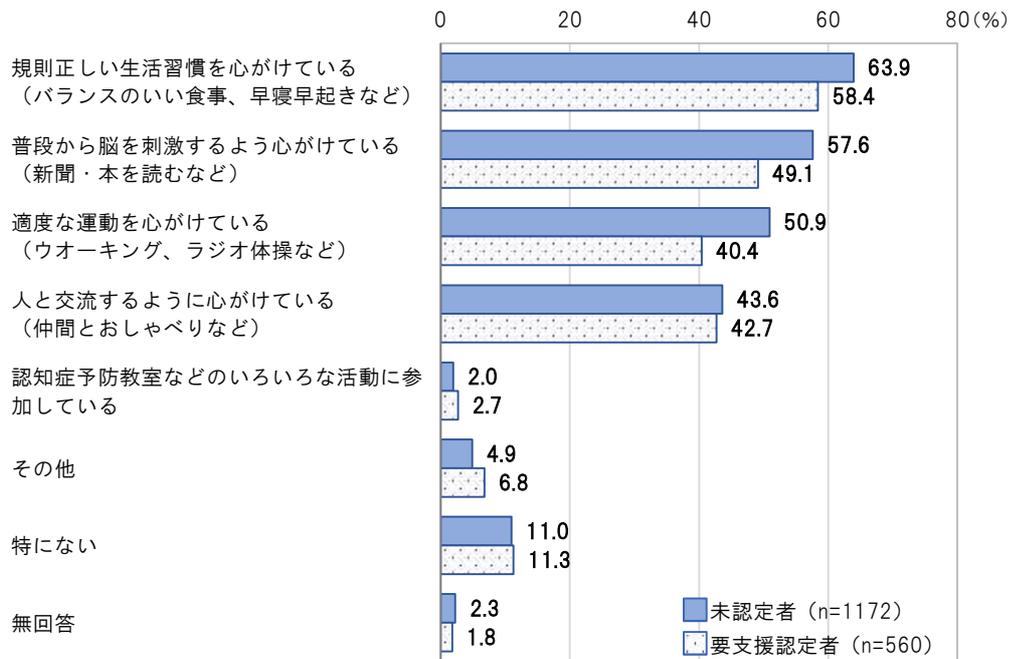


(2) 認知症予防のために取り組んでいること《未認定・要支援のみ》

問 マスコミなどで認知症のことがよく取り上げられますが、普段の生活で、ご自身が認知症の予防などで何か取り組まれていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

○認知症予防のために取り組んでいることは、未認定者・要支援認定者ともに「規則正しい生活習慣を心がけている(バランスのいい食事、早寝早起きなど)」が最も高く、次いで「普段から脳を刺激するよう心がけている(新聞・本を読むなど)」となっている。

○また、「特にない」がともに1割程度となっている。

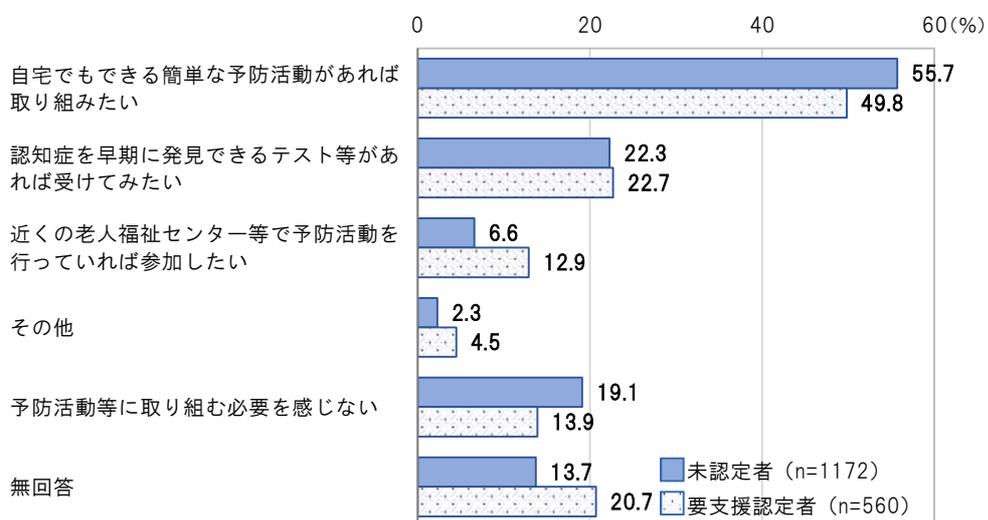


(3) 認知症予防に対する考え《未認定・要支援のみ》

問 認知症の予防等についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

○認知症予防に対する考えは、未認定者・要支援認定者ともに「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が最も高く、次いで「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」となっており、取り組みへの参加意向が高くなっている。

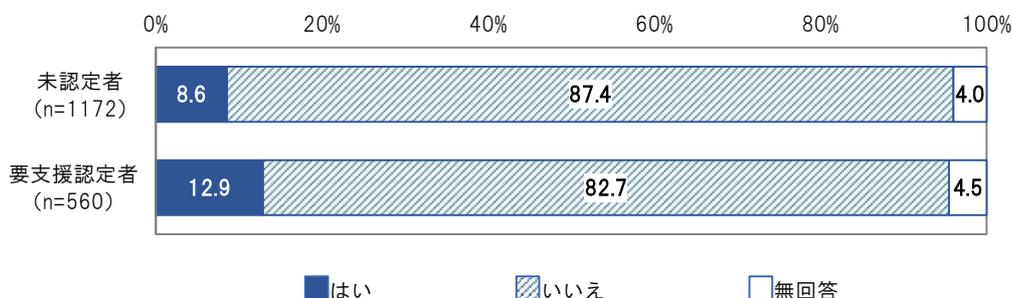
○一方で、「予防活動等に取り組む必要を感じない」が未認定者で約2割とやや高くなっている。



(4) 身近な認知症の症状のある人の有無《未認定・要支援のみ》

問 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○)

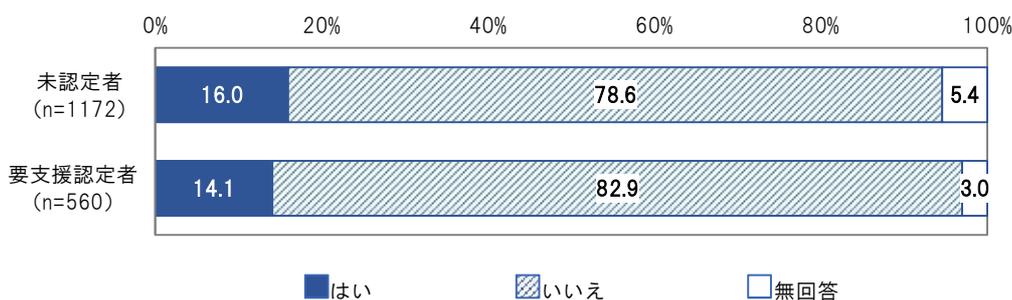
○身近な認知症の症状のある人の有無は、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が8割を超えており、「はい」はともに1割程度となっている。



(5) 認知症の相談窓口の認知度《未認定・要支援のみ》

問 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

○認知症の相談窓口の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「いいえ」が8割程度を占めており、「はい」はともに2割未満となっている。



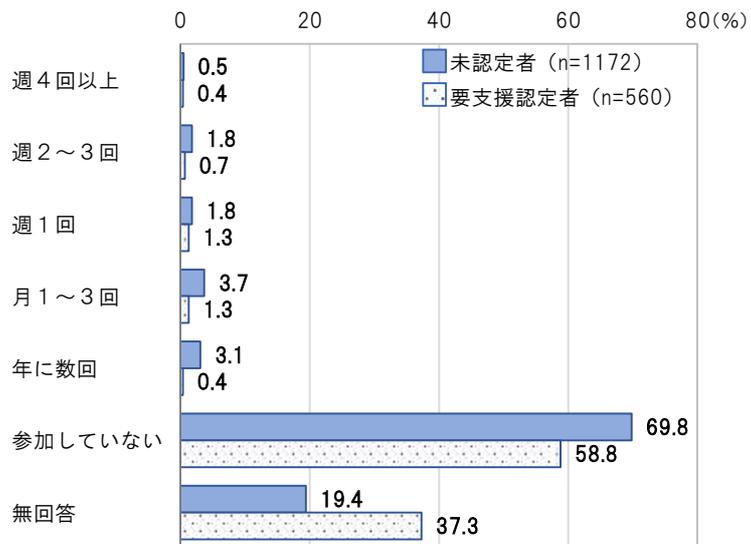
6. 地域での活動について

(1) 地域活動等への参加頻度《未認定・要支援のみ》

問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 (①～⑧それぞれに1つずつ回答してください)

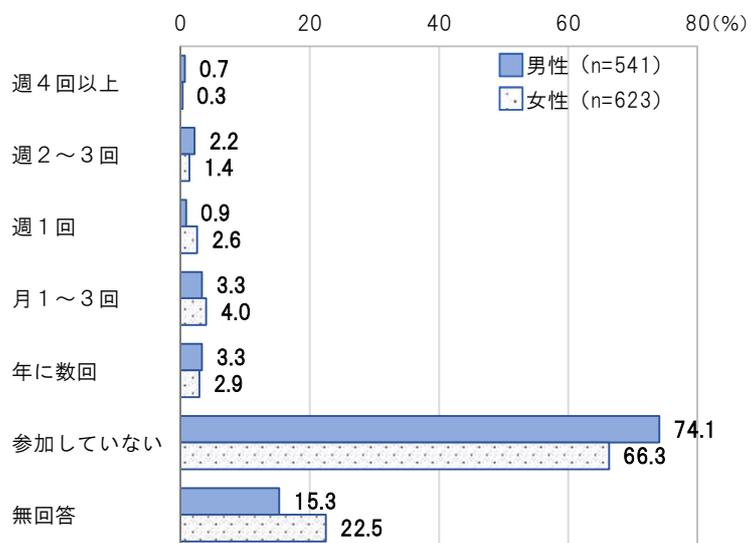
① ボランティアのグループ

- ボランティアのグループへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。
- 『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では約1割、要支援認定者では5%未満となっている。



《性別（未認定者）》

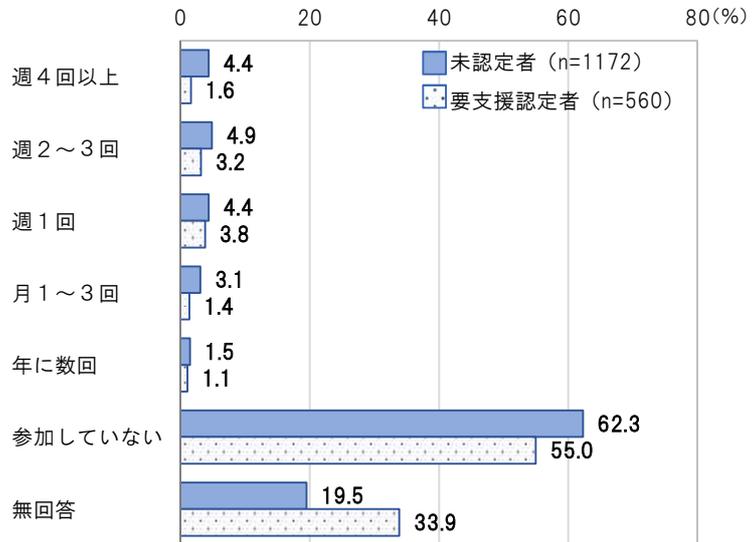
- 未認定者でのボランティアのグループへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合はともに1割程度で大きな差異はみられないものの、男性では「参加していない」が7割を超え、女性に比べて高くなっている。



② スポーツ関係のグループやクラブ

○スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

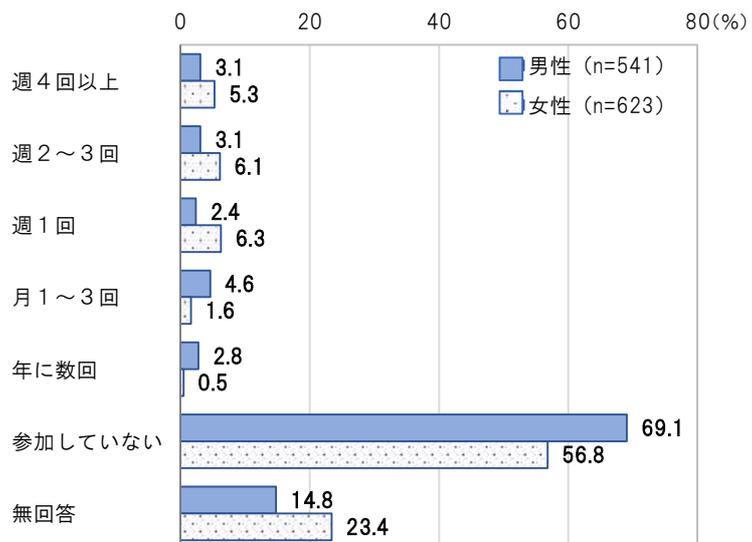
○『参加している』（「週4回以上」+「週2～3回」+「週1回」+「月1～3回」+「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割近く、要支援認定者では1割程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者でのスポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約2割を占め、男性に比べて高くなっている。

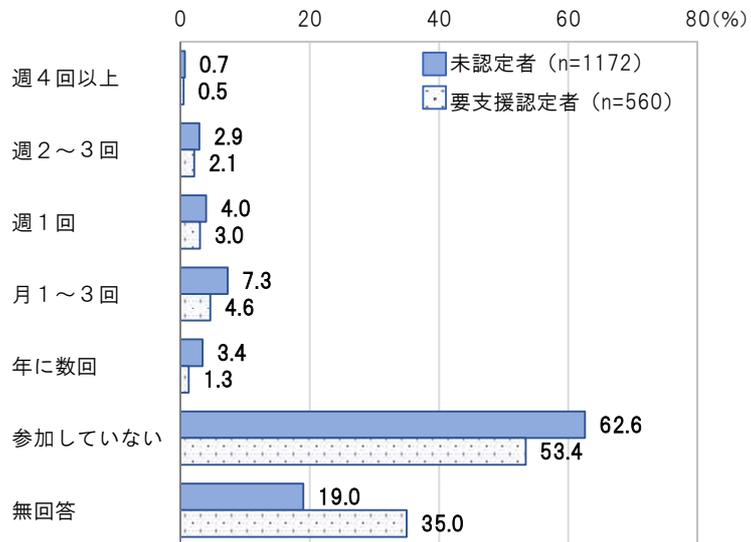
○また、男性では「参加していない」が約7割を占め、女性に比べて高くなっている。



③ 趣味関係のグループ

○趣味関係のグループへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

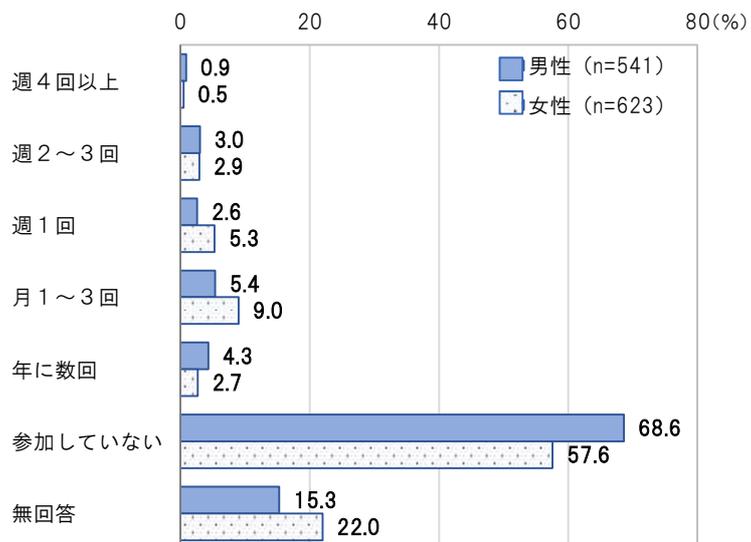
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割近く、要支援認定者では1割程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での趣味関係のグループへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約2割を占め、男性に比べて高くなっている。

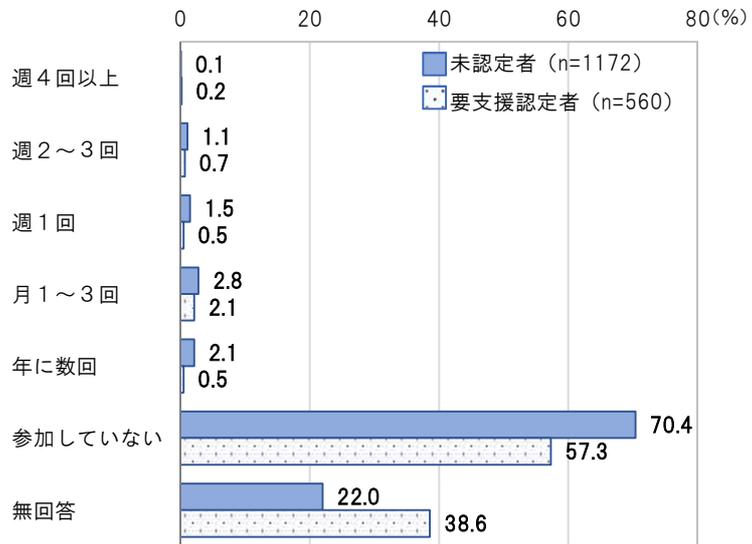
○また、男性では「参加していない」が7割近くを占め、女性に比べて高くなっている。



④ 学習・教養サークル

○学習・教養サークルへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

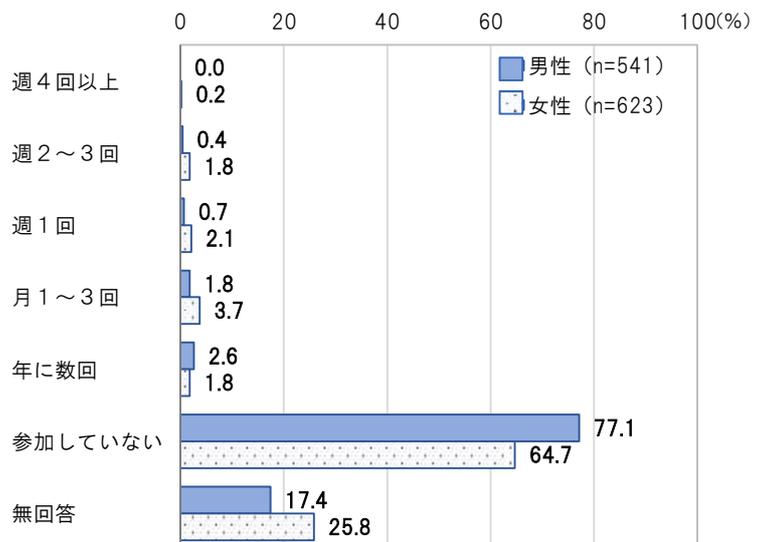
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では1割近く、要支援認定者では5%未満となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での学習・教養サークルへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では約1割を占め、男性に比べて高くなっている。

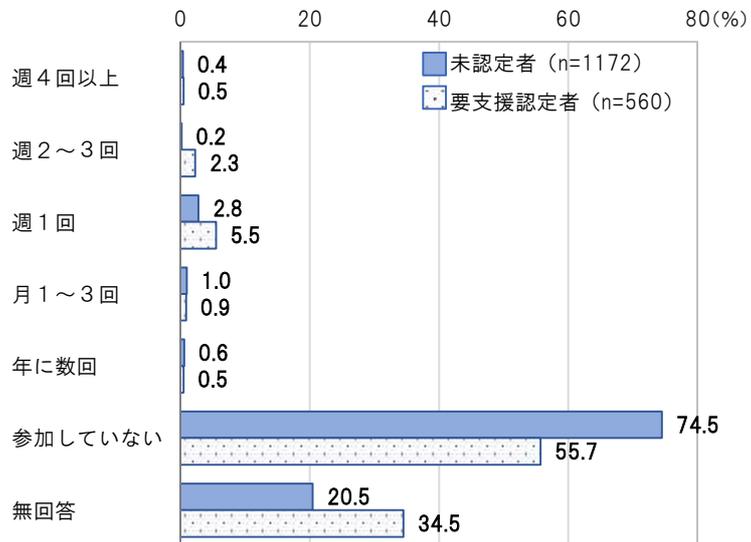
○また、男性では「参加していない」が8割近くを占め、女性に比べて高くなっている。



⑤ 高齢者ふれあいサロン・いきいき 100 歳体操など介護予防のための集い場

○高齢者ふれあいサロン・いきいき 100 歳体操など介護予防のための集い場への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

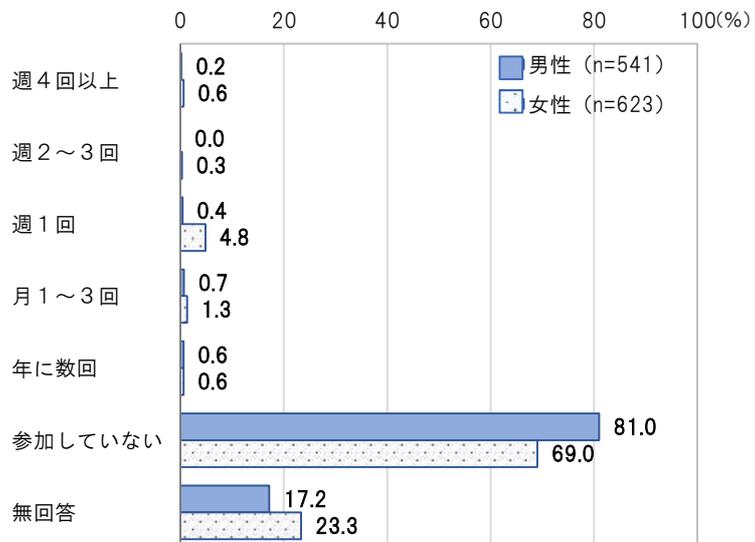
○『参加している』（「週4回以上」+「週2～3回」+「週1回」+「月1～3回」+「年に数回」）の割合をみると、要支援認定者では約1割、未認定者では5%程度となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での高齢者ふれあいサロン・いきいき 100 歳体操など介護予防のための集い場への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では1割近くを占め、男性に比べて高くなっている。

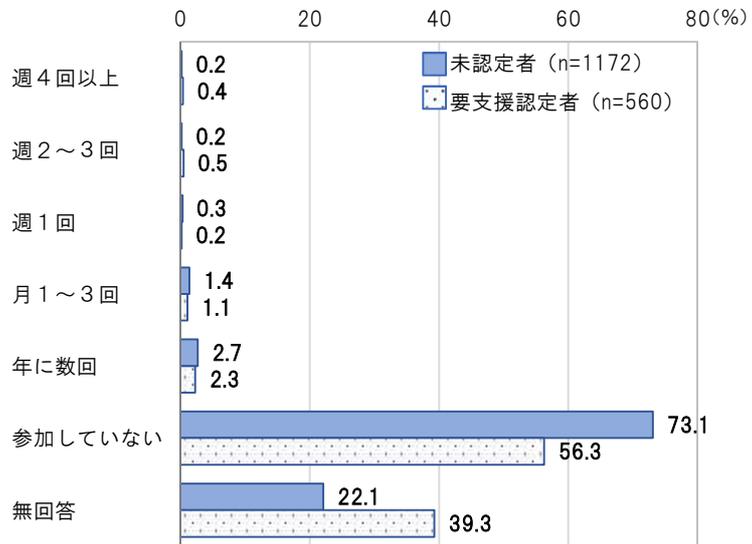
○また、男性では「参加していない」が8割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑥ 老人クラブ

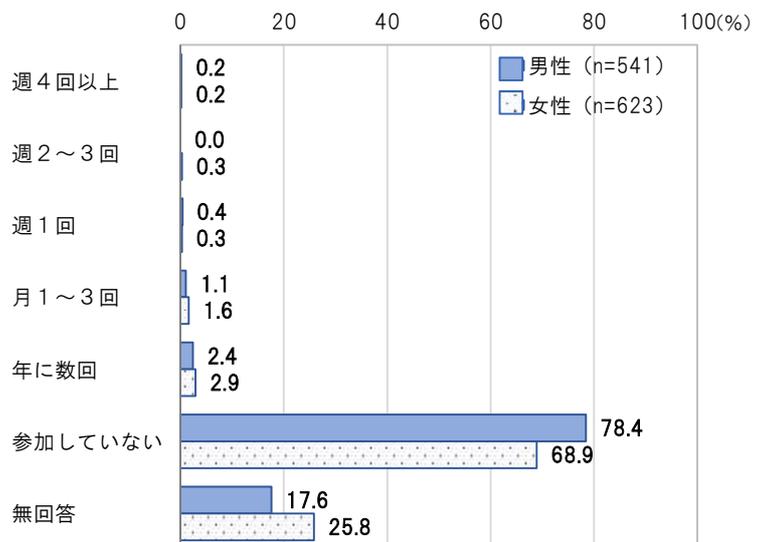
○老人クラブへの参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者・要支援認定者ともに5%未満となっている。



《性別（未認定者）》

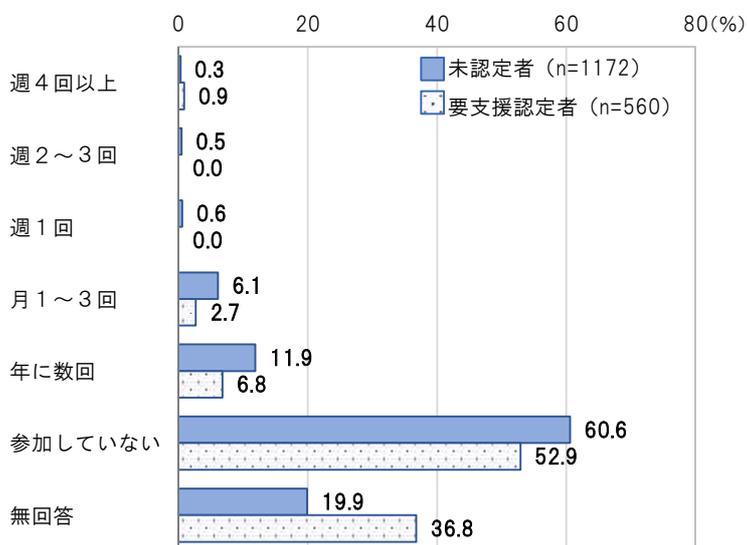
○未認定者での老人クラブへの参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合はともに5%程度で大きな差異はみられないものの、男性では「参加していない」が8割近くを占め、女性に比べて高くなっている。



⑦ 町内会・自治会

○町内会・自治会への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

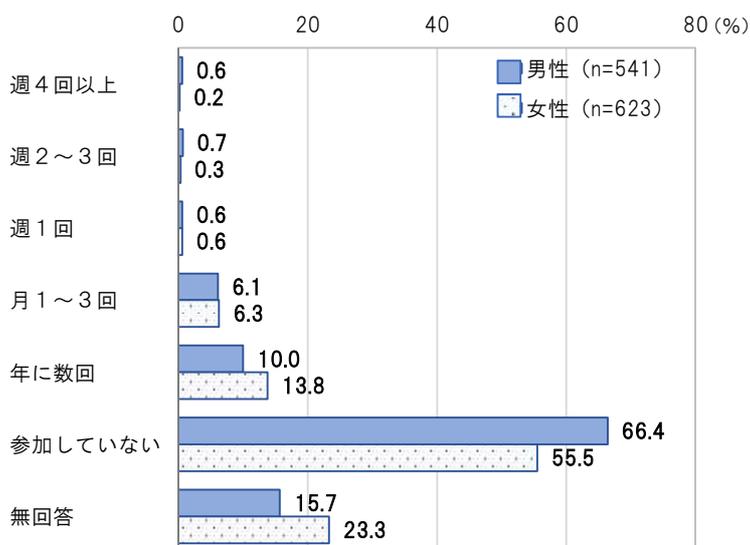
○『参加している』（「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」）の割合をみると、未認定者では約2割、要支援認定者では約1割となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での町内会・自治会への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は女性では2割を超え、男性に比べてやや高くなっている。

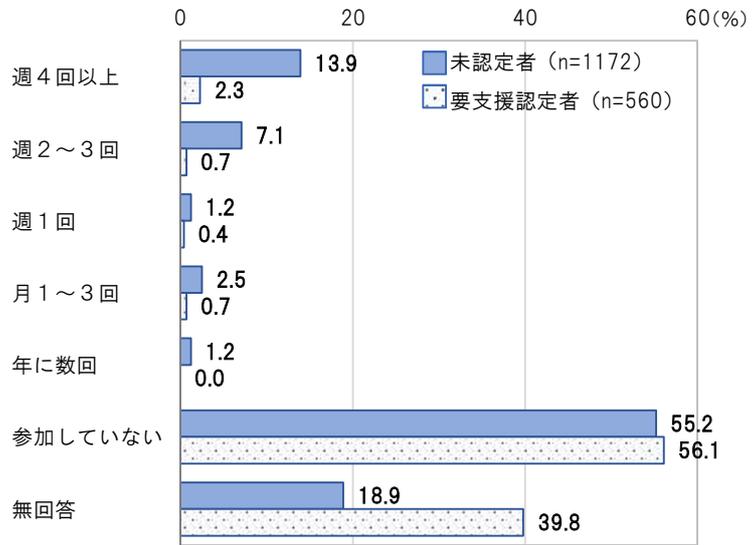
○また、男性では「参加していない」が6割以上を占め、女性に比べて高くなっている。



⑧ 収入のある仕事

○収入のある仕事への参加頻度は、未認定者・要支援認定者ともに「参加していない」が最も高くなっている。

○『参加している』（「週4回以上」+「週2～3回」+「週1回」+「月1～3回」+「年に数回」）の割合をみると、未認定者では2割以上となっており、特に「週4回以上」では1割を超えている。

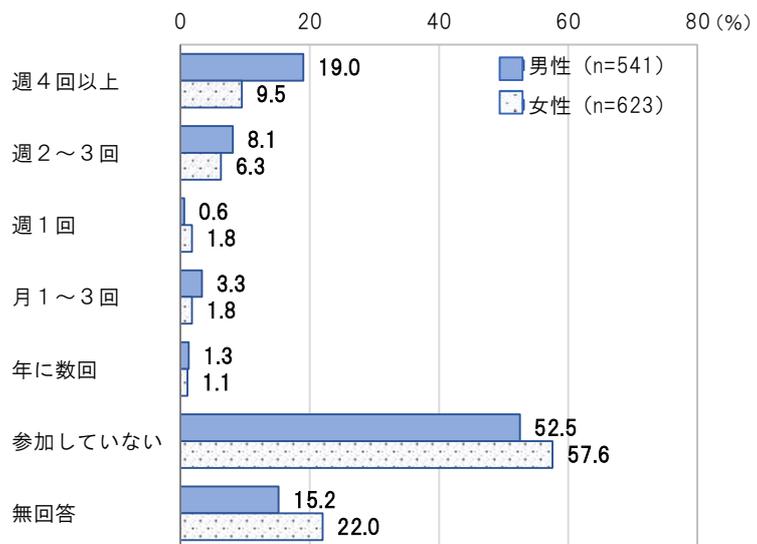


《性別（未認定者）》

○未認定者での収入のある仕事への参加頻度を性別にみると、『参加している』の割合は男性では3割を超え、女性に比べて高くなっている。

○①～⑧の項目の中で、唯一、女性に比べて男性の参加が高くなっている。

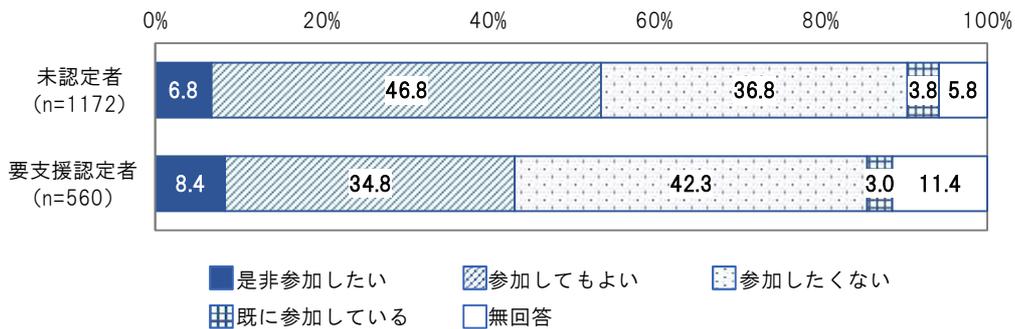
○また、女性では「参加していない」が6割近くを占め、男性に比べてやや高くなっている。



(2) 地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向《未認定・要支援のみ》

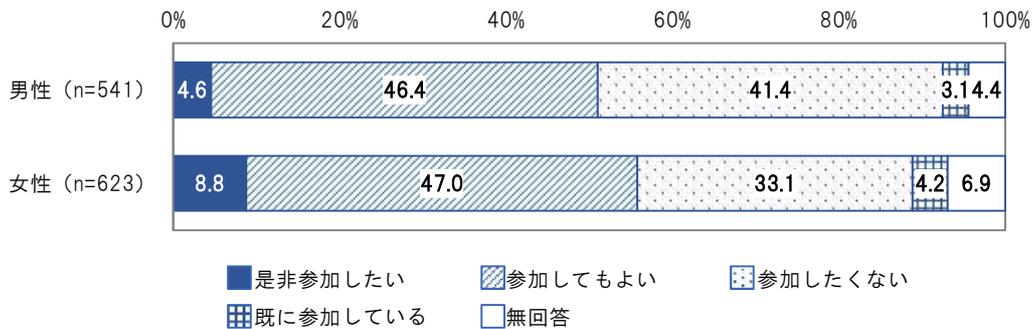
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
(1つに○)

- 地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向は、未認定者では「参加してもよい」が4割を超えて最も高く、「是非参加したい」と合わせると、参加意向のある人が半数を超えている。
- 一方で、要支援認定者では「参加したくない」が4割を超えて最も高くなっている。
- 「既に参加している」はともに3%程度となっている。



《性別（未認定者）》

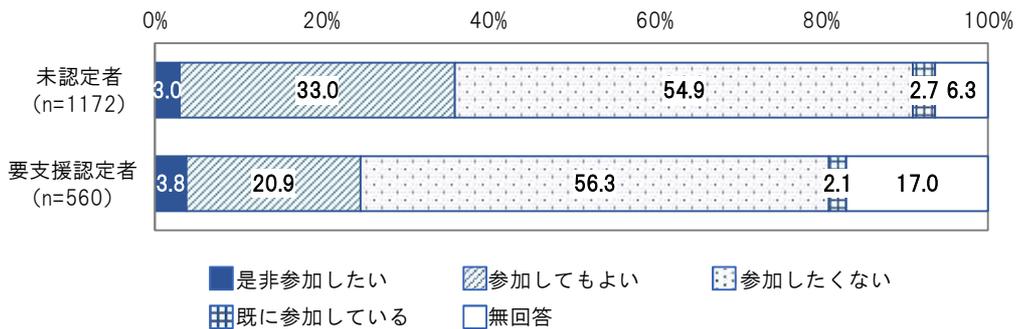
- 未認定者での地域住民の有志によるグループ活動への参加者としての参加意向を性別にみると、参加意向のある人が男性に比べて女性の方が高くなっている。特に、「是非参加したい」が女性では1割近くを占めている。



(3) 地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向《未認定・要支援のみ》

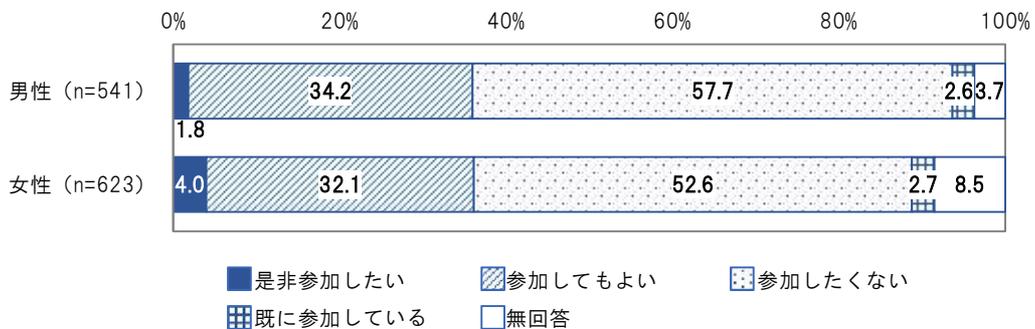
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つに○）

- 地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向は、未認定者・要支援認定者ともに「参加したくない」が半数を超えて高くなっている。
- 一方で、「参加してもよい」と「是非参加したい」を合わせた参加意向のある人は、未認定者では4割近く、要支援認定者では2割以上を占めている。
- 「既に参加している」はともに2%程度となっている。



《性別（未認定者）》

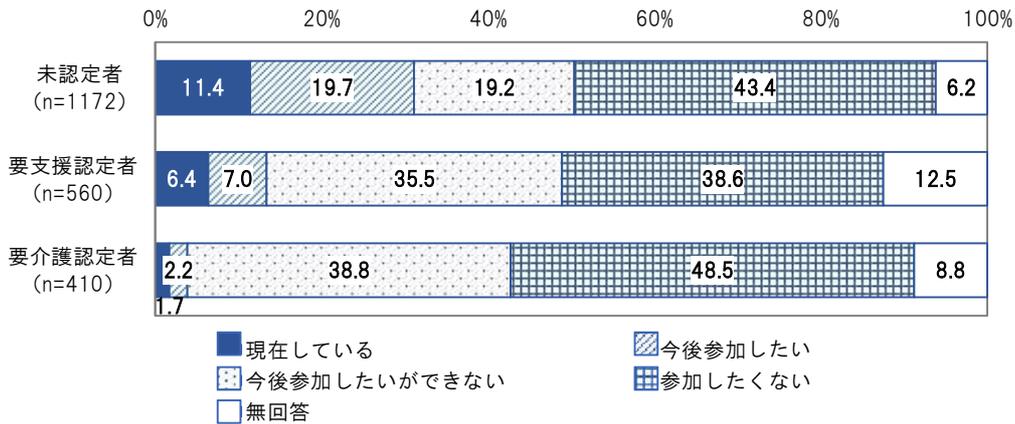
- 未認定者での地域住民の有志によるグループ活動への企画・運営としての参加意向を性別にみると、参加意向のある人はともに4割未満となっており、性別による大きな差異はみられない。



(4) 地域活動やボランティア活動への参加

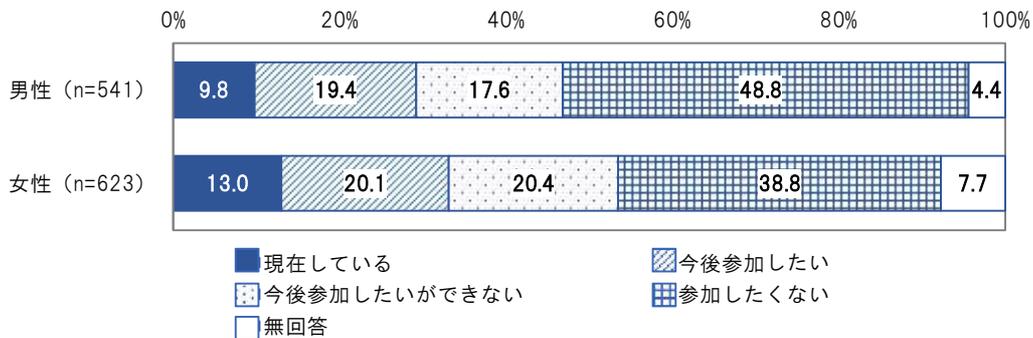
問 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動に参加したいと考えていますか。(1つに○)

- 地域活動やボランティア活動への参加は、すべての区分で「参加したくない」が最も高く、「今後参加したいができない」と合わせると、参加意向のない人が未認定者で6割以上、要支援認定者で7割以上、要介護認定者で9割近くを占めている。
- 一方で、「現在している」と「今後参加したい」を合わせた参加意向のある人は、未認定者では3割以上、要支援認定者では1割以上を占めている。



《性別（未認定者）》

- 未認定者での地域活動やボランティア活動への参加を性別にみると、「現在している」と「今後参加したい」を合わせた参加意向のある人が男性に比べて女性の方が高くなっている。特に、「現在している」が女性では1割を超えて、男性に比べて高くなっている。

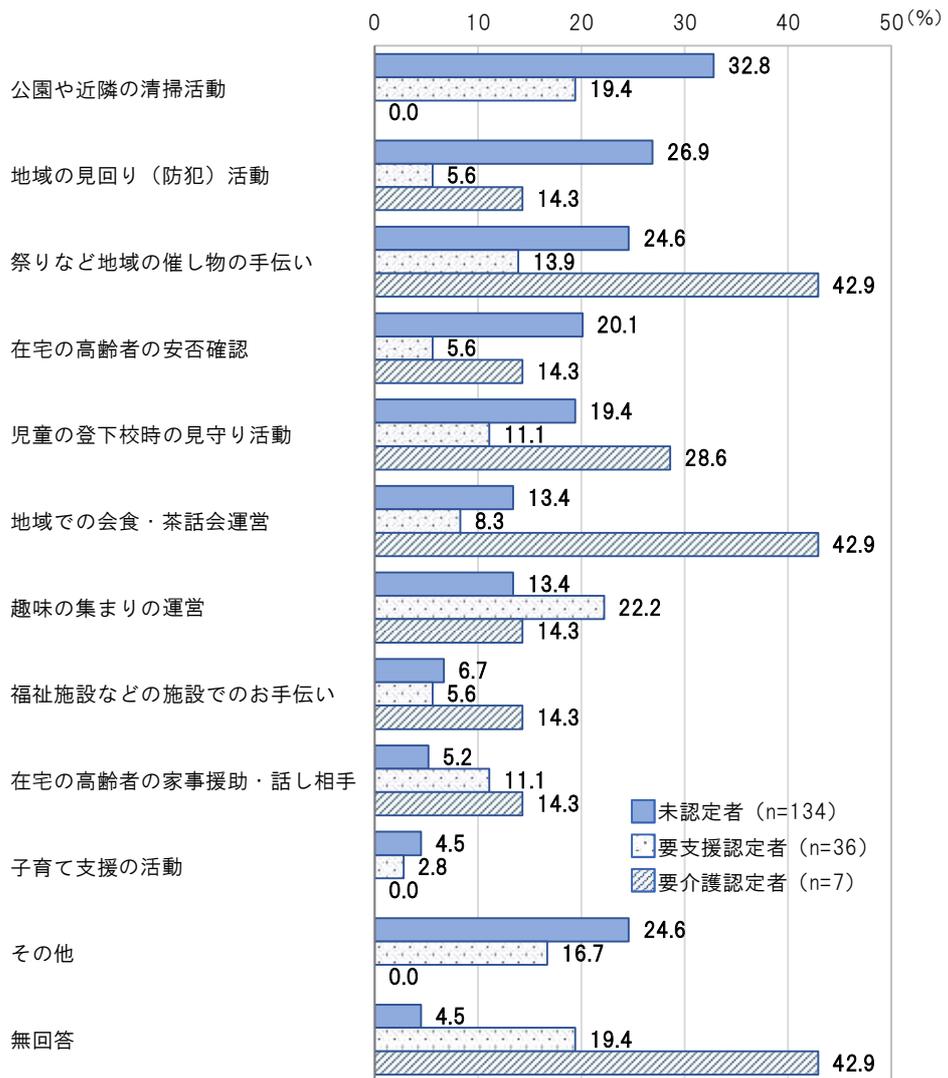


(4-1) 現在行っているボランティア・地域活動 ※要介護認定者は母数が少ないので参考値

(4) で「現在している」と回答した人のみ

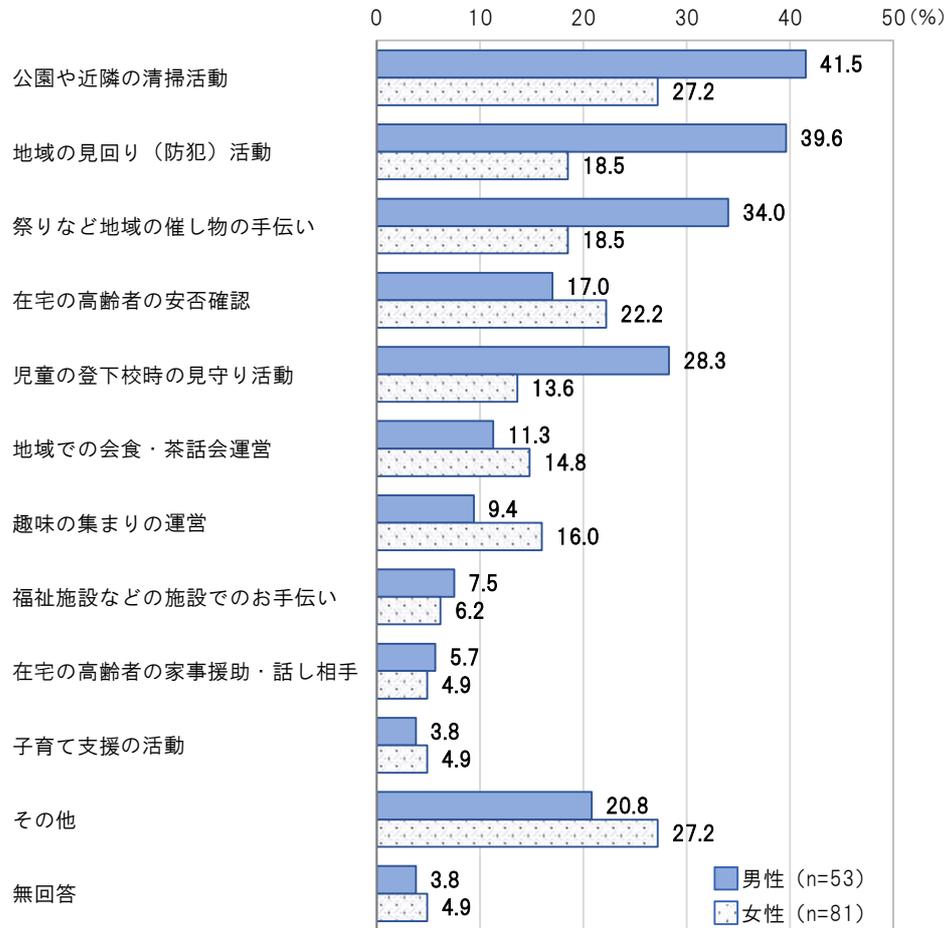
問 あなたが現在行っているボランティア・地域活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 現在行っているボランティア・地域活動は、未認定者では「公園や近隣の清掃活動」が3割を超えて最も高く、次いで「地域の見回り（防犯）活動」、「祭りなど地域の催し物の手伝い」、「在宅の高齢者の安否確認」の順となっている。
- 要支援認定者では、「趣味の集まりの運営」が2割を超えて最も高く、次いで「公園や近隣の清掃活動」、「祭りなど地域の催し物の手伝い」の順となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での現在行っているボランティア・地域活動を性別にみると、男性では「公園や近隣の清掃活動」や「地域の見回り（防犯）活動」、「祭りなど地域の催し物」、「児童の登下校時の見守り活動」などの自治活動で女性に比べて高い割合となっているのに対し、女性では「在宅の高齢者の安否確認」や「地域での会食・茶話会運営」、「趣味の集まりの運営」などの交流活動で男性に比べて高い割合となっている。

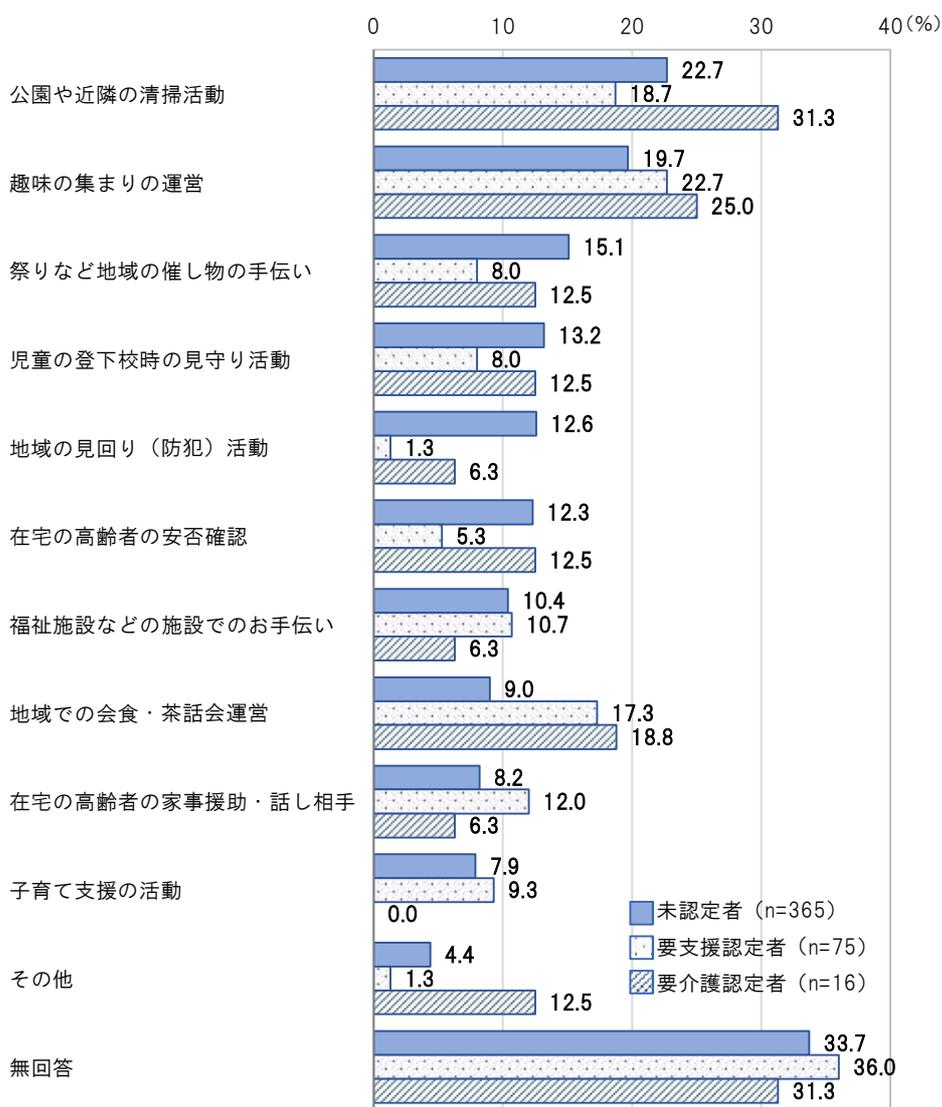


(4-2) 今後、新たに行いたいボランティア・地域活動 ※要介護認定者は母数が少ないので参考値

(4) で「現在している」または「今後参加したい」と回答した人のみ
 問 あなたが今後、新たに行いたいボランティア・地域活動は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

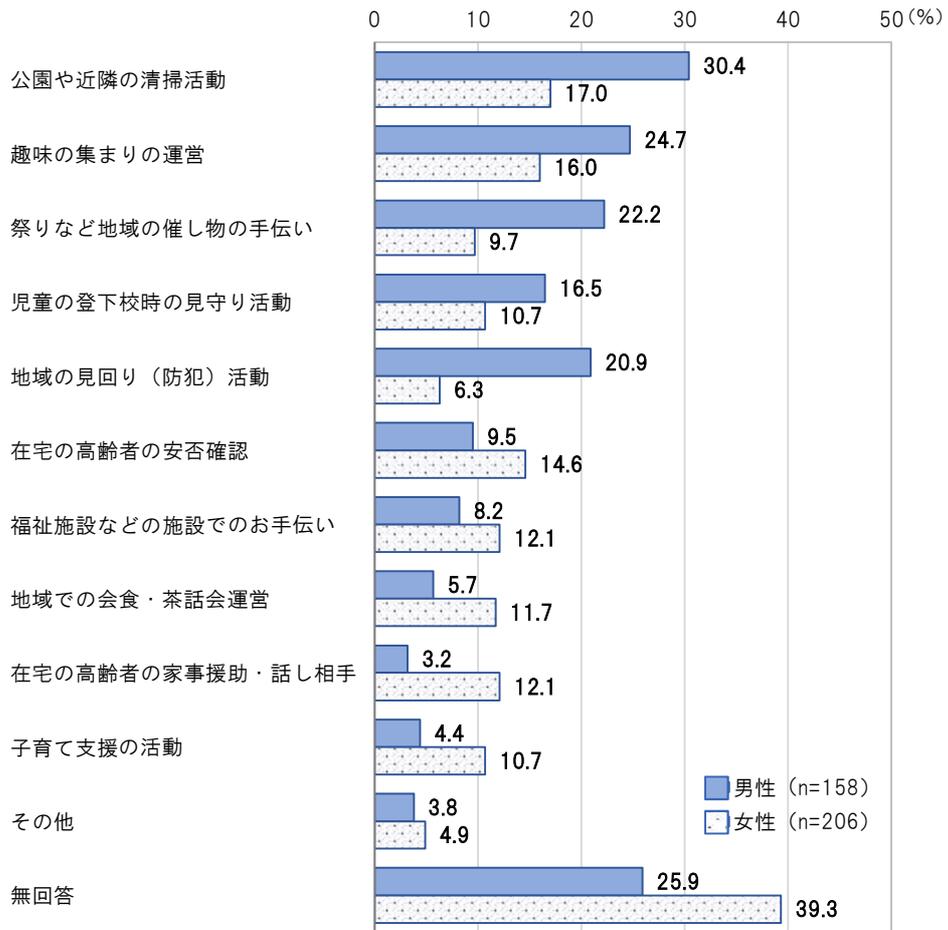
○今後、新たに行いたいボランティア・地域活動は、未認定者では「公園や近隣の清掃活動」が2割を超えて最も高く、次いで「趣味の集まりの運営」、「祭りなど地域の催し物の手伝い」、「児童の登下校時の見守り活動」の順となっている。

○要支援認定者では、「趣味の集まりの運営」が2割を超えて最も高く、次いで「公園や近隣の清掃活動」、「地域での会食・茶話会運営」、「在宅の高齢者の家事援助・話し相手」の順となっている。



《性別（未認定者）》

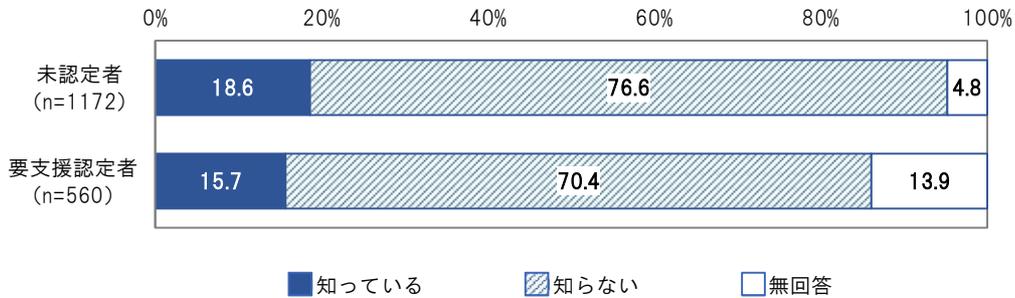
- 未認定者での新たに行いたいボランティア・地域活動を性別にみると、現在行っているボランティア・地域活動と同様に、男性では「公園や近隣の清掃活動」や「地域の見回り（防犯）活動」、「祭りなど地域の催し物」、「児童の登下校時の見守り活動」などの自治活動で女性に比べて高い割合となっているのに対し、女性では「在宅の高齢者の安否確認」や「地域での会食・茶話会運営」、「趣味の集まりの運営」などの交流活動で男性に比べて高い割合となっている。
- また、女性では「福祉施設などの施設でのお手伝い」や「子育て支援の活動」などの福祉活動においても男性に比べて参加意向が高くなっている。



(5) 「生活支援サポーター」という制度の認知度《未認定・要支援のみ》

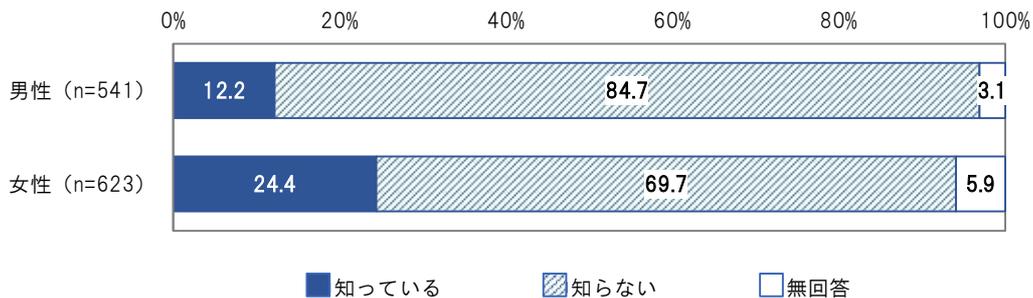
問 市の講習を受けて、高齢者に掃除や買い物などの軽易な支援を提供して収入を得ていただける「生活支援サポーター」という制度を知っていますか。(1つに○)

○ “生活支援サポーター” という制度の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「知らない」が大半を占めており、「知っている」は2割未満となっている。



《性別（未認定者）》

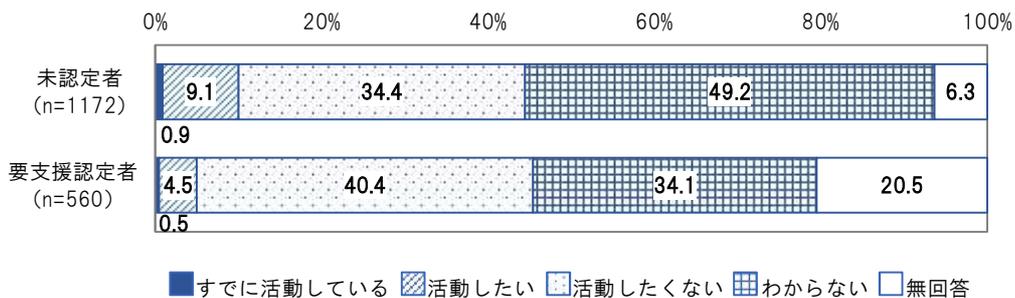
○ 未認定者での“生活支援サポーター” という制度の認知度を性別にみると、女性では「知っている」が2割を超え、男性の約2倍の認知度となっている。



(6) 今後の「生活支援サポーター」活動の意向《未認定・要支援のみ》

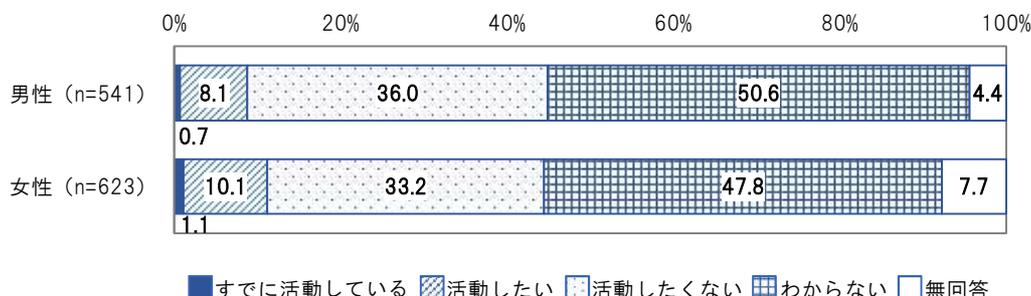
問 今後、「生活支援サポーター」として活動してみたいと思いますか。(1つに○)

○ “生活支援サポーター” 活動の意向は、未認定者・要支援認定者ともに「活動したくない」及び「わからない」が大半を占めているものの、「すでに活動している」と「活動したい」を合わせた活動意向のある人が、未認定者では約1割となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での“生活支援サポーター”活動の意向を性別にみると、「すでに活動している」と「活動したい」を合わせた活動意向のある人が、女性では1割を超えており、男性に比べてやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。

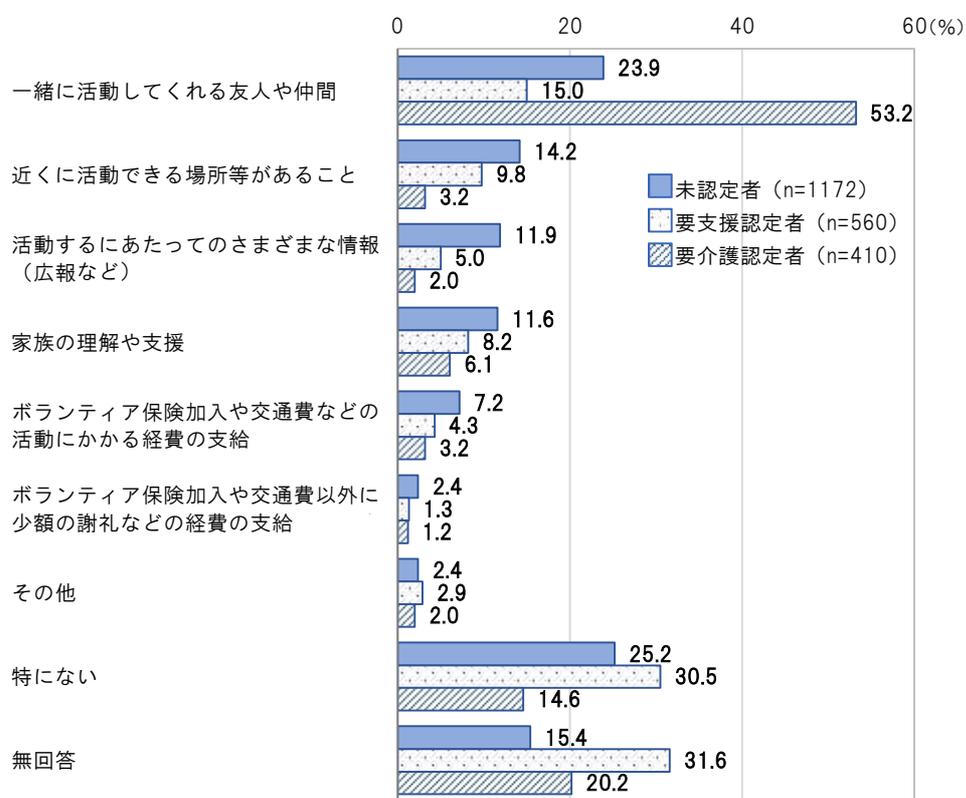


(7) ボランティア活動をするにあたって必要なこと

問 ボランティア活動をするにあたって、どのようなことが一番必要とされますか。(1つに○)

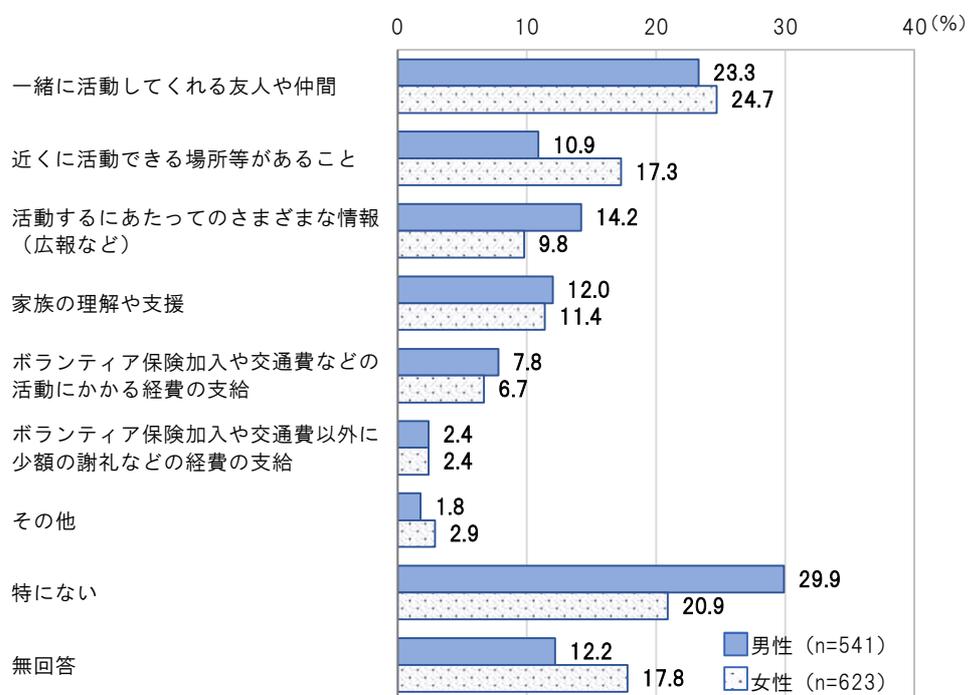
○ボランティア活動をするにあたって必要なことは、未認定者・要支援認定者では「特にない」が最も高くなっている。

○具体的に必要なことでは、すべての区分で「一緒に活動してくれる友人や仲間」が最も高く、次いで、未認定者・要支援認定者では「近くに活動できる場所等があること」、要介護認定者では「家族の理解や支援」の順となっている。



《性別（未認定者）》

- 未認定者でのボランティア活動をするにあたって必要なことを性別にみると、男性・女性ともに「一緒に活動してくれる友人や仲間」が最も高くなっている。
- また、男性では「活動するにあたってのさまざまな情報（広報など）」が女性に比べて高く、女性では「近くに活動できる場所等があること」が男性に比べて高くなっている。

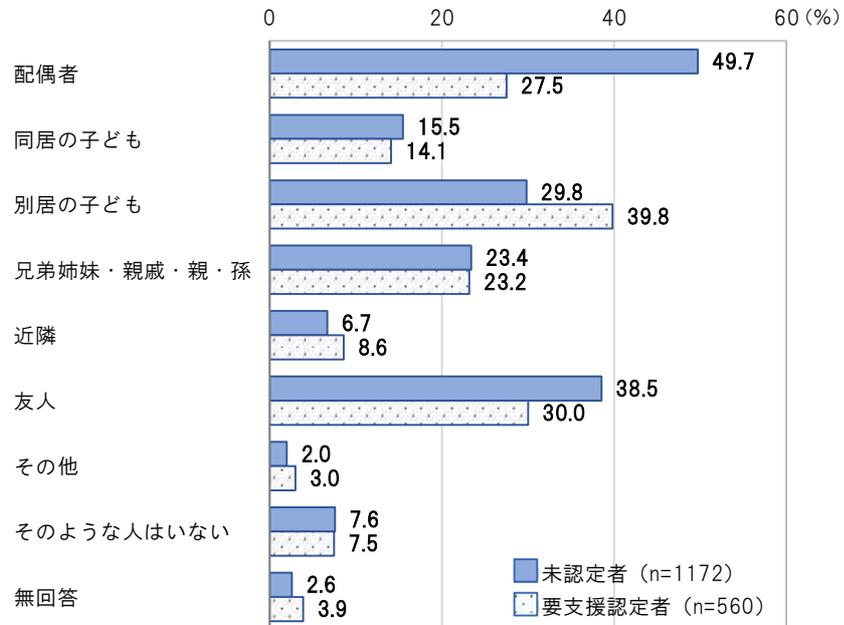


7. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「友人」、「別居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「別居の子ども」が最も高く、次いで「友人」、「配偶者」の順となっている。

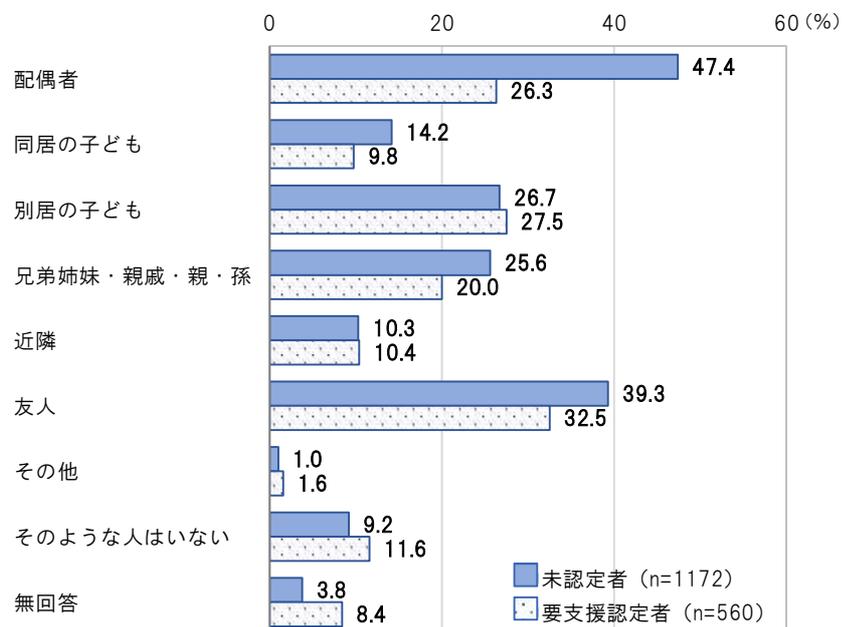


(2) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。

（あてはまるものすべてに○）

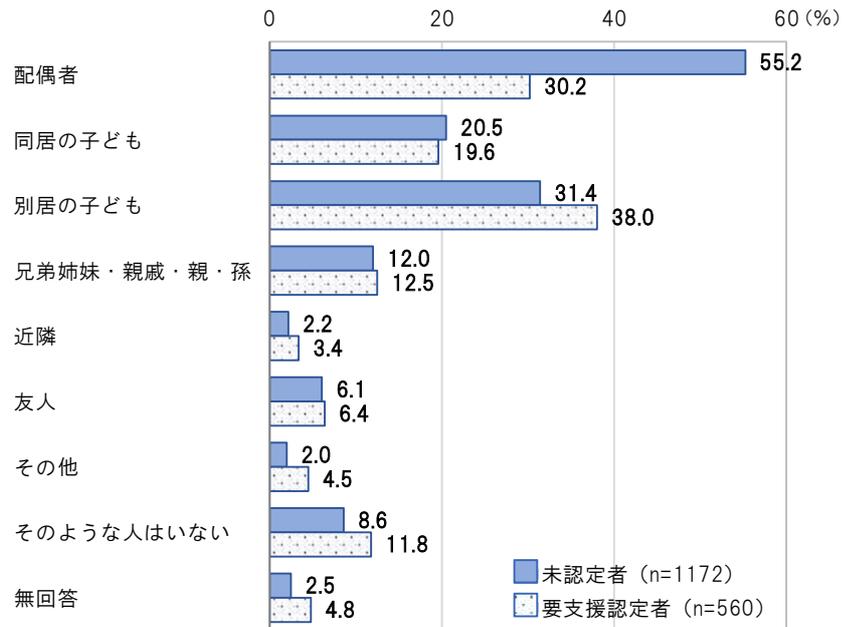
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「友人」、「別居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「友人」が最も高く、次いで「別居の子ども」、「配偶者」の順となっている。



(3) 看病や世話をしてくれる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

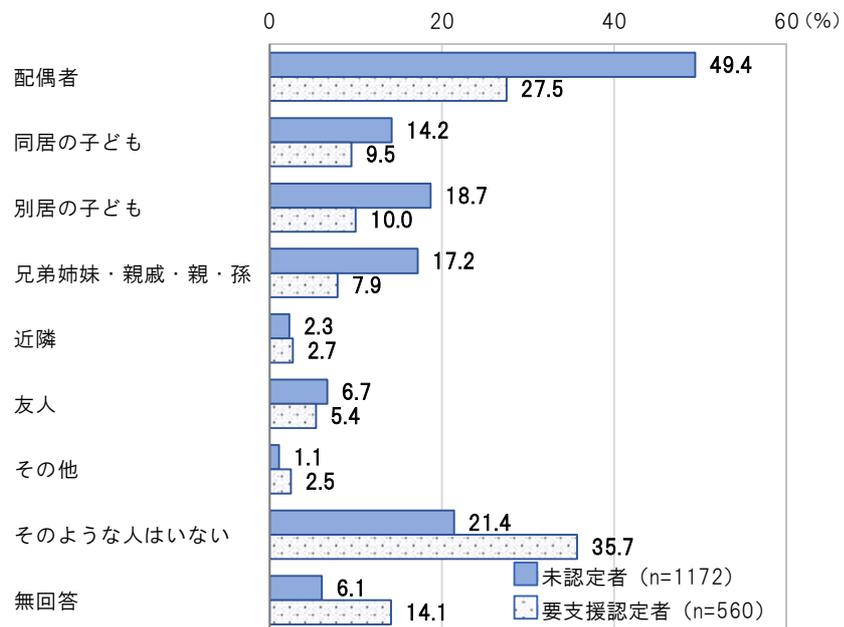
○看病や世話をしてくれる人は、未認定者では「配偶者」が最も高く、次いで「別居の子ども」、「同居の子ども」の順となっているのに対し、要支援認定者では「別居の子ども」が最も高く、次いで「配偶者」、「同居の子ども」の順となっている。また、「そのような人はいない」が1割程度を占めている。



(4) 看病や世話をしてあげる人の有無《未認定・要支援のみ》

問 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

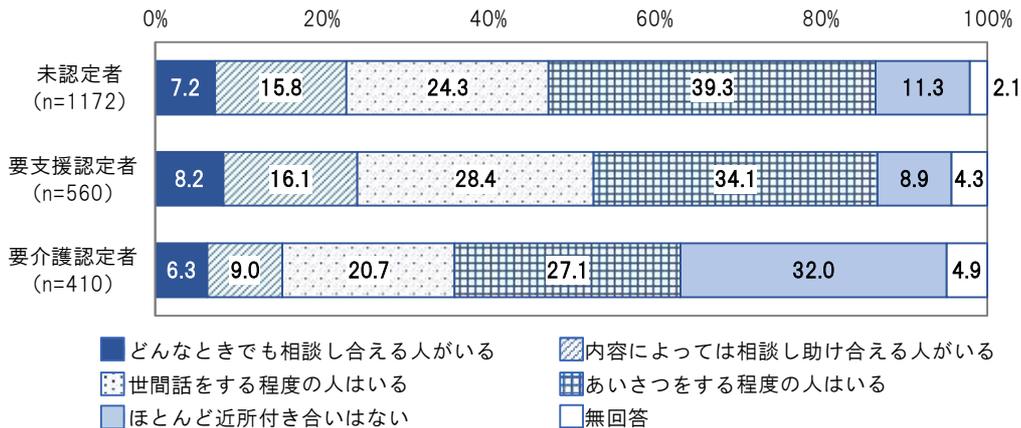
○看病や世話をしてあげる人は、未認定者では「配偶者」が最も高くなっているのに対し、要支援認定者では「そのような人はいない」が最も高くなっている。



(5) 近所づきあいの程度

問 あなたは、ご近所の人たちと、どの程度のおつきあいがありますか。(1つに○)

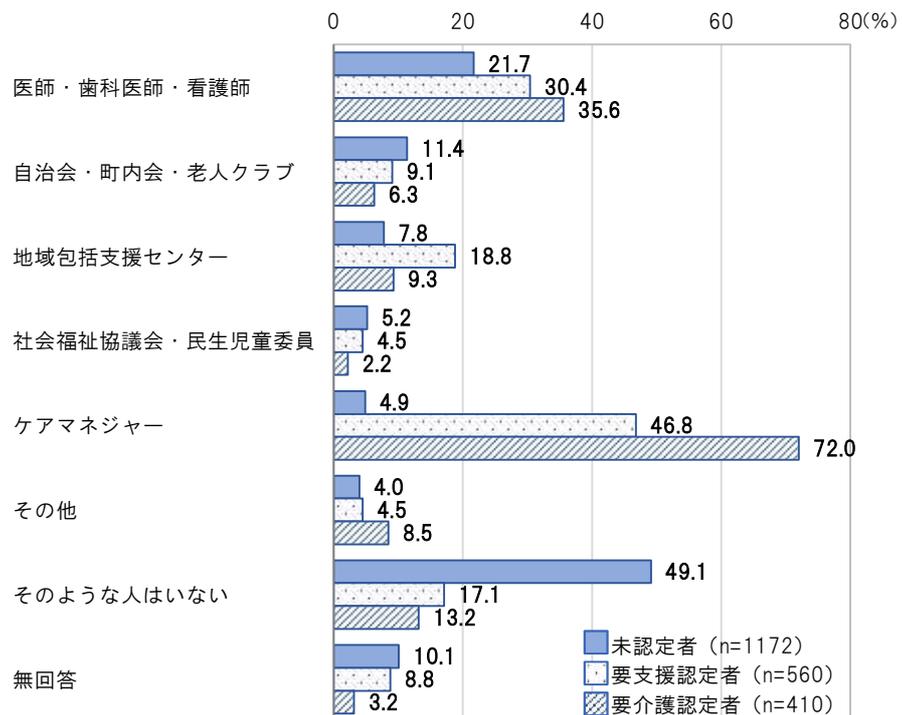
○近所づきあいの程度は、未認定者・要支援認定者では「あいさつをする程度の人はいる」が最も高く、次いで「世間話をする程度の人はいる」となっており、近所付き合いをしている人が8割以上を占めている。
 ○一方で、要介護認定者では「ほとんど近所付き合いはない」が3割を超えて最も高く、近所付き合いをしている人は6割程度となっている。



(6) 家族・親族や友人・知人以外で相談する相手

問 家族・親族や友人・知人以外で、何かがあったときに相談する相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

○家族・親族や友人・知人以外で相談する相手は、要支援認定者・要介護認定者では「ケアマネジャー」が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」となっているのに対し、未認定者では「そのような人はいない」が約半数を占めて最も高くなっている。



《近所づきあいの程度別（未認定者）》

○未認定者での家族・親族や友人・知人以外で相談する相手を近所づきあいの程度別にみると、近所づきあいの程度が薄くなるほど「そのような人はいない」が高くなっており、“ほとんど近所付き合いはない”層では7割を超えている。

○反対に、近所づきあいがある人ほど「自治会・町内会・老人クラブ」が高くなる傾向がみられ、近所に“どんなときでも相談し合える人がいる”層では約3割を占めている。

(%)

		回答者数 (人)	医師・歯科 医師・ 看護師	自治会・町内会・ 老人クラブ	地域包括支援セ ンター	社会福祉協議会・ 民生児童委員	ケアマネジャー	その他	そのよ うな人 は い な い	無回 答
近所づきあいの程度別	どんなときでも相談し合える人がいる	217	23.8	29.8	9.5	8.3	8.3	6.0	27.4	10.7
	内容によっては相談し助け合える人がいる	283	28.6	20.0	11.4	12.4	7.6	8.1	32.4	8.6
	世間話をする程度の人はい	193	24.6	12.6	10.2	4.2	4.6	3.5	43.2	11.2
	あいさつをする程度の人はい	113	20.2	7.2	5.4	3.7	4.1	2.8	58.6	7.8
	ほとんど近所付き合いはない	30	11.4	0.8	5.3	1.5	3.0	3.0	74.2	3.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

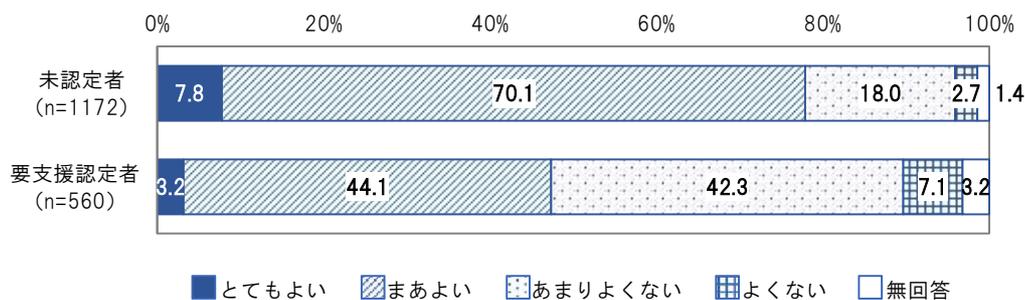
8. 健康について

(1) 主観的健康観《未認定・要支援のみ》

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

○主観的健康観は、未認定者・要支援認定者ともに「まあよい」が最も高くなっているものの、「とてもよい」と合わせた『よい』の割合は、未認定者では8割近くを占めているのに対し、要支援認定者では半数未満となっている。

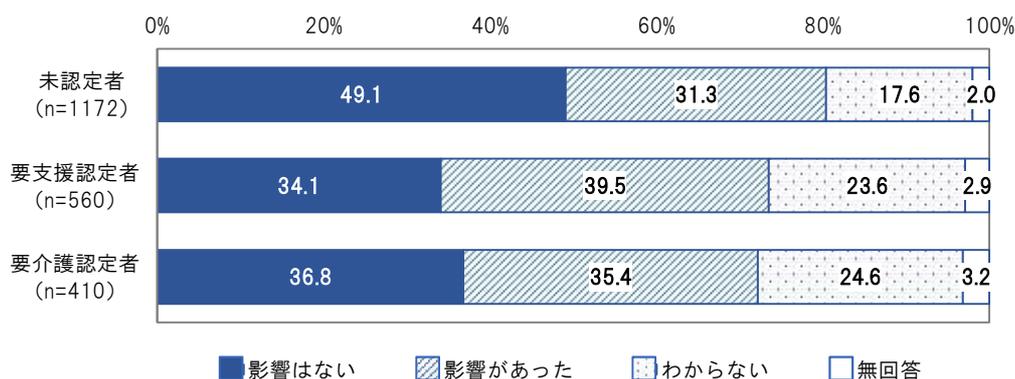
○要支援認定者では「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が約半数を占めている。



(2) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大での外出自粛等による体力の衰えや健康への影響

問 あなたは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛等によって、体力の衰えや健康への影響があったと感じますか。(1つに○)

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大での外出自粛等による体力の衰えや健康への影響は、未認定者では「影響はない」が約半数を占め、「影響があった」は3割程度となっているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では「影響があった」が3割を超え、「影響はない」とほぼ同程度となっている。

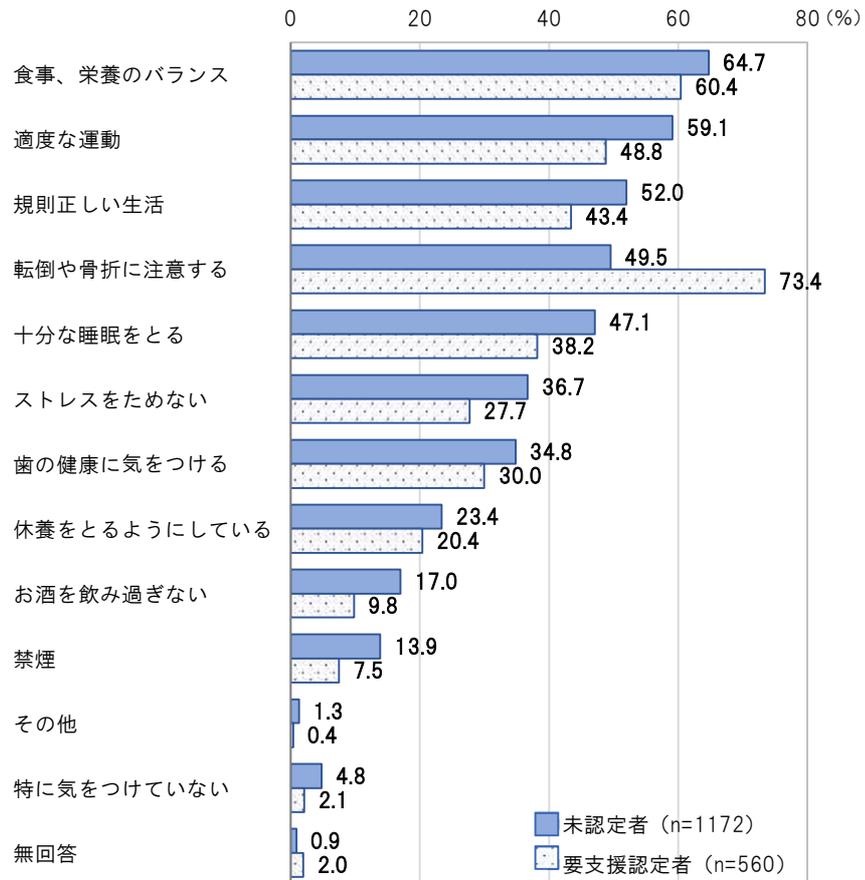


(3) 健康に関して気をつけていること《未認定・要支援のみ》

問 あなたは普段健康に関してどのようなことに気をつけていますか。

(あてはまるものすべてに○)

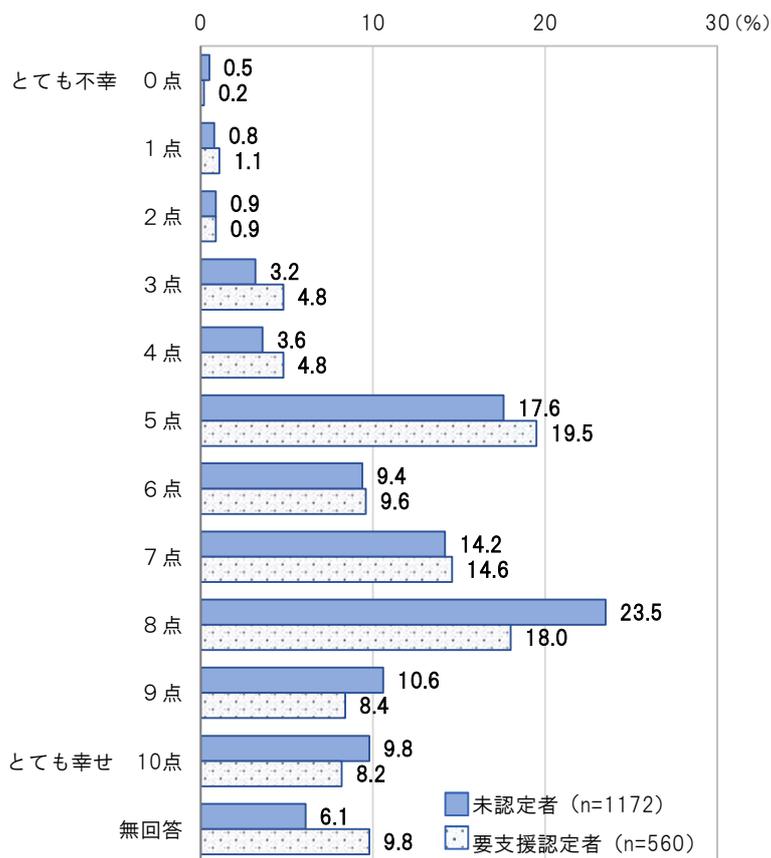
- 健康に関して気をつけていることは、未認定者では「食事、栄養のバランス」が6割を超えて最も高く、次いで「適度な運動」、「規則正しい生活」、「転倒や骨折に注意する」の順となっている。
- 要支援認定者では「転倒や骨折に注意する」が7割を超えて最も高く、その他の項目と比べても突出して高くなっている。



(4) 幸福度《未認定・要支援のみ》

問 あなたは、現在どの程度幸せですか。
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、1つに○)

- 幸福度は、未認定者では「8点」が最も高く、次いで「5点」、「7点」となっており、要支援認定者では「5点」が最も高く、次いで「8点」、「7点」となっている。
- 平均点をみると、未認定者では6.95点、要支援認定者では6.61点と、未認定者の方がやや高くなっている。

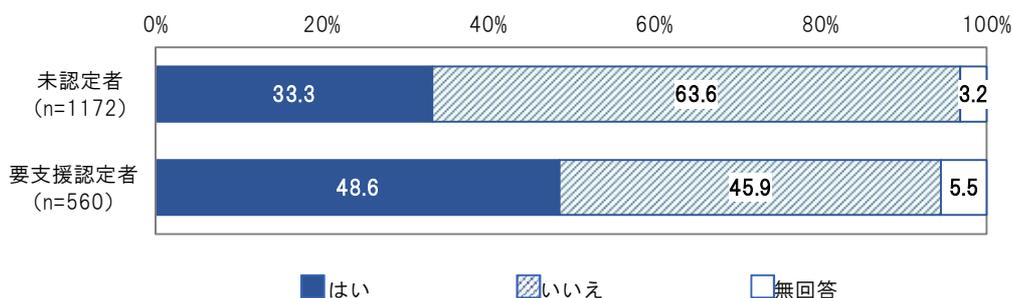


(5) こころの状況《未認定・要支援のみ》

① 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるか

問 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありますか。
 (○は1つ)

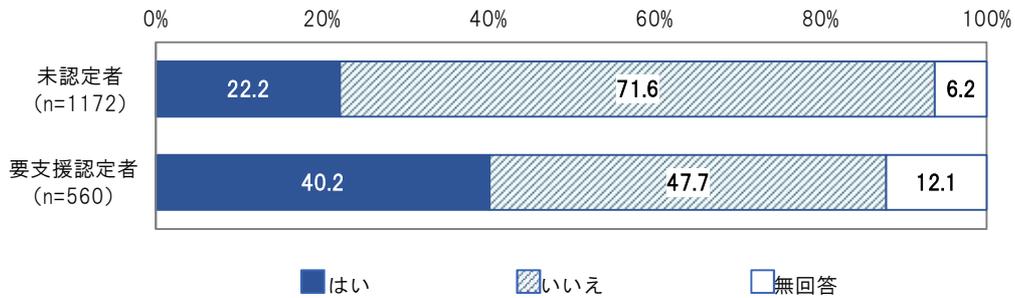
- 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることは、未認定者では「いいえ」が6割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が半数近くを占め、「いいえ」を上回っている。



② どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるか

問 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありますか。(○は1つ)

○どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめないと感じることは、未認定者では「いいえ」が7割を超えているのに対し、要支援認定者では「はい」が約4割を占めて高くなっている。

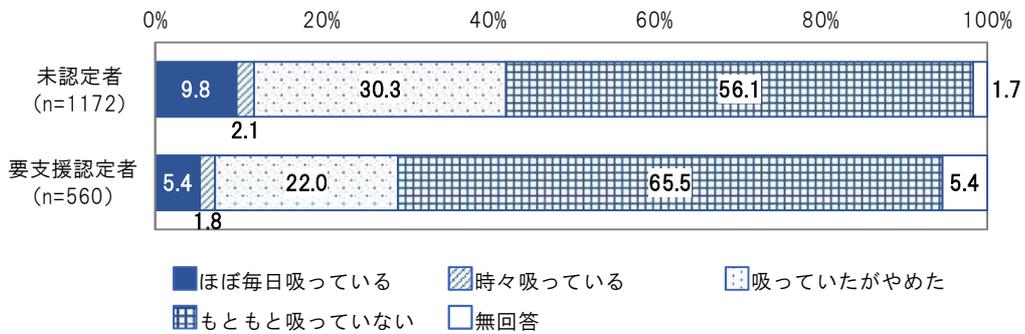


(6) 喫煙状況《未認定・要支援のみ》

問 タバコは吸っていますか。(1つに○)

○喫煙状況は、未認定者・要支援認定者ともに「もともと吸っていない」が半数を超えて高くなっている。

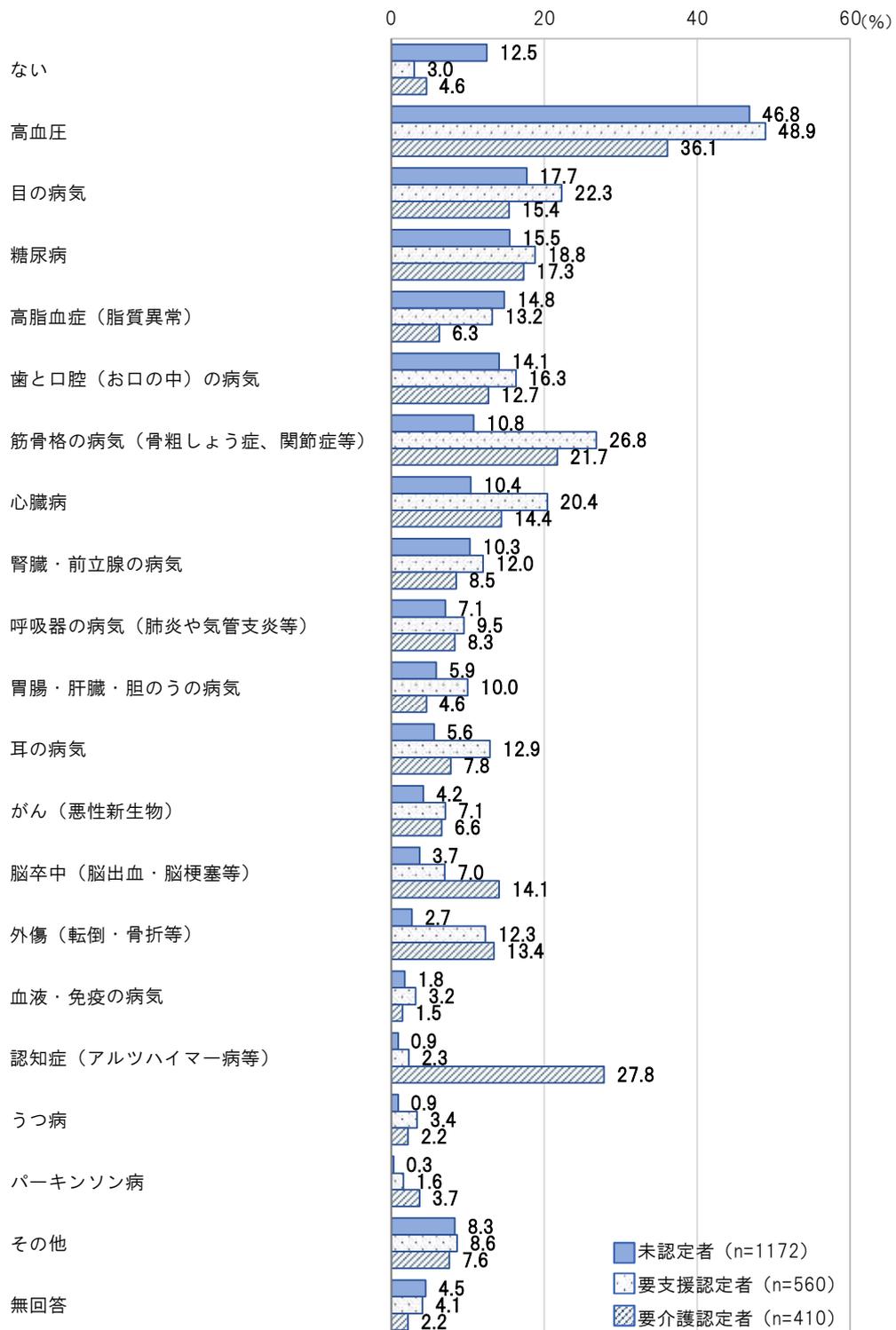
○一方で、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』人の割合をみると、未認定者では1割を超えている。



(7) 現在治療中または後遺症のある病気の有無

問 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

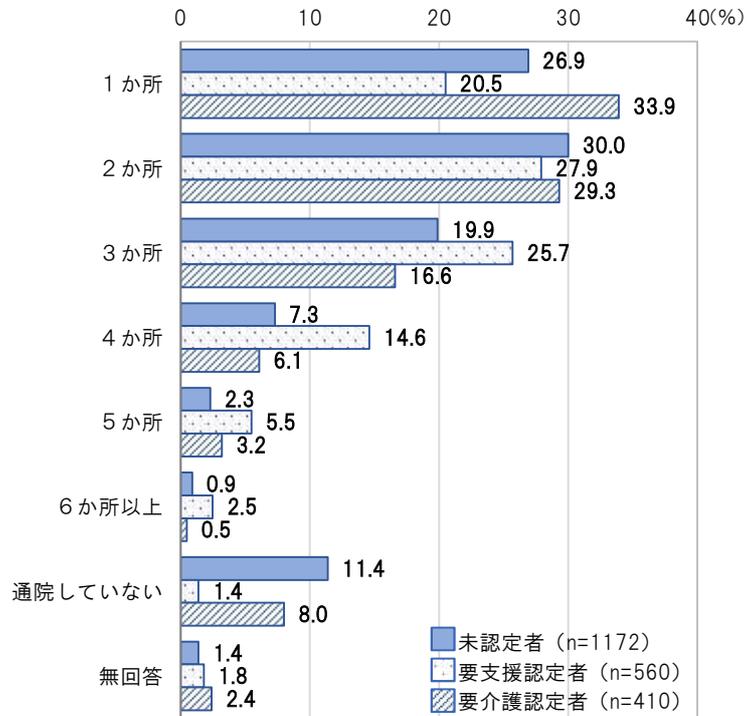
- 現在治療中または後遺症のある病気は、すべての区分で「高血圧」が最も高く、次いで未認定者では「目の病気」、「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」となっているのに対し、要支援認定者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」、「心臓病」、要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」となっている。
- 「ない」が未認定者では1割程度、要支援認定者・要介護認定者では1割未満となっており、要支援認定者・要介護認定者ではほとんど全員が何かしらの病気があることが分かる。



(8) 通院している医療機関数

問 あなたは現在、いくつの病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（1つに○）

○通院している医療機関数は、未認定者・要支援認定者では「2か所」、要介護認定者では「1か所」が最も高くなっている。また、要支援認定者では「3か所」や「4か所」の回答も高くなっている。

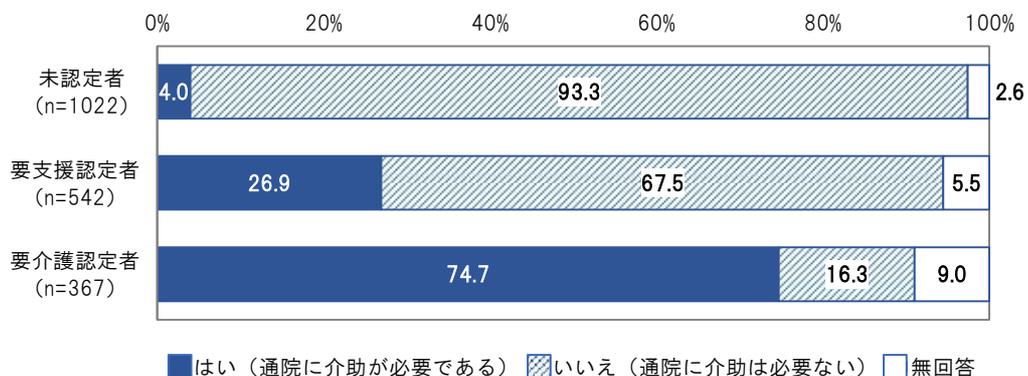


(8-1) 通院への介助の必要性

(8)で「通院していない」と回答した人以外

問 あなたは、通院に介助が必要ですか。（1つに○）

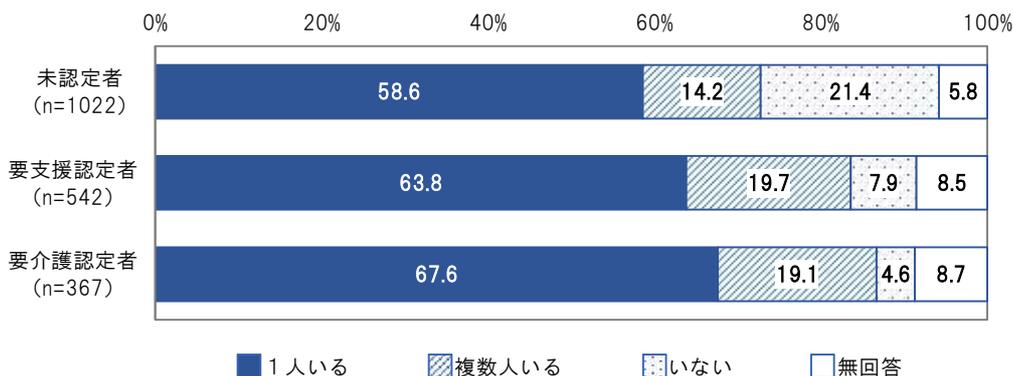
○通院への介助の必要性は、未認定者では「いいえ（通院に介助は必要ない）」が9割を超えており、「はい（通院に介助が必要である）」は1割未満となっているのに対し、要支援認定者では2割以上、要介護認定者では7割以上を占めている。



(8-2) かかりつけ医の有無

(8) で「通院していない」と回答した人以外
 問 通院している病院・医院のうち、安心してなんでも相談できる（例：介護保険の主治医意見書を書いてもらう）お医者さん（かかりつけ医）はいますか。（1つに○）

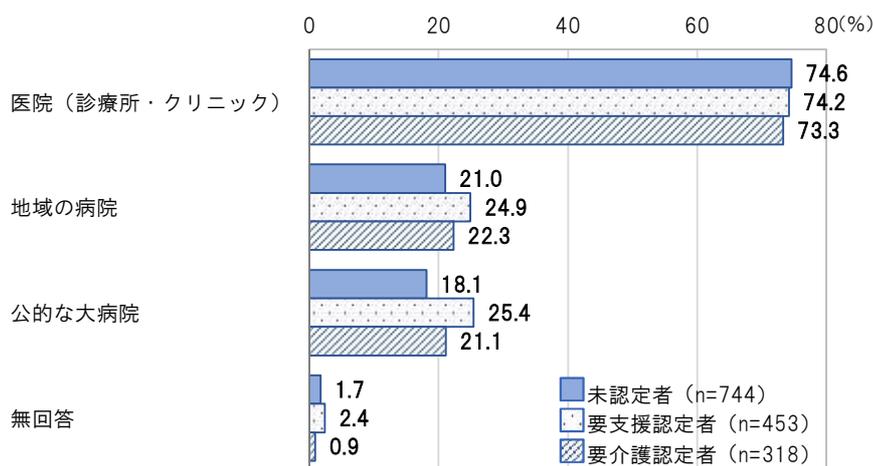
○かかりつけ医の有無は、すべての区分で「1人いる」が最も高く、「複数人いる」と合わせた『いる』の割合は、未認定者では7割以上、要支援認定者・要介護認定者では8割以上を占めている。
 ○また、「いない」が未認定者で2割を超え、要支援認定者・要介護認定者に比べて高くなっている。



(8-2-1) かかりつけの医療機関

(8-2) で「1人いる」または「複数人いる」と回答した人のみ
 問 このかかりつけ医は、どの医療機関ですか。（あてはまるものすべてに○）

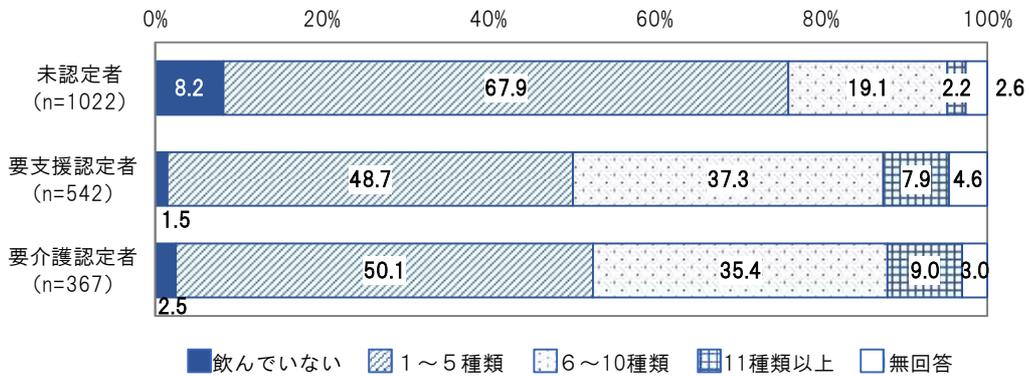
○かかりつけの医療機関は、すべての区分で「医院（診療所・クリニック）」が最も高く、ともに7割以上を占めている。



(8-3) 服薬の種類

(8) で「通院していない」と回答した人以外
 問 あなたが現在飲んでいるお薬は、全部で何種類ありますか。(1つに○)

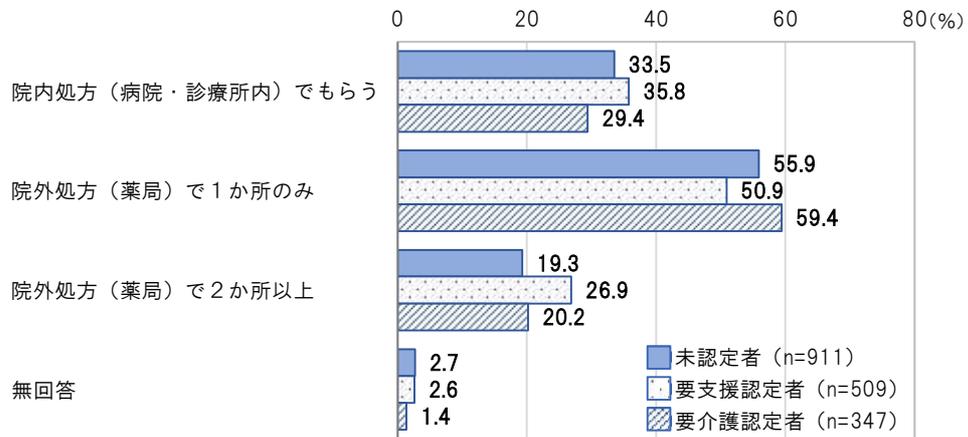
○服薬の種類は、すべての区分で「1～5種類」が最も高くなっているものの、要支援認定者・要介護認定者では「6～10種類」が3割以上、「11種類以上」が1割近くを占めている。



(8-3-1) 医薬品の受け取り先

(8-3) で「飲んでいない」と回答した人以外
 問 何か所（薬局、病院内とも）からお薬をもらっていますか。(あてはまるものすべてに○)

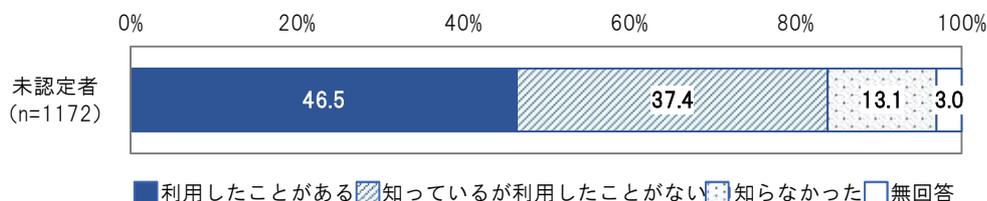
○医薬品の受け取り先は、すべての区分で「院外処方（薬局）で1か所のみ」が最も高く、次いで「院内処方（病院・診療所内）でもらう」となっている。



(9) 特定健診・後期高齢者健康診査・健康相談（市実施）の利用状況《未認定のみ》

問 あなたは、医療保険者が実施する「特定健診」や「後期高齢者健康診査」、市が実施する「健康相談」を利用したことがありますか。（1つに○）

○特定健診等の利用状況は、「利用したことがある」が4割を超えているものの、「知っているが利用したことがない」と「知らなかった」を合わせた『利用していない』が約半数を占めている。



(10) 特定健診・後期高齢者健康診査・健康相談（市実施）の今後の利用意向《未認定のみ》

問 あなたは、医療保険者が実施する「特定健診」や「後期高齢者健康診査」、市が実施する「健康相談」について、今後利用したいと思いますか。（1つに○）

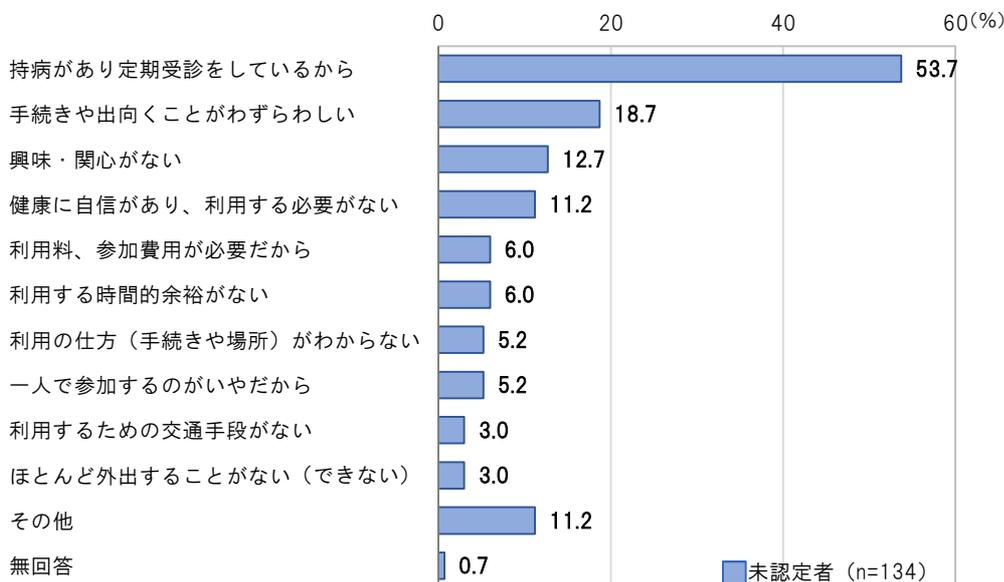
○特定健診等の今後の利用意向は、「利用したい」が半数以上を占めている。



(10-1) 特定健診・後期高齢者健康診査・健康相談（市実施）を利用したくない理由《未認定のみ》

(10) で「利用したくない」と回答した人のみ
 問 「特定健診」や「後期高齢者健康診査」「健康相談」を今後利用したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

○特定健診等を今後利用したくないと思う理由は、「持病があり定期受診をしているから」が半数を超えて最も高く、次いで「手続きや出向くことがわずらわしい」、「興味・関心がない」の順となっている。

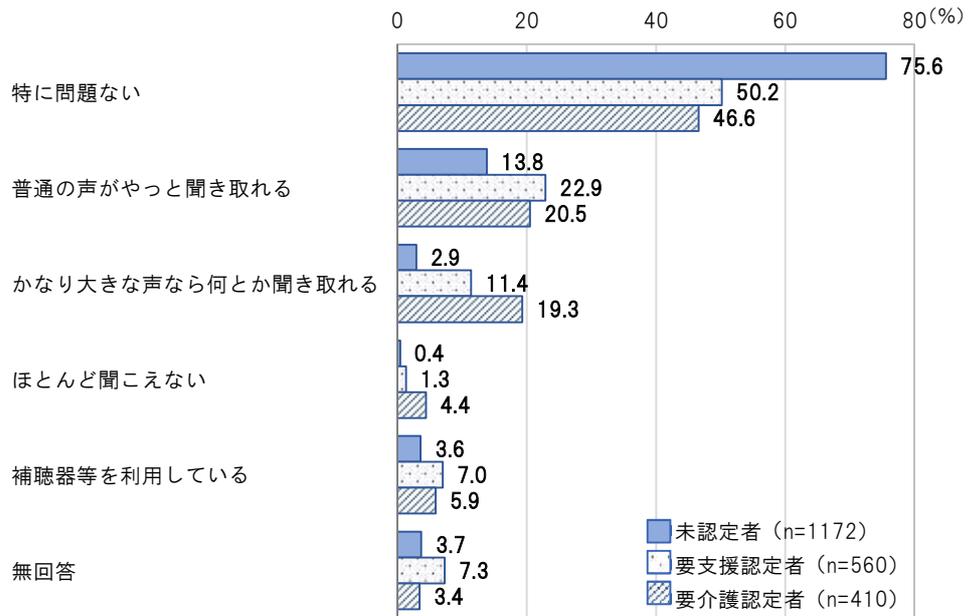


(11) 人の話の聞き取りづらさの有無

問 生活の中で、人の話が聞き取りづらいことがありますか。(1つに○)

○人の話の聞き取りづらさの有無は、すべての区分で「特に問題ない」が最も高くなっているものの、未認定者では7割を超えているのに対し、要支援認定者・要介護認定者では半数程度となっている。

○要支援認定者では「普通の声がやっと聞き取れる」が2割以上、要介護認定者では「普通の声がやっと聞き取れる」及び「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」が約2割を占めている。



《年齢別 (未認定者)》

○未認定者での人の話の聞き取りづらさの有無を年齢別にみると、年齢が下がるほど「特に問題ない」が高くなっており、特に65～69歳では約9割を占めているのに対し、85～89歳では約半数、90歳以上では3割未満となっており、85歳を境に耳の聞こえの状況に支障が出ている人が多い結果となっている。

		回答者数 (人)	特に問題ない	普通の声がやっと聞き取れる	かなり大きな声なら何とか聞き取れる	ほとんど聞こえない	補聴器等を利用している	無回答
年代別	65～69歳	235	89.4	7.2	0.9	-	0.9	1.7
	70～74歳	345	79.4	13.9	1.4	0.3	1.2	3.8
	75～79歳	297	73.7	15.5	3.0	-	5.1	2.7
	80～84歳	204	68.1	14.7	5.4	1.0	5.9	4.9
	85～89歳	72	50.0	22.2	8.3	1.4	9.7	8.3
	90歳以上	14	28.6	35.7	7.1	7.1	14.3	7.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《年齢別（要支援認定者・要介護認定者）》

○要支援認定者・要介護認定者での人の話の聞き取りづらさの有無を年齢別にみると、ともに年齢が上がるほど「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」が高くなっており、特に85歳以上では、要支援認定者では1割以上、要介護認定者では2割以上となっています。

○また、要介護認定者では、「ほとんど聞こえない」が90歳以上で1割近くとなっています。

(%)

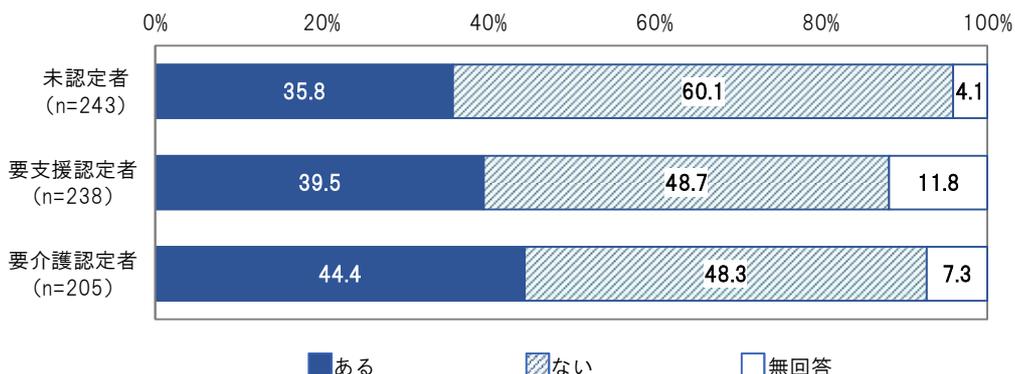
		回答者数 (人)	特に問題ない	普通の声 がやっ と聞き 取れる	かなり 大きな 声なら 何とか 聞き 取れる	ほとん ど聞こ え ない	補聴器 等を利用 している	無回答
要支援 認定者	65～69歳	15	73.3	20.0	-	-	-	6.7
	70～74歳	51	66.7	17.6	5.9	-	-	9.8
	75～79歳	94	58.5	23.4	9.6	2.1	2.1	4.3
	80～84歳	179	46.9	24.6	8.9	0.6	8.9	10.1
	85～89歳	131	49.6	22.1	16.0	0.8	5.3	6.1
	90歳以上	89	34.8	23.6	16.9	3.4	15.7	5.6
要介護 認定者	65～69歳	17	76.5	5.9	-	5.9	-	11.8
	70～74歳	47	63.8	17.0	4.3	6.4	4.3	4.3
	75～79歳	54	66.7	9.3	14.8	-	1.9	7.4
	80～84歳	84	52.4	20.2	17.9	2.4	4.8	2.4
	85～89歳	106	34.9	28.3	23.6	3.8	7.5	1.9
	90歳以上	101	30.7	22.8	27.7	7.9	8.9	2.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(11-1) 聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無

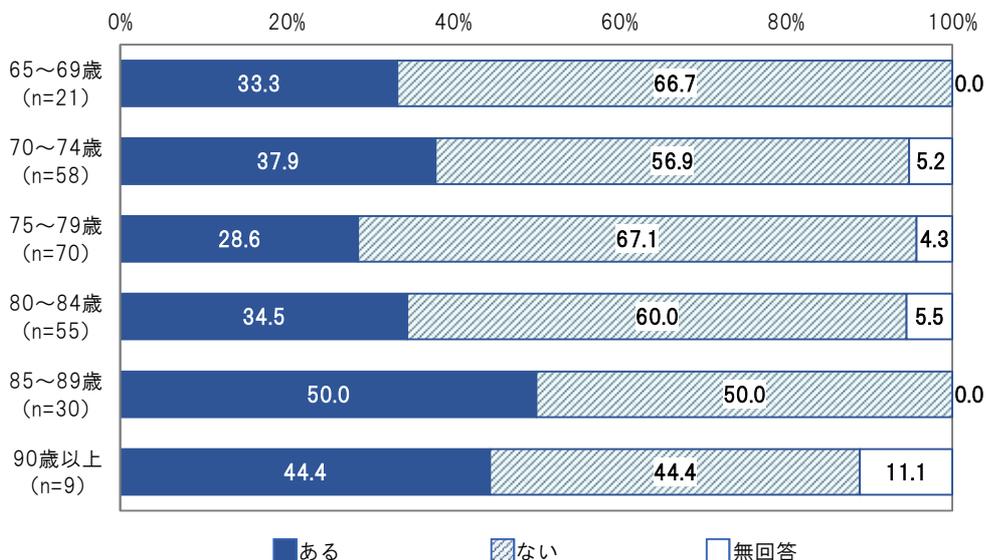
(11) で「特に問題ない」と回答した人以外
 問 人の話が聞き取りづらいことで、外出の頻度が減ったり、人と話すことが嫌になることはありますか。(1つに○)

○聞き取りづらさのために外出が嫌になることは、すべての区分で「ない」が「ある」を上回っているものの、介護度が高くなるほど「ある」が高くなっており、要介護認定者では4割以上を占めている。



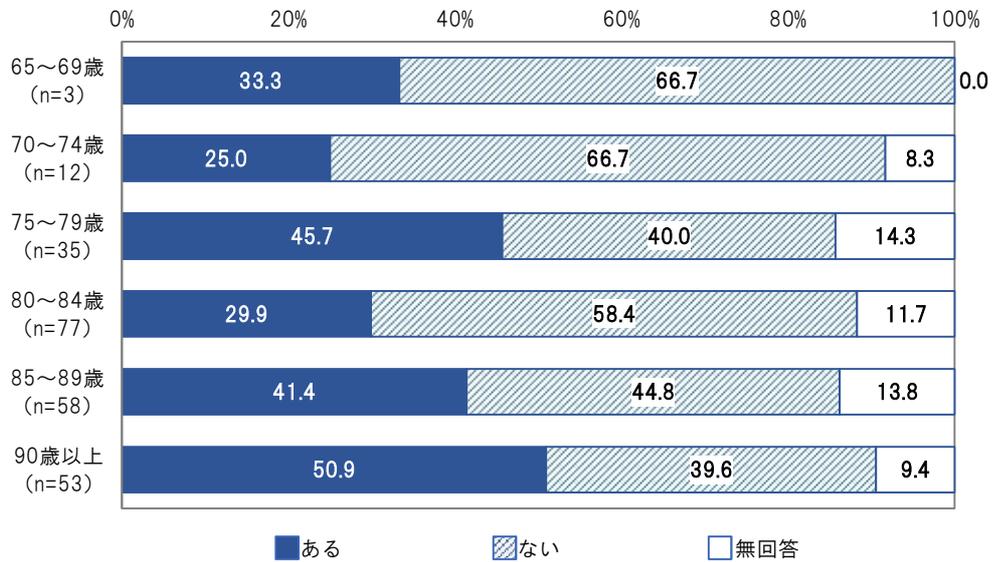
《年齢別（未認定者）》

○未認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、85～89歳で「ある」が約半数を占めて最も高くなっている。



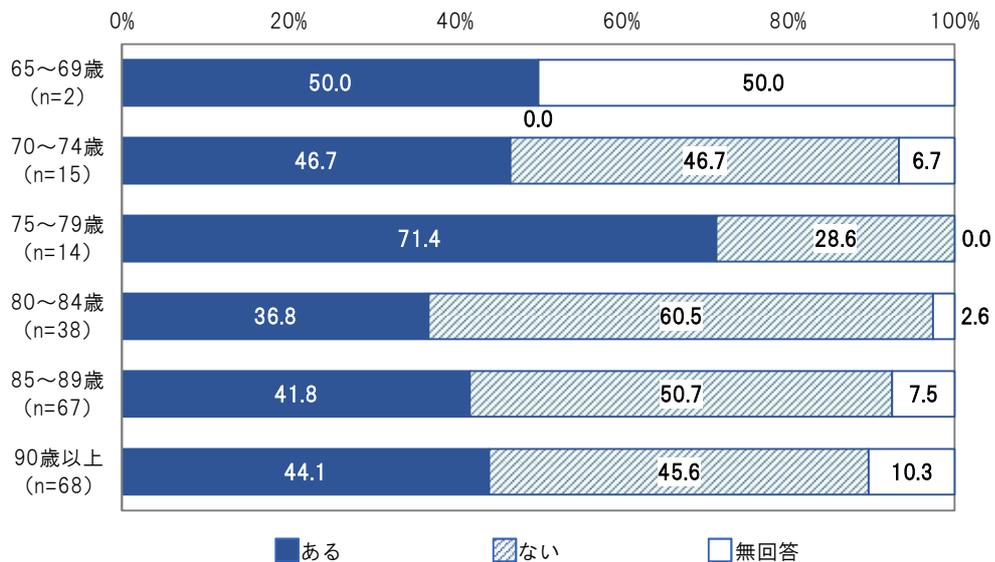
《年齢別（要支援認定者）》

○要支援認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、90歳以上で約半数、75～79歳・85～89歳で4割以上と高くなっているものの、概ね年齢が上がるにつれて「ある」が高くなる傾向がみられる。



《年齢別（要介護認定者）》

○要介護認定者での聞き取りづらさのために外出が嫌になることの有無を年齢別にみると、75～79歳で「ある」が7割を超えて最も高くなっている。

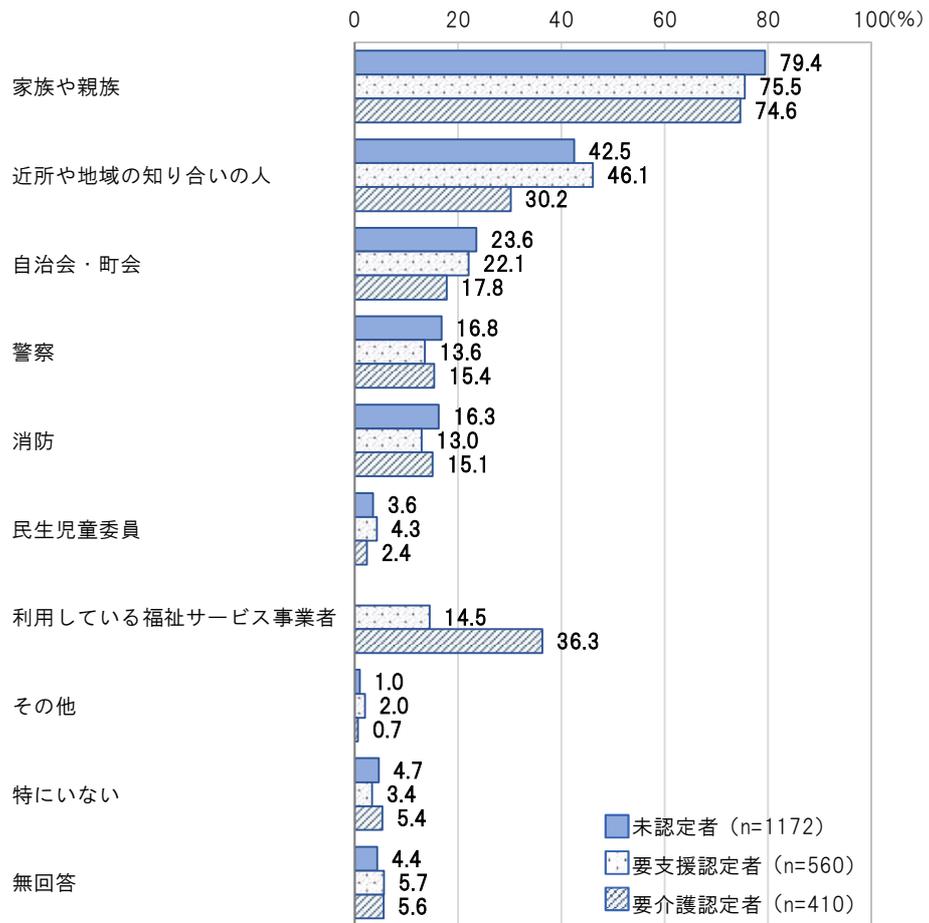


9. 災害時や緊急時の対応などについて

(1) 災害時の避難に際して安否確認等の声かけをしてもらいたいと思う人

問 あなたが災害時の避難に際して、安否確認等の声かけをしてもらいたいと思う人を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

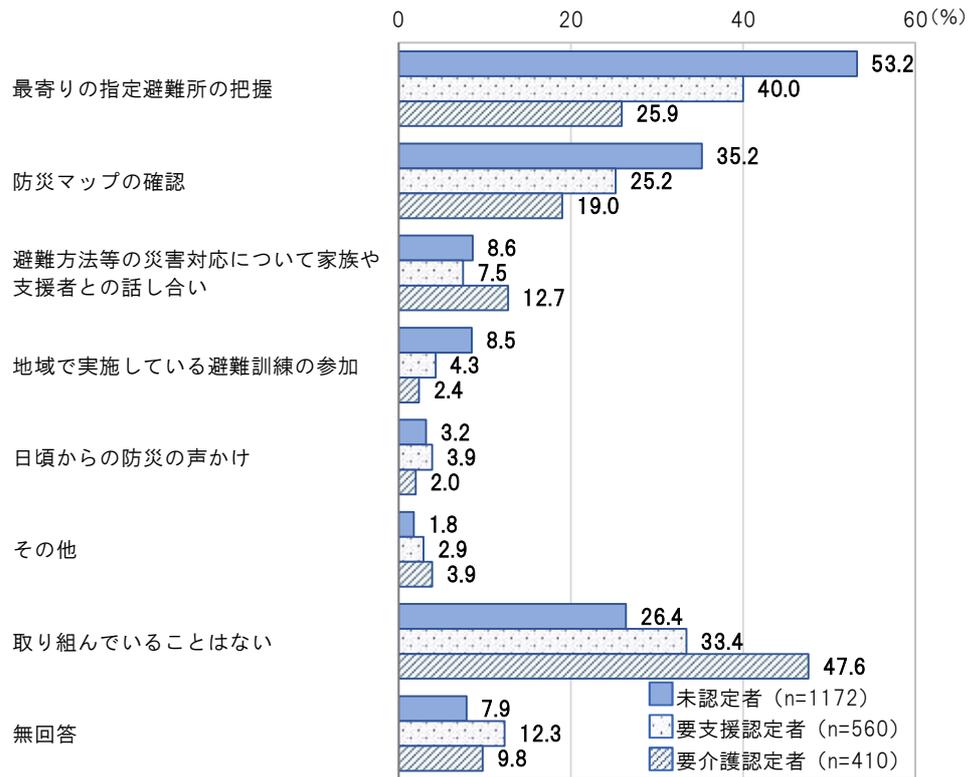
○災害時の避難に際して安否確認等の声かけをしてもらいたいと思う人は、すべての区分で「家族や親族」が最も高く、次いで、未認定者・要支援認定者では「近所や地域の知り合いの人」、要介護認定者では「利用している福祉サービス事業者」となっている。



(2) 災害に備えて日頃から取り組んでいること

問 地震や台風などの災害に備えて、あなたが日頃から取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 災害に備えて日頃から取り組んでいることは、未認定者・要支援認定者では「最寄りの指定避難所の把握」が最も高く、次いで「防災マップの確認」となっている。
- 介護度が高くなるほど「取り組んでいることはない」が高くなる傾向がみられ、要介護認定者では半数近くを占めている。



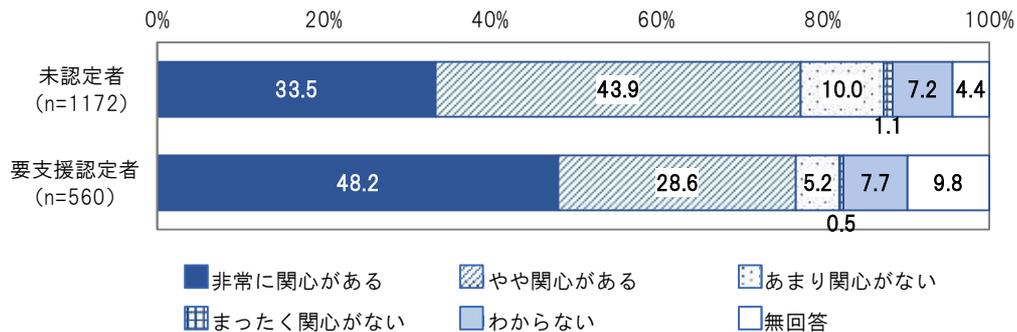
10. 高齢者に対するサービスについて

(1) 介護予防への関心度《未認定・要支援のみ》

問 あなたは介護予防（介護が必要な状態にならないように予防すること、もしくは要介護度が重くならないように予防すること）に関心がありますか。（1つに○）

○介護予防への関心度は、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』が未認定者・要支援認定者ともに8割近くを占めている。

○また、未認定者では「やや関心がある」が最も高くなっているのに対し、要支援認定者では「非常に関心がある」が半数近くを占めて高くなっている。

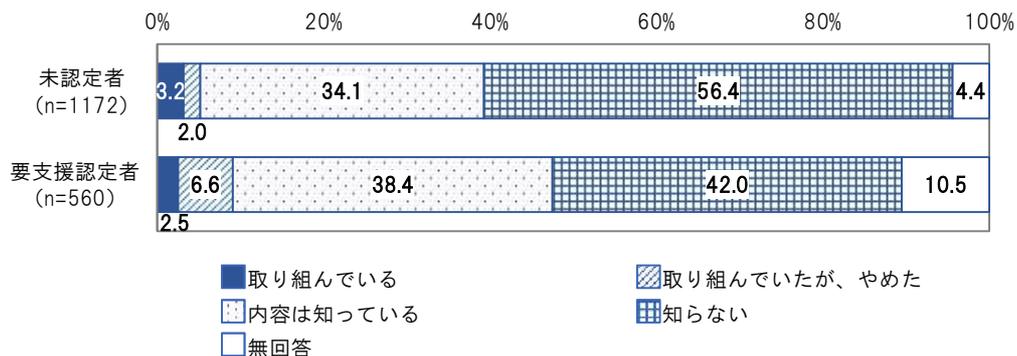


(2) 「尼崎市いきいき 100 万歩運動」の認知度《未認定・要支援のみ》

問 本市では、個々のウォーキングを推奨する「尼崎市いきいき 100 万歩運動」に取り組んでいますが、あなたはこのことを知っていますか。（1つに○）

○“尼崎市いきいき 100 万歩運動”の認知度は、未認定者・要支援認定者ともに「知らない」が最も高く、「内容は知っている」と合わせた『取り組んでいない』が大半を占めている。

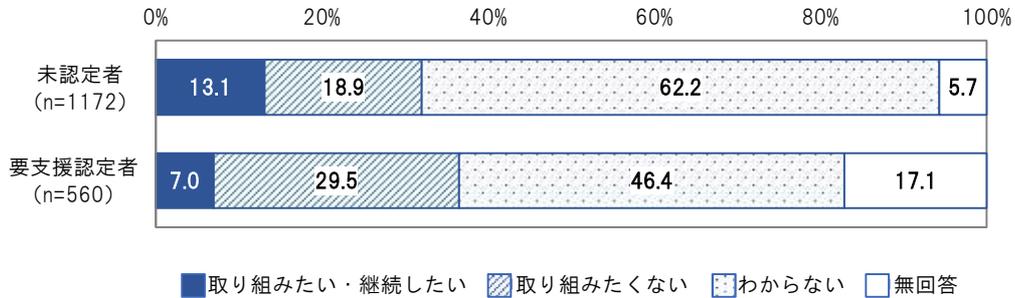
○「取り組んでいる」の割合をみると、未認定者・要支援認定者ともに5%未満となっている。



(3) 「尼崎市いきいき 100 万歩運動」への今後の取組意向《未認定・要支援のみ》

問 「尼崎市いきいき 100 万歩運動」に今後取り組みたいと思いますか。(1つに○)

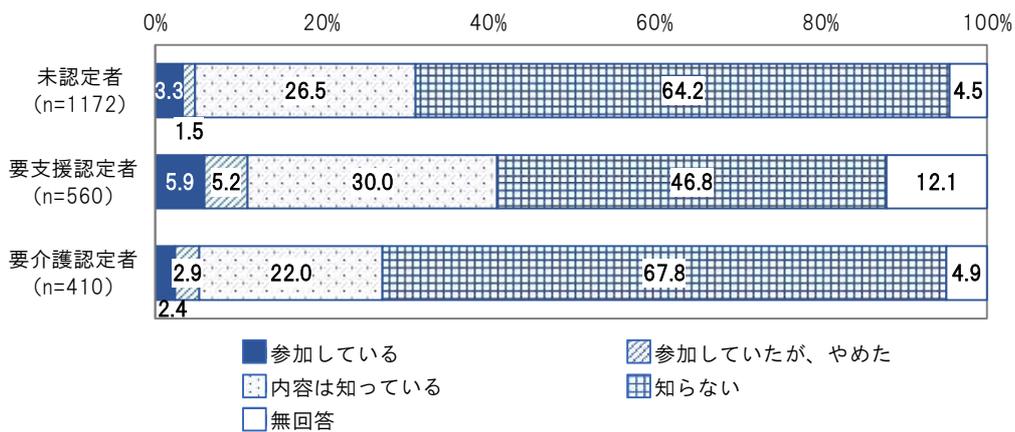
○ “尼崎市いきいき 100 万歩運動” への今後の取組意向は、「取り組みたい・継続したい」が未認定者では1割以上、要支援認定者では1割近くとなっている。



(4) 「いきいき百歳体操」の認知度

問 本市では、みんなで集まって体操する「いきいき百歳体操」に取り組んでいます。あなたはこのことを知っていますか。(1つに○)

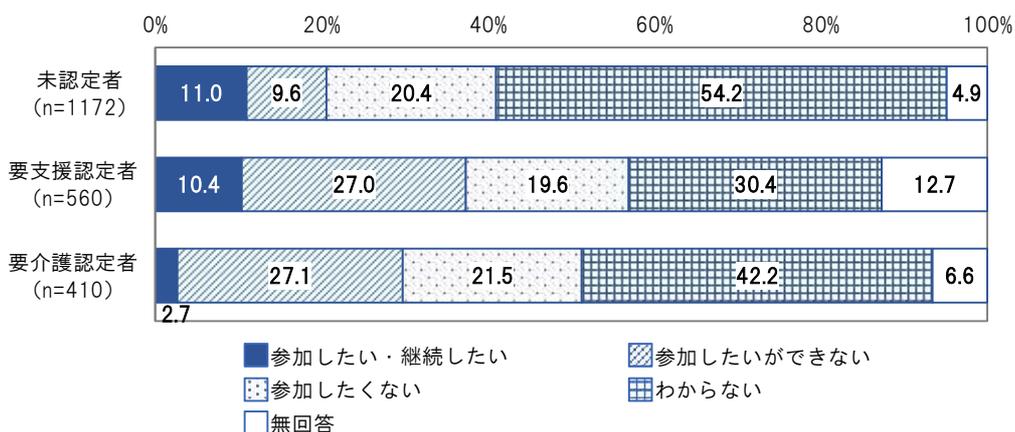
○ “いきいき百歳体操” の認知度は、すべての区分で「知らない」が最も高く、「内容は知っている」と合わせた『取り組んでいない』が大半を占め、「取り組んでいる」は1割未満となっている。



(5) 「いきいき百歳体操」への今後の取組意向

問 「いきいき百歳体操」に今後取り組みたいと思いますか。(1つに○)

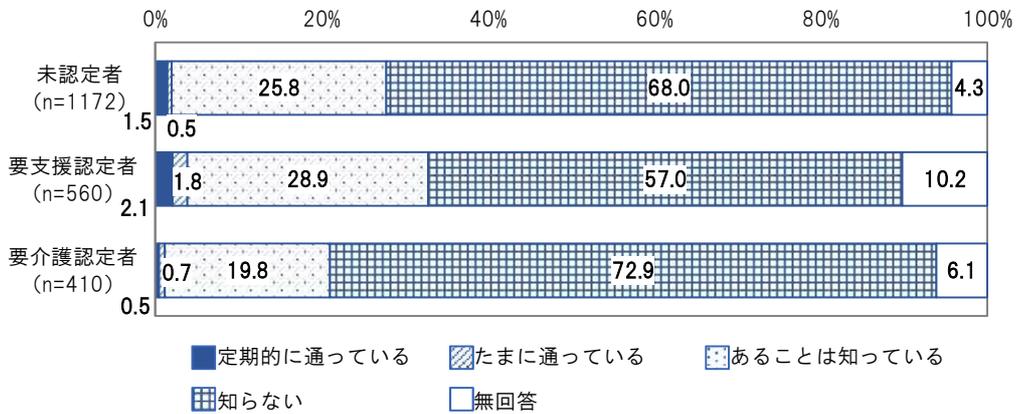
○ “いきいき百歳体操” への今後の取組意向は、未認定者・要支援認定者では「参加したい・継続したい」が約1割となっている。



(6) 「高齢者ふれあいサロン」の認知度

問 本市では、高齢者が集まって茶話会や交流をする「高齢者ふれあいサロン」を設けていますが、あなたはこのことを知っていますか。(1つに○)

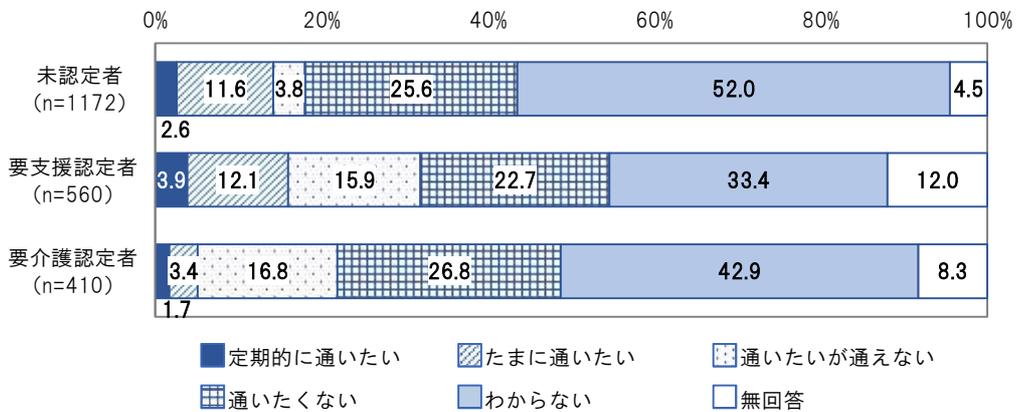
○ “高齢者ふれあいサロン”の認知度は、すべての区分で「知らない」が最も高く、「あることは知っている」と合わせた『通っていない』が大半を占め、「通っている」は1割未満となっている。



(7) 「高齢者ふれあいサロン」への今後の参加意向

問 「高齢者ふれあいサロン」に今後立ち寄ってみたいと思いますか。(1つに○)

○ “高齢者ふれあいサロン”への今後の参加意向は、未認定者・要支援認定者では「定期的に通いたい」と「たまに通いたい」を合わせた『通いたい』がともに1割を超えている。

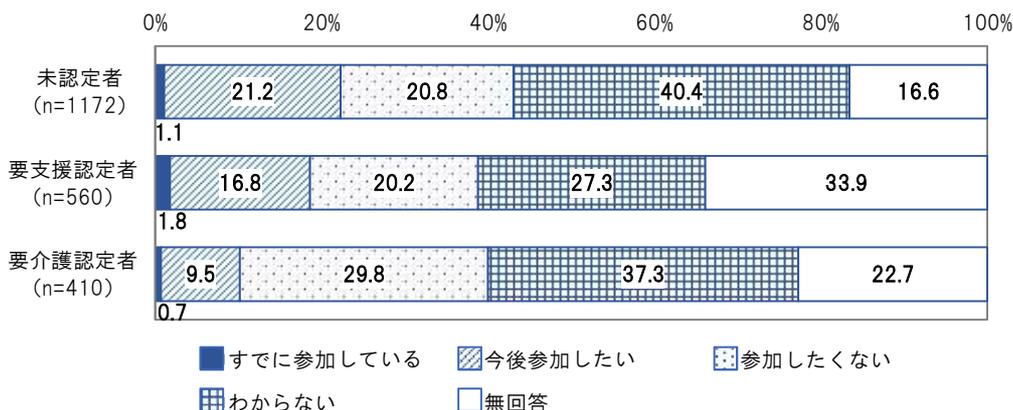


(8) 健康を維持・増進するための教室や講座への参加意向

問 健康を維持、増進するための次のような教室や講座がありますが、参加したいと思いますか。
(各教室、1つに○)

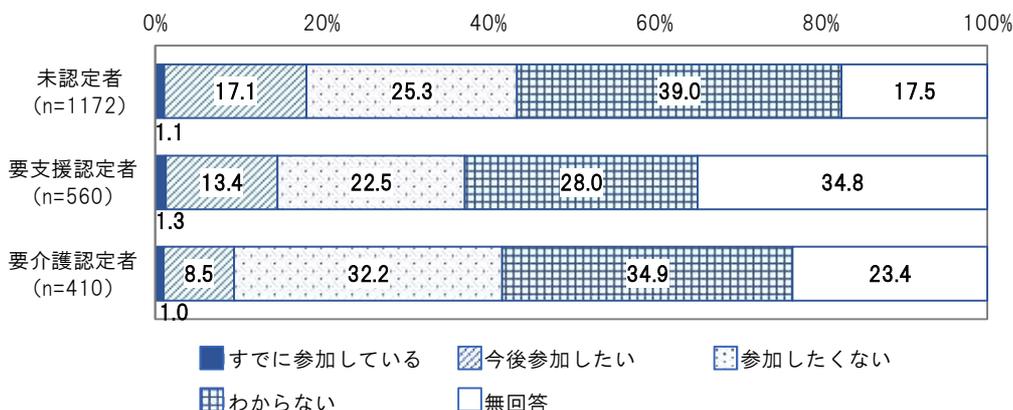
① 生活習慣病を予防するための教室

○生活習慣病を予防するための教室への参加意向は、「すでに参加している」と「今後参加したい」を合わせた『参加したい』が未認定者では2割以上、要支援認定者では2割近く、要介護認定者では約1割となっている。



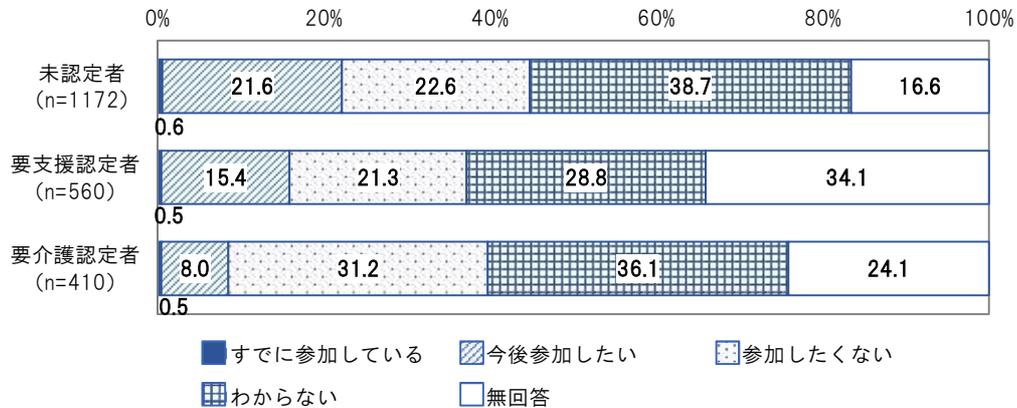
② 健康な歯や歯ぐきを維持するための教室

○健康な歯や歯ぐきを維持するための教室への参加意向は、『参加したい』が未認定者では2割近く、要支援認定者では1割以上、要介護認定者では約1割となっている。



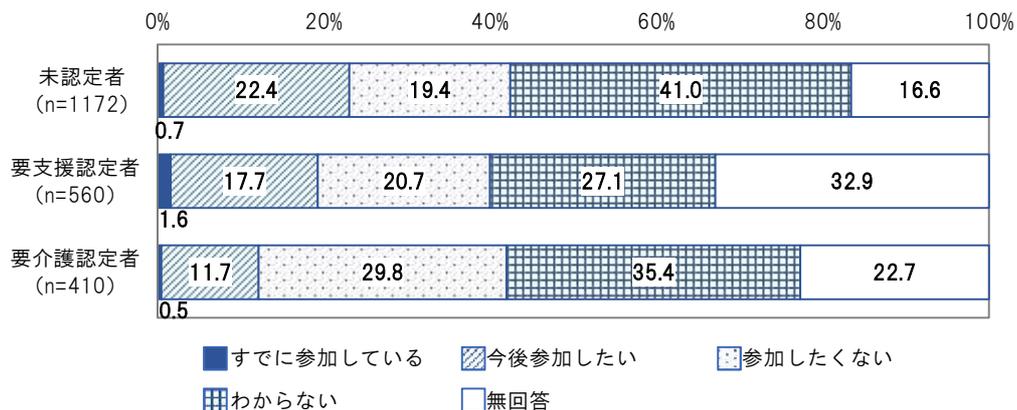
③ 食生活を改善するための教室

○食生活を改善するための教室への参加意向は、「すでに参加している」と「今後参加したい」を合わせた『参加したい』が未認定者では2割以上、要支援認定者では2割近く、要介護認定者では1割近くとなっている。



④ 介護予防のための教室・講座

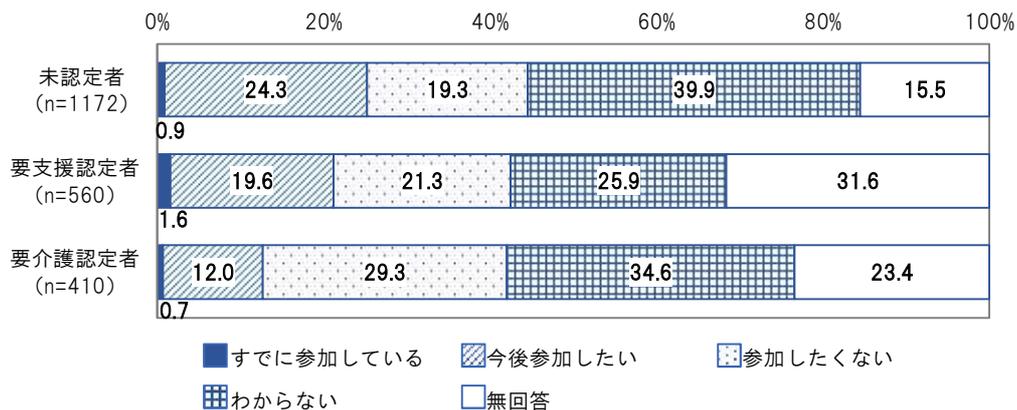
○介護予防のための教室・講座への参加意向は、『参加したい』が未認定者では2割以上、要支援認定者では約2割、要介護認定者では1割以上となっている。



⑤ 認知症に関する教室・講座

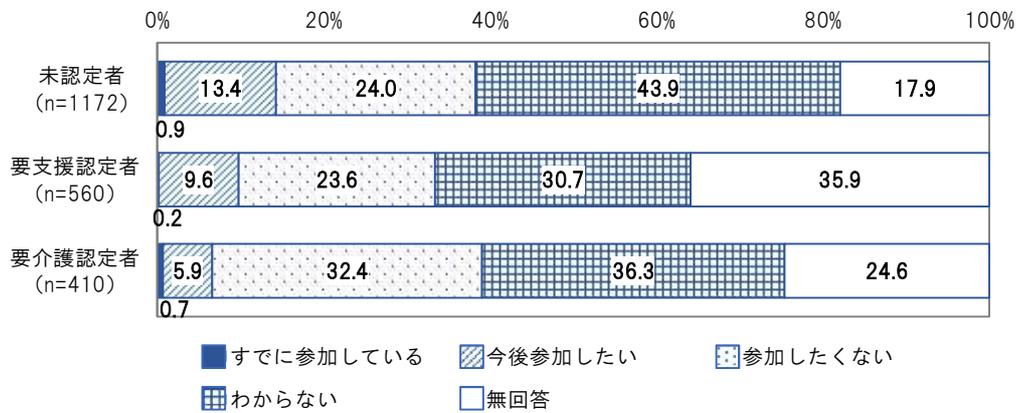
○認知症に関する教室・講座への参加意向は、『参加したい』が未認定者・要支援認定者では2割以上、要介護認定者では1割以上となっている。

○①～⑦の教室や講座の中で最も参加意向が高くなっている。



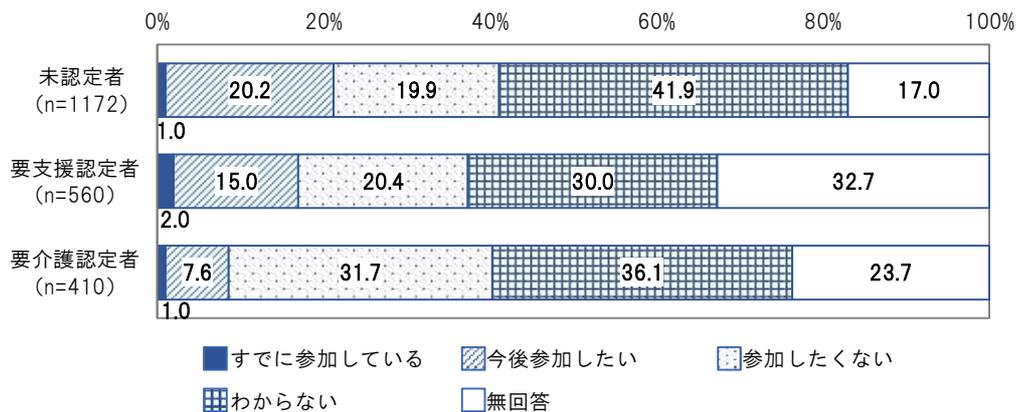
⑥ 民間事業者による文化教室

○民間事業者による文化教室への参加意向は、「すでに参加している」と「今後参加したい」を合わせた『参加したい』が未認定者では1割以上、要支援認定者では約1割となっている。



⑦ 地域で行われている健康維持のための活動・講座

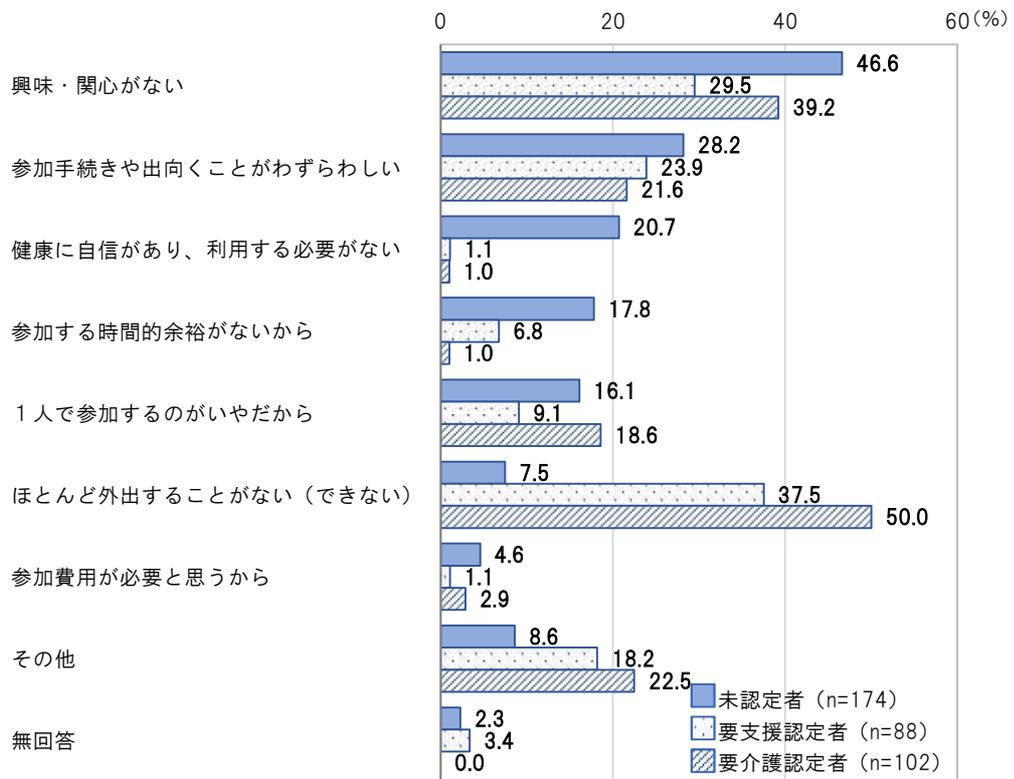
○地域で行われている健康維持のための活動・講座への参加意向は、『参加したい』が未認定者では2割以上、要支援認定者では2割近く、要介護認定者では1割近くとなっている。



(8-1) 健康を維持・増進するための教室や講座に参加したくないと思う理由

(8) ですべてに「参加したくない」と回答した人のみ
 問 健康を維持、増進するための教室・講座に参加したくないと思う理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

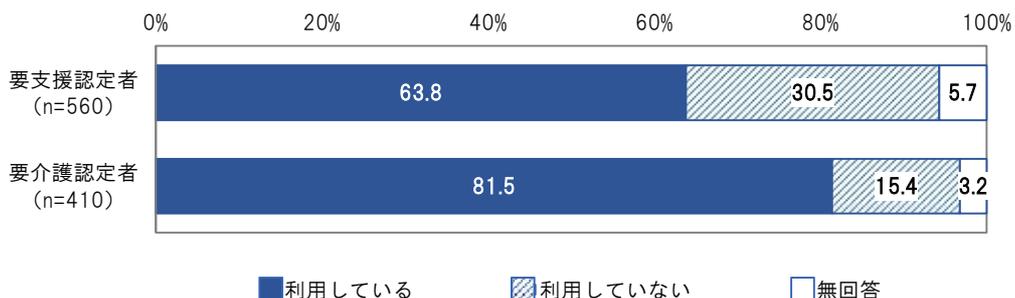
- 健康を維持・増進するための教室や講座に参加したくない理由は、未認定者では「興味・関心がない」が最も高く、次いで「参加手続きや出向くことがわずらわしい」、「健康に自信があり、利用する必要がない」の順となっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では「ほとんど外出することがない(できない)」が最も高くなっている。



(9) 介護保険サービスの利用状況《要支援・要介護のみ》

問 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

- 介護保険サービスの利用状況は、要支援認定者・要介護認定者ともに「利用している」が「利用していない」を上回っており、特に要介護認定者では利用率が8割を超えている。



(9-1) 介護保険サービスを利用していない理由《要支援・要介護のみ》

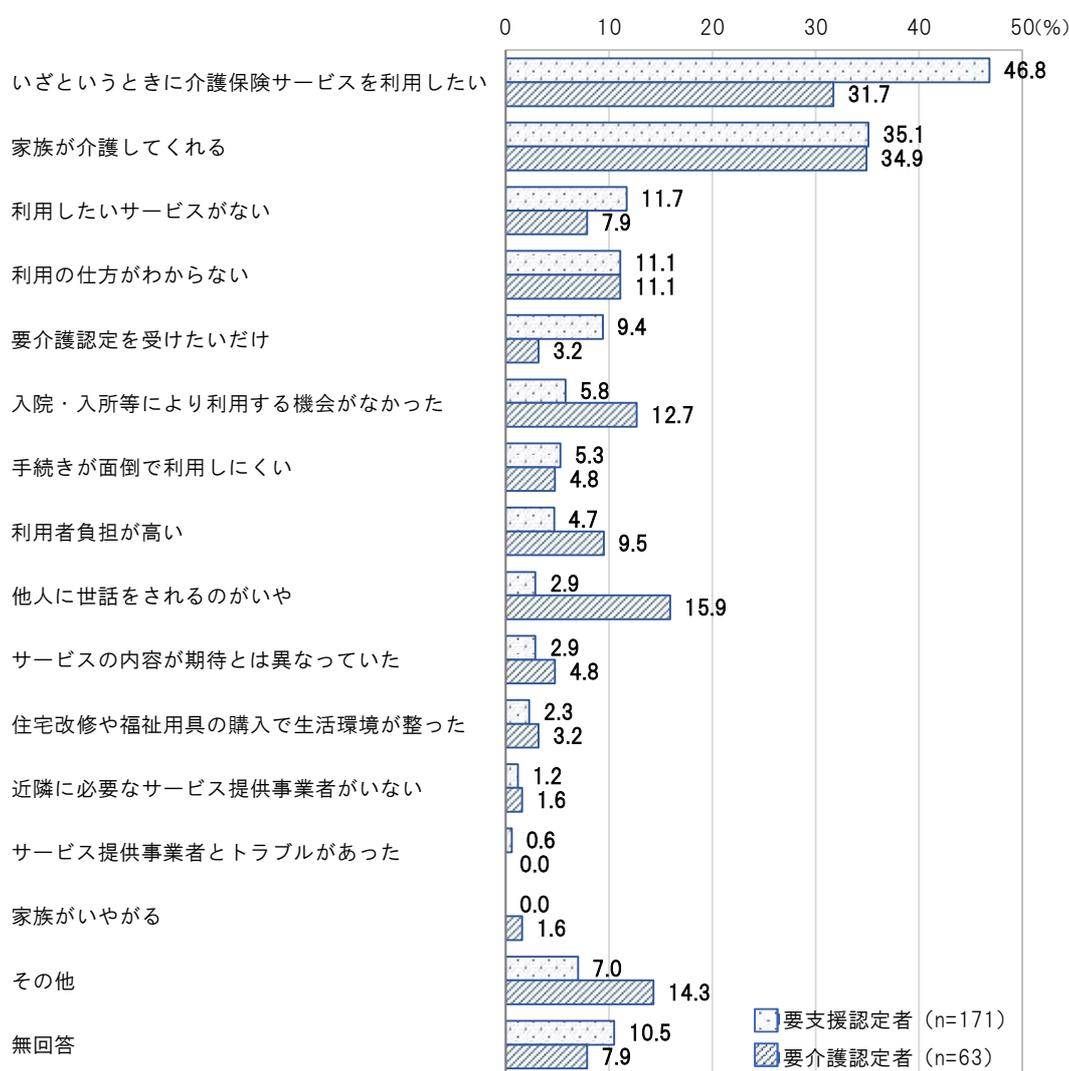
(9) で「利用していない」と回答した人のみ

問 現在、介護保険の居宅サービスを利用していない主な理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

○介護保険サービスを利用していない理由は、要支援認定者では「いざというときに介護保険サービスを利用したい」、要介護認定者では「家族が介護してくれる」が最も高くなっている。

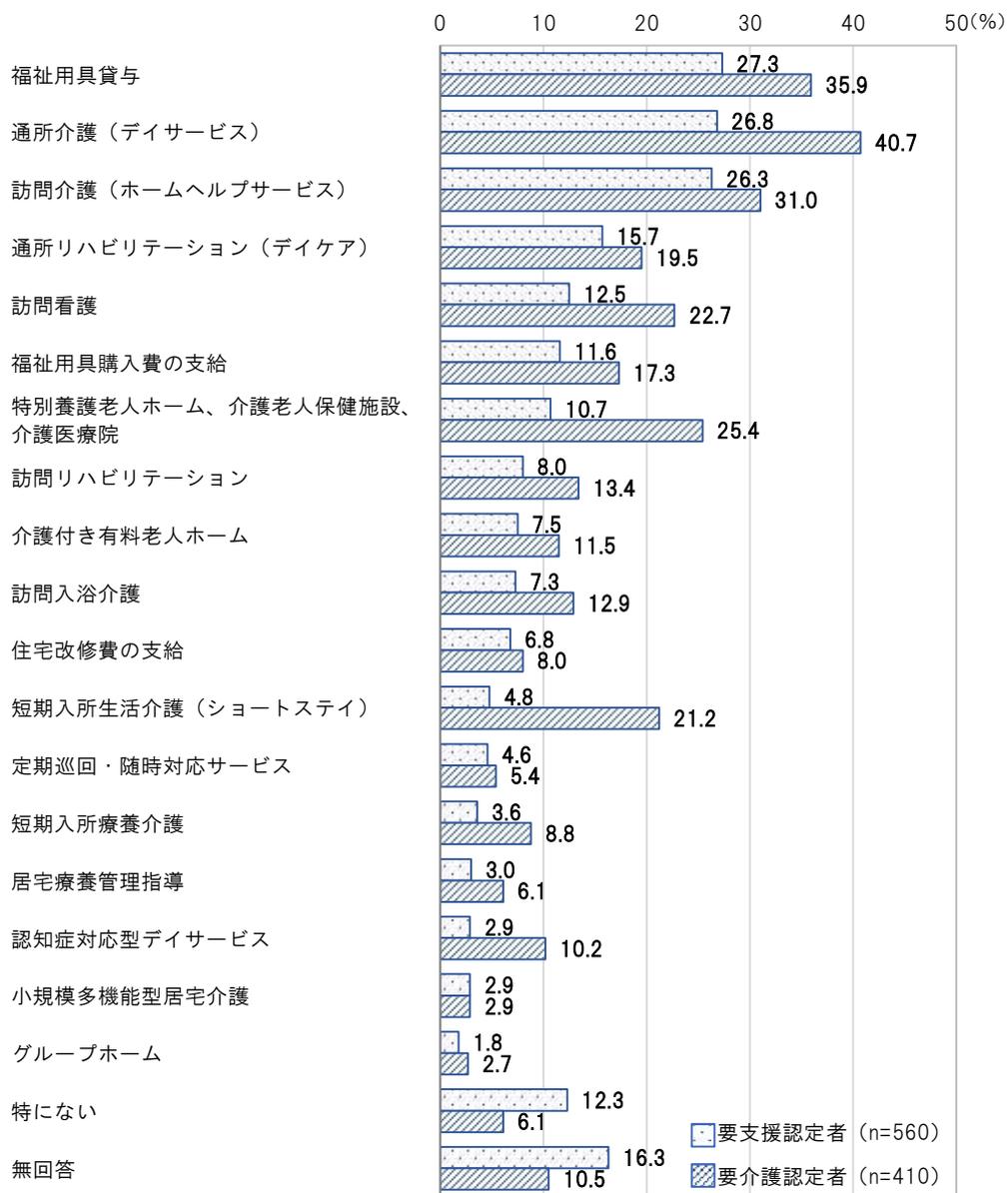
○その他、要支援認定者では「利用したいサービスがない」や「要介護認定を受けたいだけ」が要介護認定者に比べて高く、要介護認定者では「入院・入所等により利用する機会がなかった」や「利用者負担が高い」、「他人に世話をされるのがいや」などで要支援認定者に比べて高くなっている。



(10) 今後利用したい介護保険サービス《要支援・要介護のみ》

問 今後、何らかの介護保険サービスを利用したいと思いますか。継続して利用したいサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

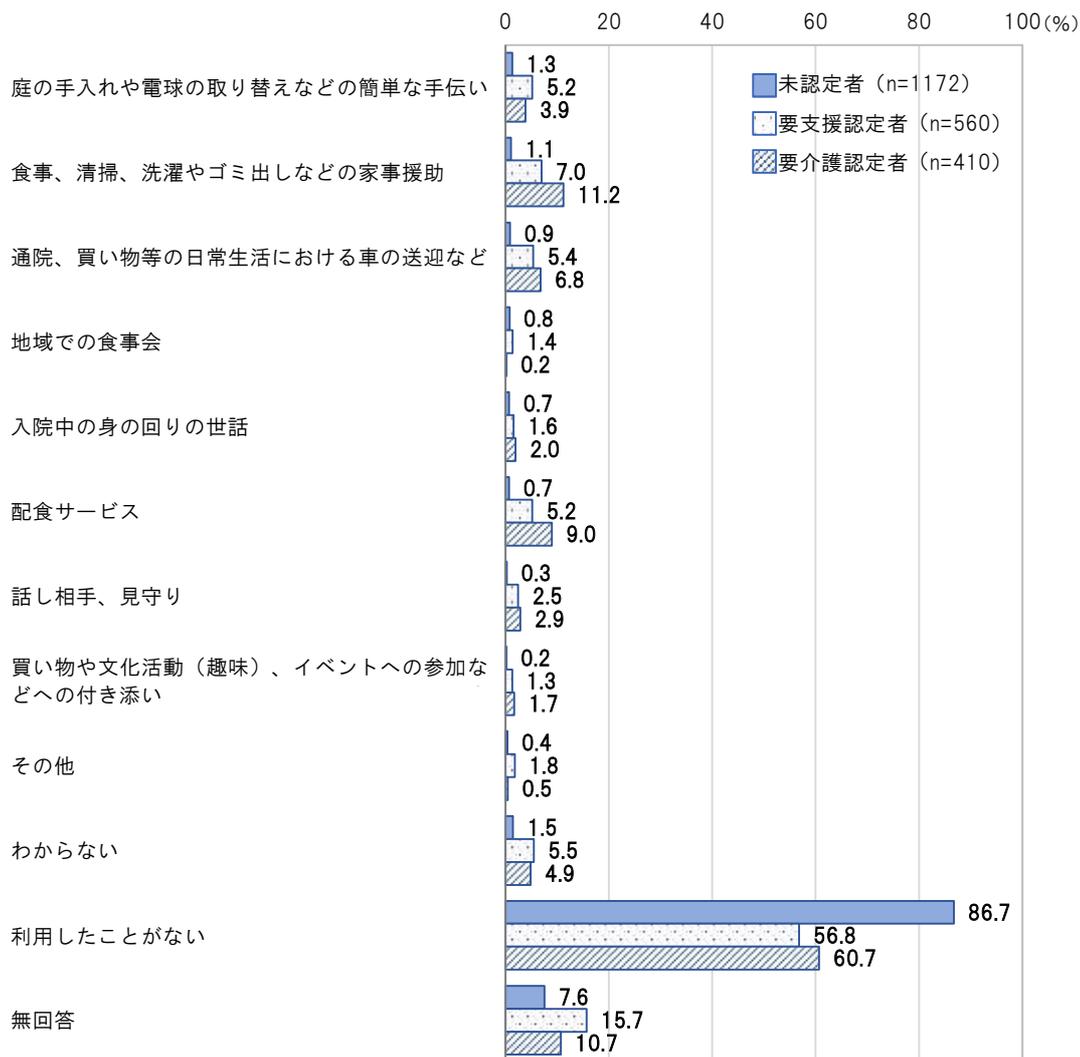
- 今後利用したい介護保険サービスは、要支援認定者では「福祉用具貸与」が最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」の順となっている。
- 要介護認定者では、「通所介護（デイサービス）」が最も高く、次いで「福祉用具貸与」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」の順となっている。
- また、すべての項目で要支援認定者に比べて要介護認定者の割合が高く、特に「通所介護（デイサービス）」や「訪問看護」、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院」、「短期入所生活介護（ショートステイ）」ではその差が大きい。



(11) 介護保険サービス以外で利用したことがあるサービス

問 あなたは、介護保険のサービス以外で、次のサービスを利用したことがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

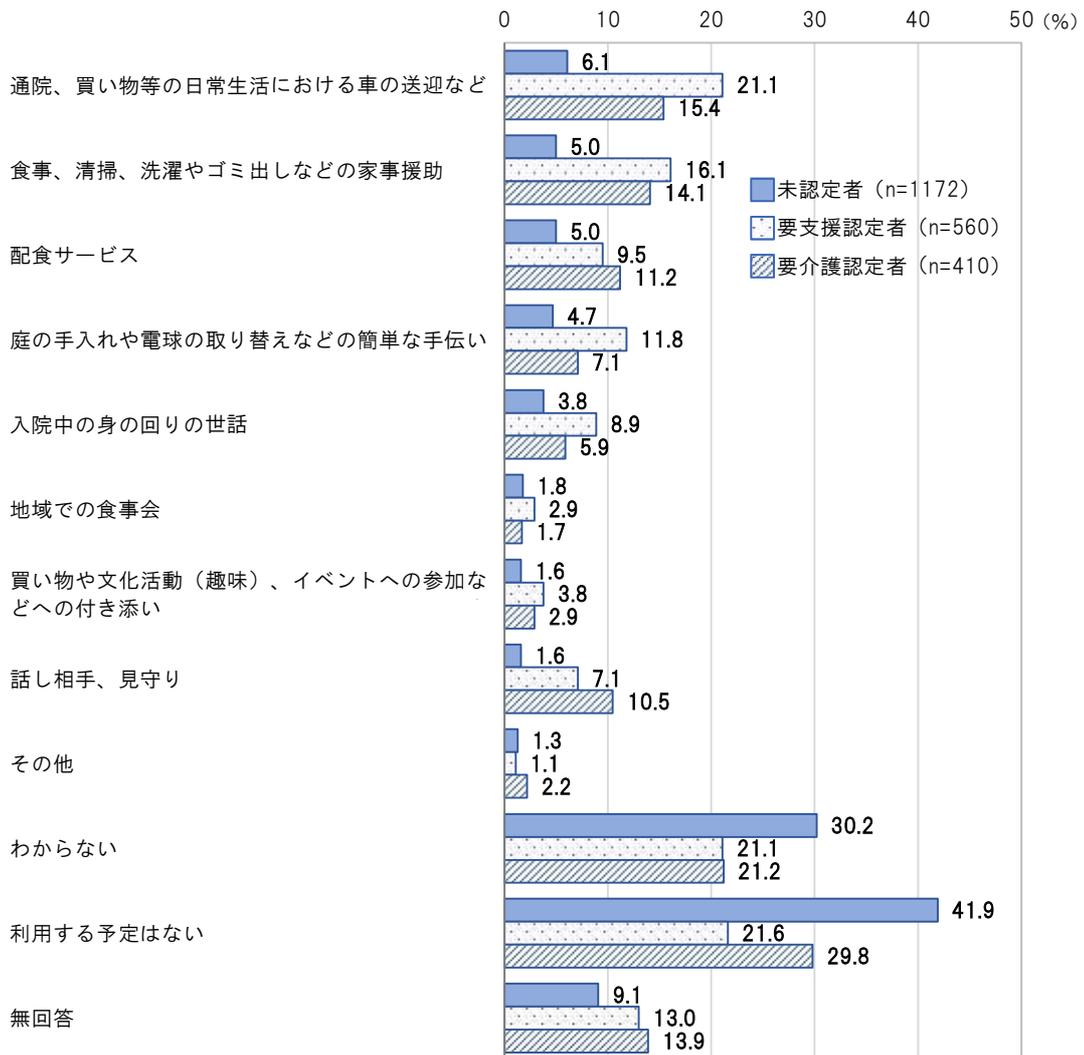
- 介護保険サービス以外で利用したことがあるサービスは、すべての区分で「利用したことがない」が最も高く、特に未認定者では8割を超えて高くなっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では3割程度の利用があり、その中でも「食事、清掃、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」が最も高く、次いで「配食サービス」、「通院、買い物等の日常生活における車の送迎など」の順となっている。



(12) 介護保険サービス以外で今後利用したいサービス

問 あなたは、介護保険のサービス以外で、今後利用したいサービスは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

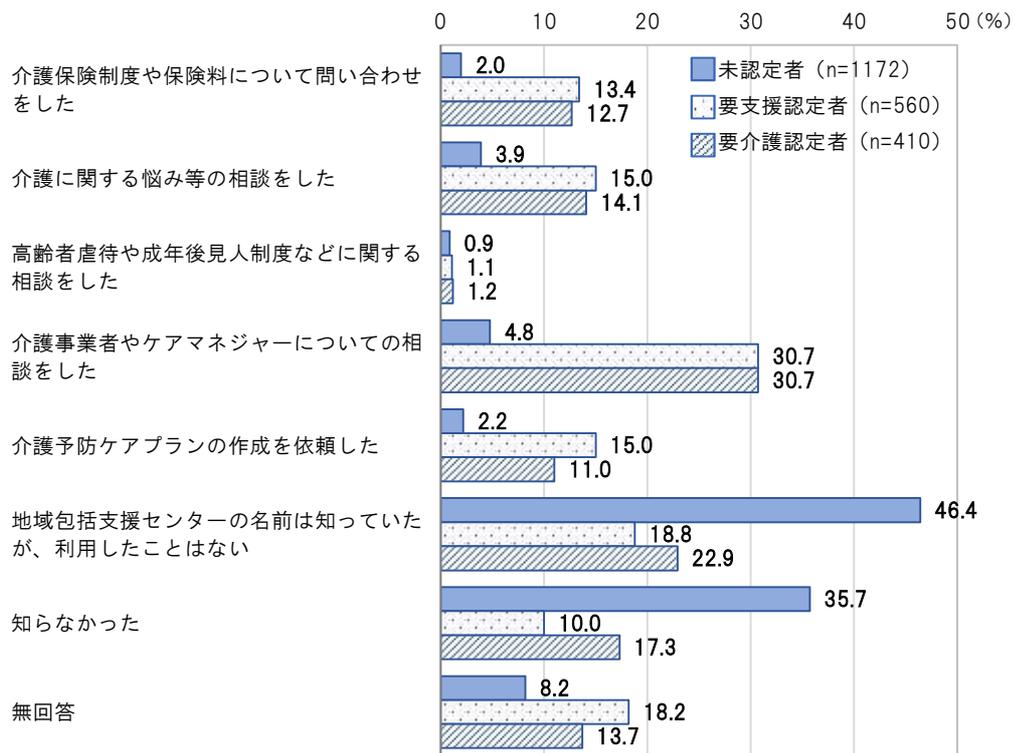
- 介護保険サービス以外で今後利用したいサービスは、未認定者・要介護認定者では「利用する予定はない」が最も高く、特に未認定者では4割を超えて高くなっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では半数程度の利用意向があり、その中でも「通院、買い物等の日常生活における車の送迎など」が最も高く、次いで「食事、清掃、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」、「配食サービス」、「庭の手入れや電球の取り替えなどの簡単な手伝い」の順となっている。



(13) 地域包括支援センターの利用の有無

問 あなたは高齢者の介護や健康などについて相談できる「地域包括支援センター」を利用したことがありますか。もしくは、知っていましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 地域包括支援センターの利用は、未認定者では「地域包括支援センターの名前は知っていたが、利用したことはない」が最も高く、次いで「知らなかった」となっており、『利用したことがある』人は1割未満となっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では、「介護事業者やケアマネジャーについての相談をした」がともに約3割を占めて高くなっている。



(13-1) 地域包括支援センターを利用して思ったこと

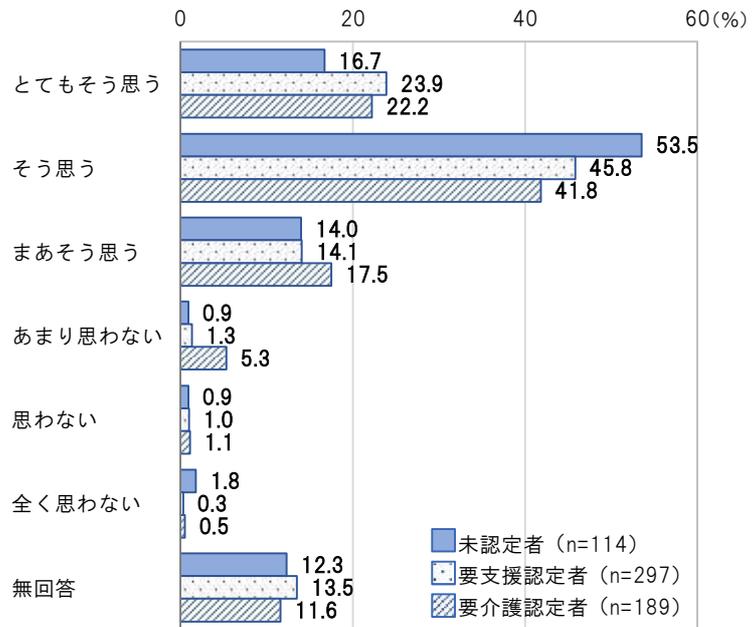
(13) で『利用した』と回答した人のみ

問 地域包括支援センターを利用して思ったことを教えてください。(それぞれ1つに○)

① しっかりと話を聞いてくれた

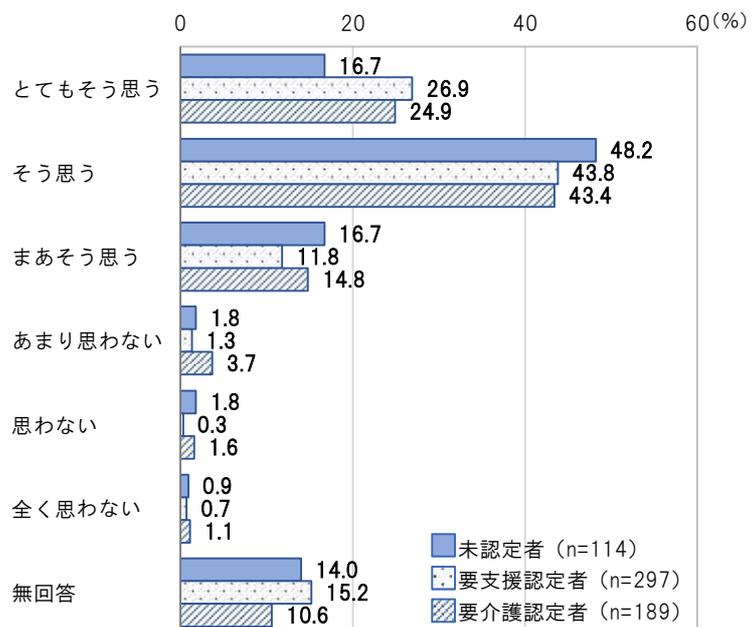
○ “しっかりと話を聞いてくれた” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が大半を占めている。

○ 一方で、要介護認定者では「あまり思わない」が5.3%と、その他と比べてやや高くなっている。



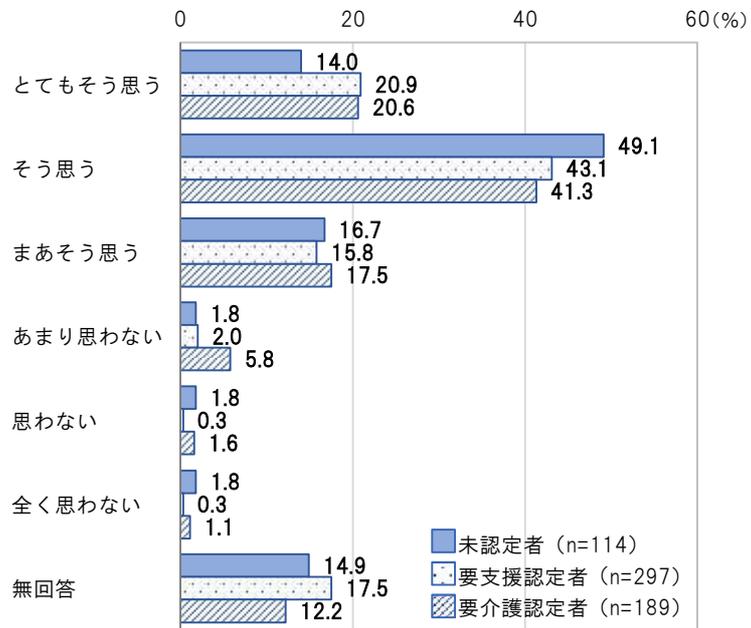
② すぐに対応してくれた

○ “すぐに対応してくれた” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が大半を占めている。



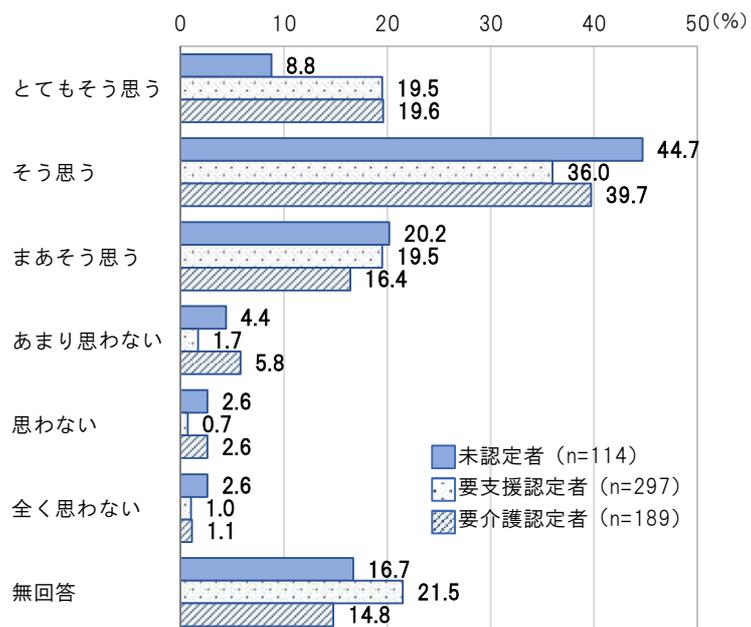
③ 説明がわかりやすかった

- “説明がわかりやすかった” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が大半を占めている。
- 一方で、要介護認定者では「あまり思わない」が5.8%と、その他と比べてやや高くなっている。



④ 提案や回答の内容に納得した

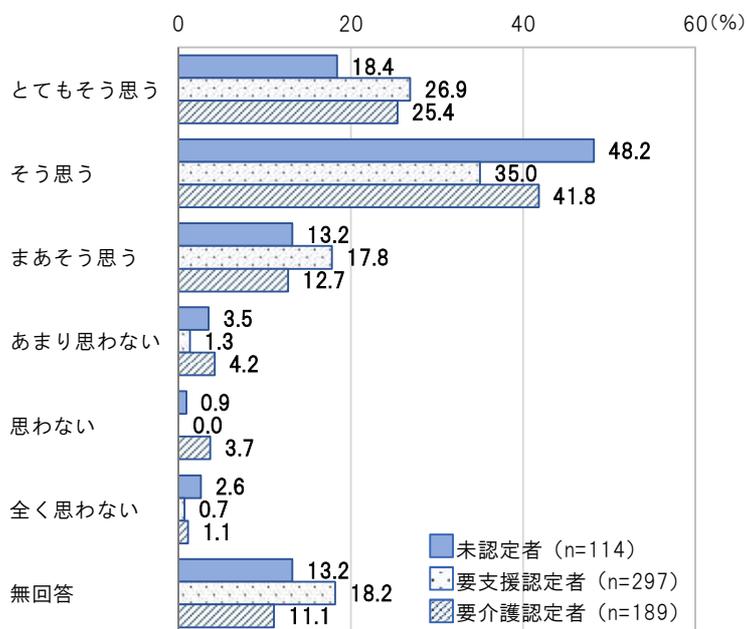
- “提案や回答の内容に納得した” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が大半を占めている。
- 一方で、「あまり思わない」と「思わない」、「全く思わない」を合わせた『思わない』が、未認定者・要介護認定者で約1割を占めている。



⑤ 総合的にみて利用してよかった

○ “総合的にみて利用してよかった” では、すべての区分で「そう思う」が最も高く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が大半を占めている。

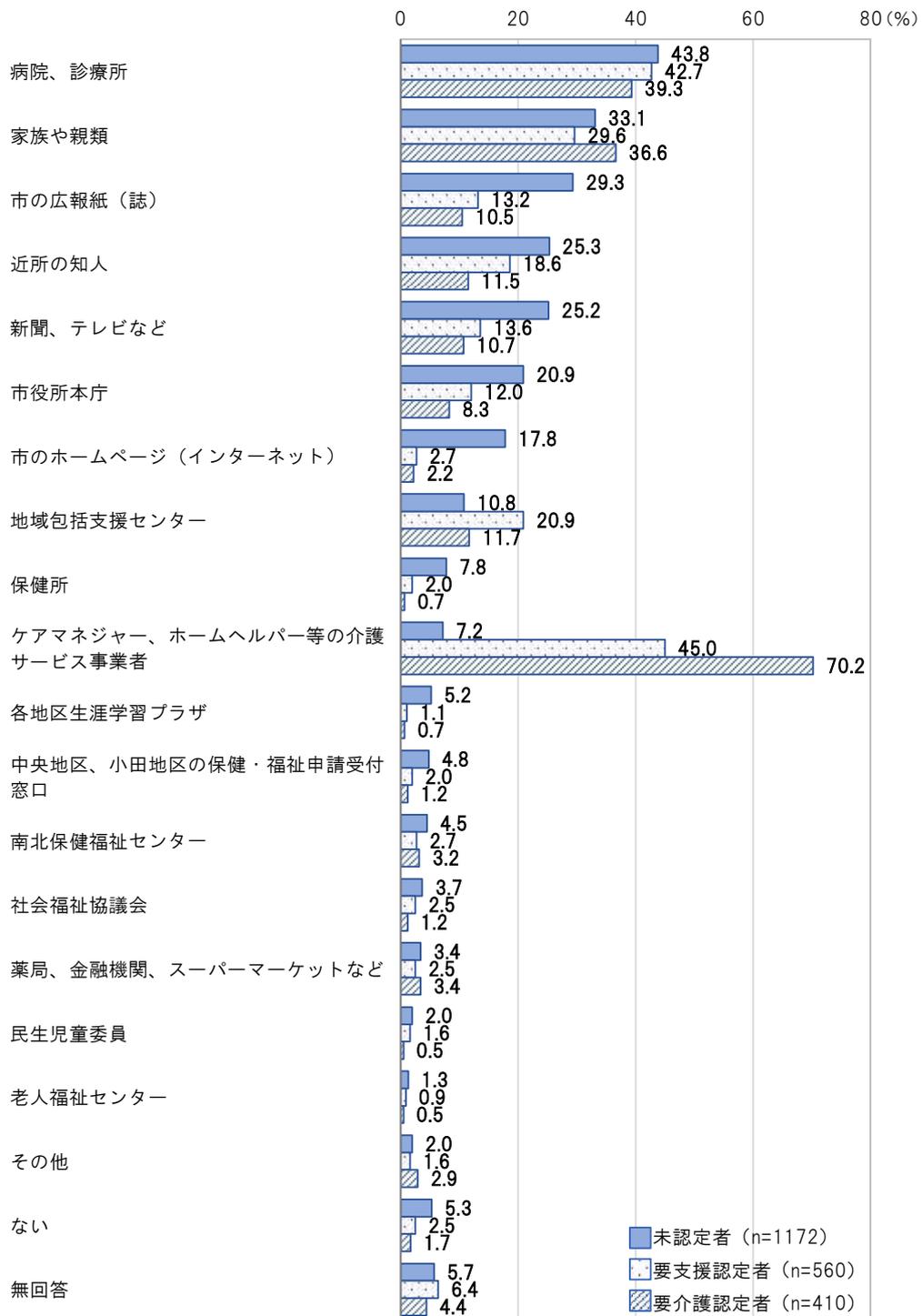
○ 一方で、「あまり思わない」と「思わない」、「全く思わない」を合わせた『思わない』が、要介護認定者で約1割を占めている。



(14) 健康または福祉に関する情報の入手先

問 あなたは健康または福祉に関することなどで困ったときに、どこから情報を入手しますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 健康または福祉に関する情報の入手先は、未認定者では「病院、診療所」が最も高く、次いで「家族や親類」、「市の広報紙（誌）」、「近所の知人」の順となっている。
- 要支援認定者・要介護認定者では「ケアマネジャー、ホームヘルパー等の介護サービス事業者」が最も高く、特に要介護認定者では約7割を占め、その他の項目と比べても突出して高くなっている。



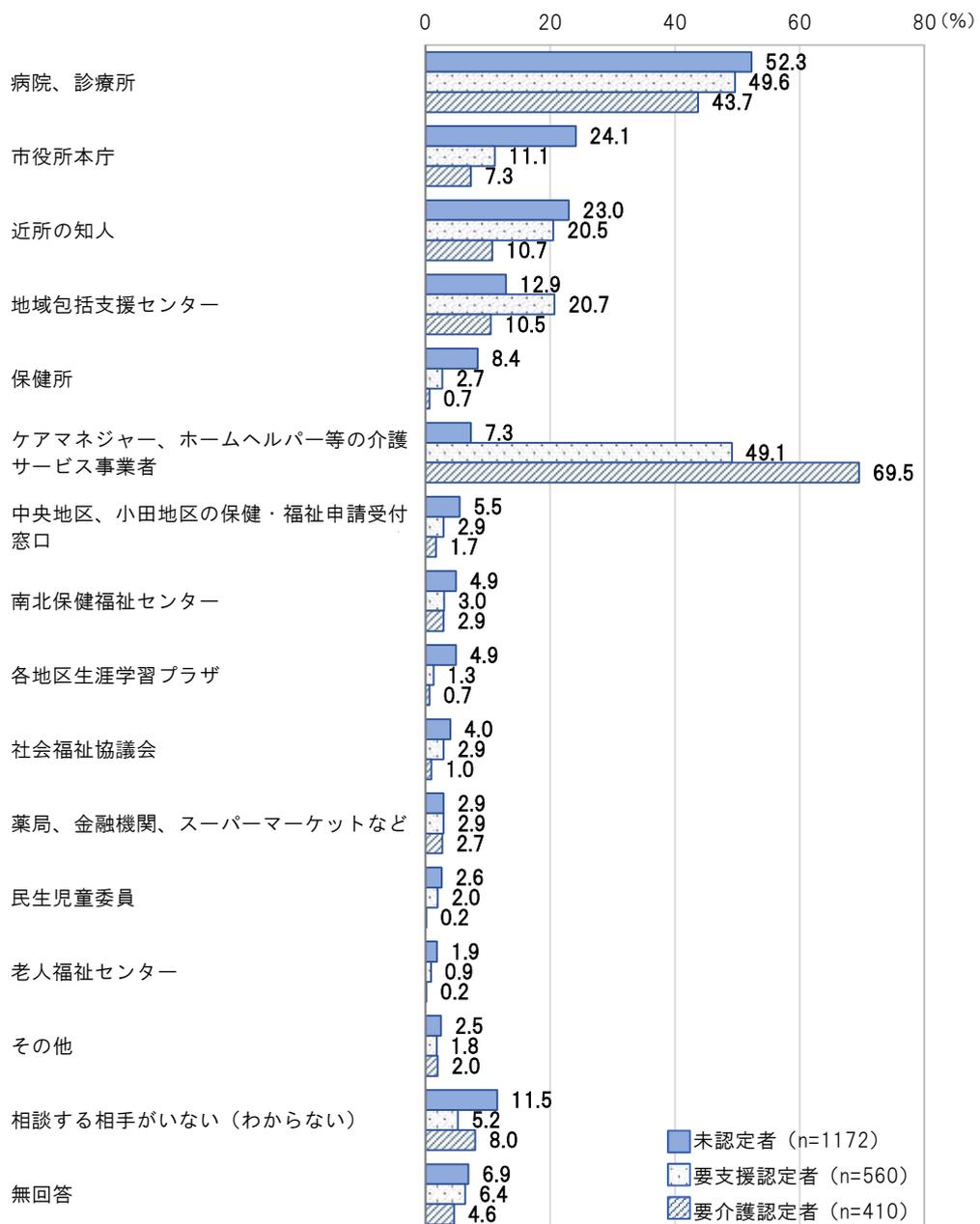
(15) 健康または福祉に関することで困った時の相談先

問 あなたは健康または福祉に関することなどで困ったときに、家族、親族以外で、誰に（どこに）相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

○健康または福祉に関することで困った時の相談先は、未認定者・要支援認定者では「病院、診療所」が最も高く、次いで、未認定者では「市役所本庁」、「近所の知人」、要支援認定者では「ケアマネジャー、ホームヘルパー等の介護サービス事業者」、「地域包括支援センター」、「近所の知人」の順となっている。

○要介護認定者では「ケアマネジャー、ホームヘルパー等の介護サービス事業者」が最も高く、次いで「病院、診療所」となっている。

○一方で、未認定者では「相談する相手がない（わからない）」が1割を超えて、やや高くなっている。

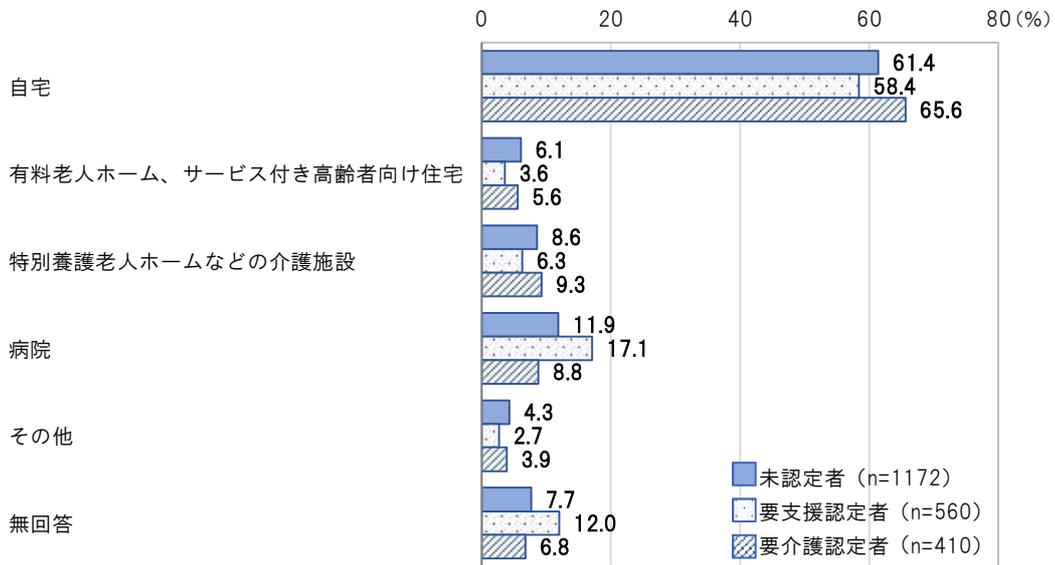


11. 今後の生活や高齢者施策全般について

(1) 人生最期を迎える場所の希望

問 あなたの人生最期の迎え方について、最期はどこで過ごしたいですか。(1つに○)

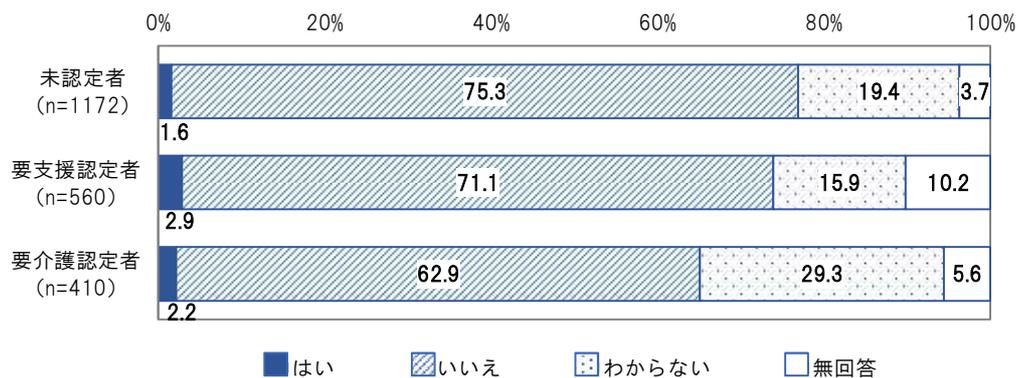
○人生最期を迎える場所の希望は、すべての区分で「自宅」が最も高く、次いで、未認定者・要支援認定者では「病院」、要介護認定者では「特別養護老人ホームなどの介護施設」となっている。



(2) 延命治療に対する希望

問 あなたの人生最期の迎え方について、延命治療を望みますか。(1つに○)

○延命治療に対する希望は、すべての区分で「いいえ」が大半を占めており、「はい」は1割未満となっている。

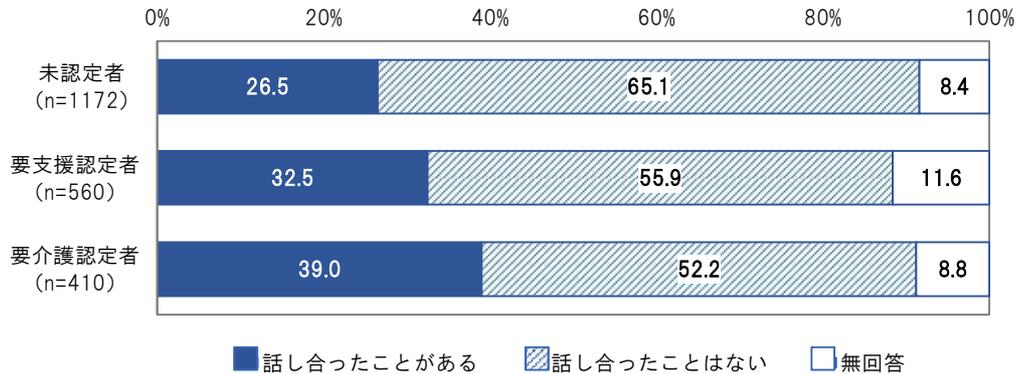


(3) 人生最期の迎え方や延命治療について話し合ったことの有無

問 あなたの人生最期の迎え方について、過ごしたい場所や延命治療について話し合ったことはありますか。(それぞれ1つに○)

① 人生最期を迎える場所

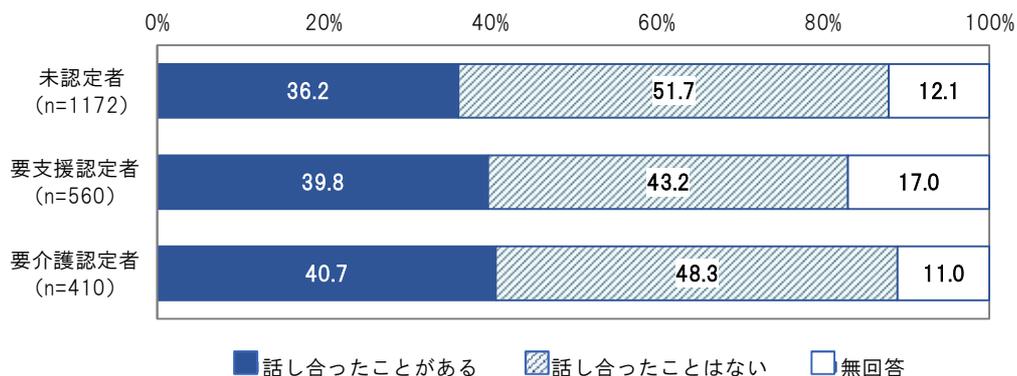
○人生最期を迎える場所について話し合ったことは、すべての区分で「話し合ったことはない」が半数以上を占めているものの、介護度が上がるほど「話し合ったことがある」が高くなる傾向がみられ、要介護認定者では約4割を占めている。



② 延命治療

○延命治療について話し合ったことは、すべての区分で「話し合ったことはない」が「話し合ったことがある」を上回っているものの、介護度が上がるほど「話し合ったことがある」がやや高くなる傾向がみられる。

○①の人生最期を迎える場所と比べると、延命治療について話し合ったことがある人が多い結果となっている。

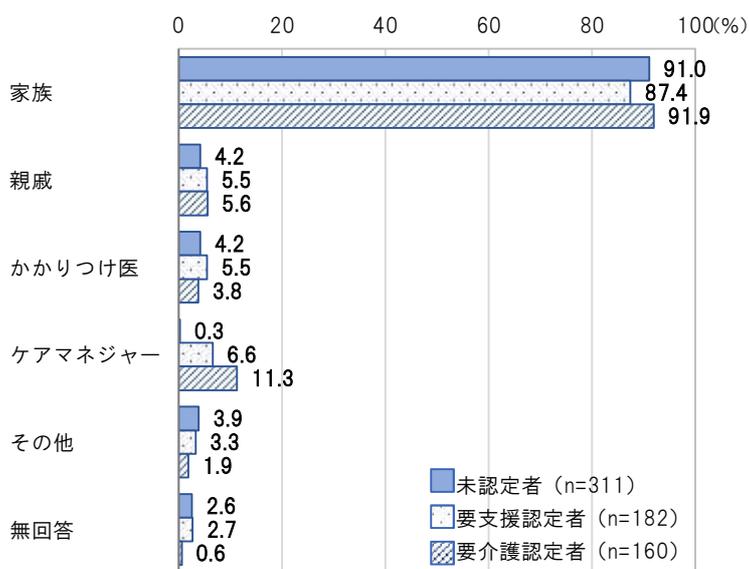


(3-1) 人生最期の迎え方や延命治療について話し合った相手

(3) で「話し合ったことがある」と回答した人のみ
 問 誰と話し合いましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

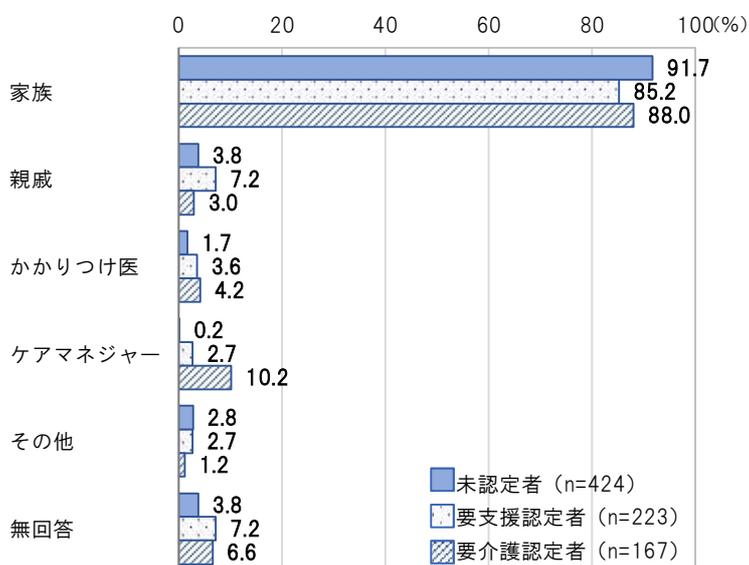
① 人生最期を迎える場所

- 人生最期を迎える場所について話し合った相手は、すべての区分で「家族」が最も高くなっている。
- また、介護度が高くなるほど「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられ、要介護認定者では1割を超えている。



② 延命治療

- 延命治療について話し合った相手は、すべての区分で「家族」が最も高くなっている。
- また、介護度が高くなるほど「かかりつけ医」や「ケアマネジャー」が高くなる傾向がみられ、要介護認定者では「ケアマネジャー」が約1割となっている。

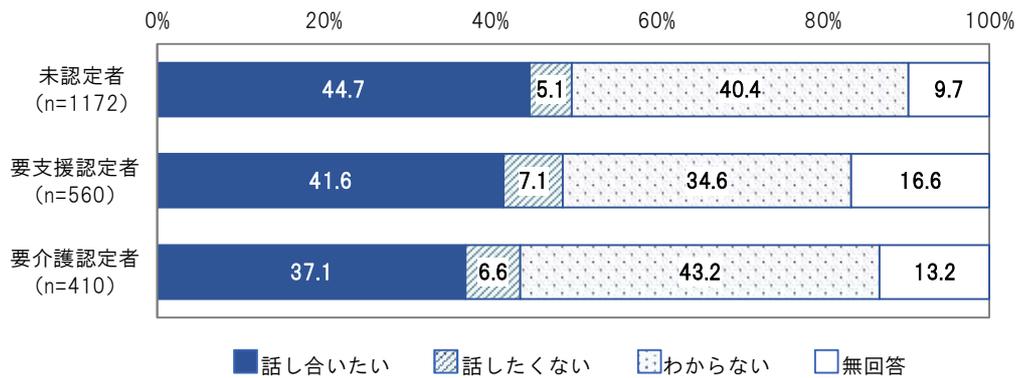


(4) 人生最期の迎え方や延命治療についての今後の話し合いの意向

問 あなたの人生最期の迎え方について、過ごしたい場所や延命治療について今後話したいと思えますか。(それぞれ1つに○)

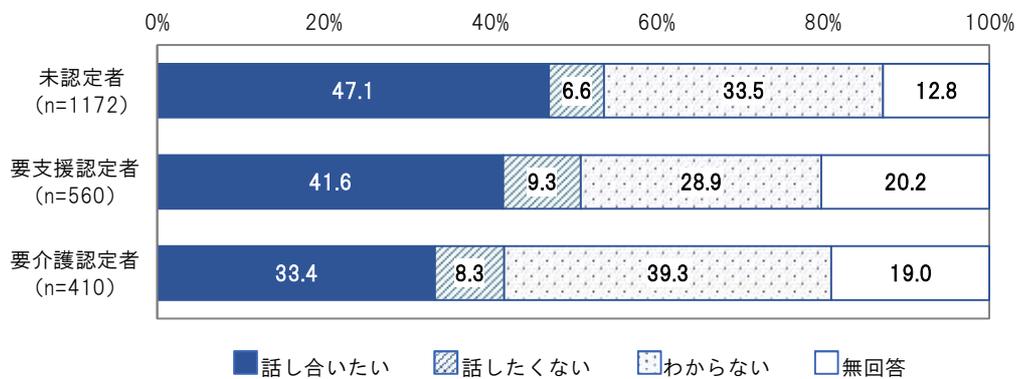
① 人生最期を迎える場所

- 人生最期を迎える場所についての今後の話し合いの意向は、未認定者・要支援認定者では「話したい」が4割を超え、最も高くなっている。
- 要介護認定者においては、「わからない」が最も高くなっているものの、「話したい」が4割近くを占めて高くなっている。



② 延命治療

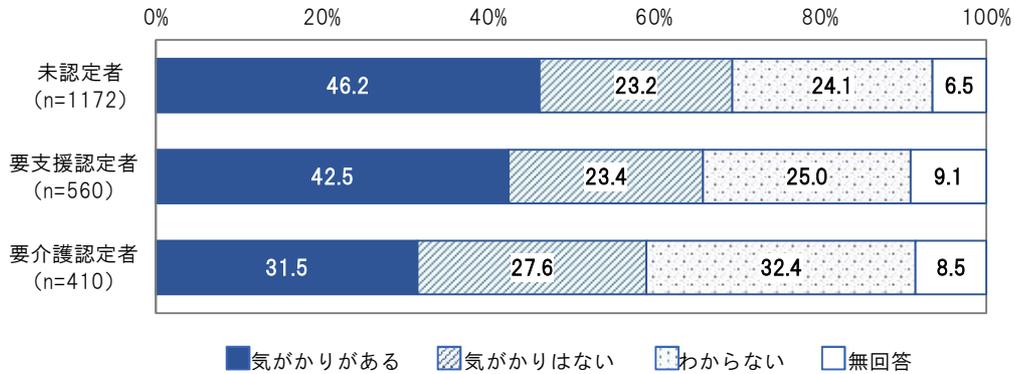
- 延命治療についての今後の話し合いの意向は、未認定者・要支援認定者では「話したい」が4割を超え、最も高くなっている。
- 要介護認定者においては、「わからない」が最も高くなっているものの、「話したい」が3割を超えて高くなっている。
- ①の人生最期を迎える場所と比べると、未認定者では延命治療について話し合いの意向が高い結果となっている。



(5) 人生最期を迎えるにあたっての気がかりの有無

問 あなたが人生最期を迎えるにあたって気がかりはありますか。(1つに○)

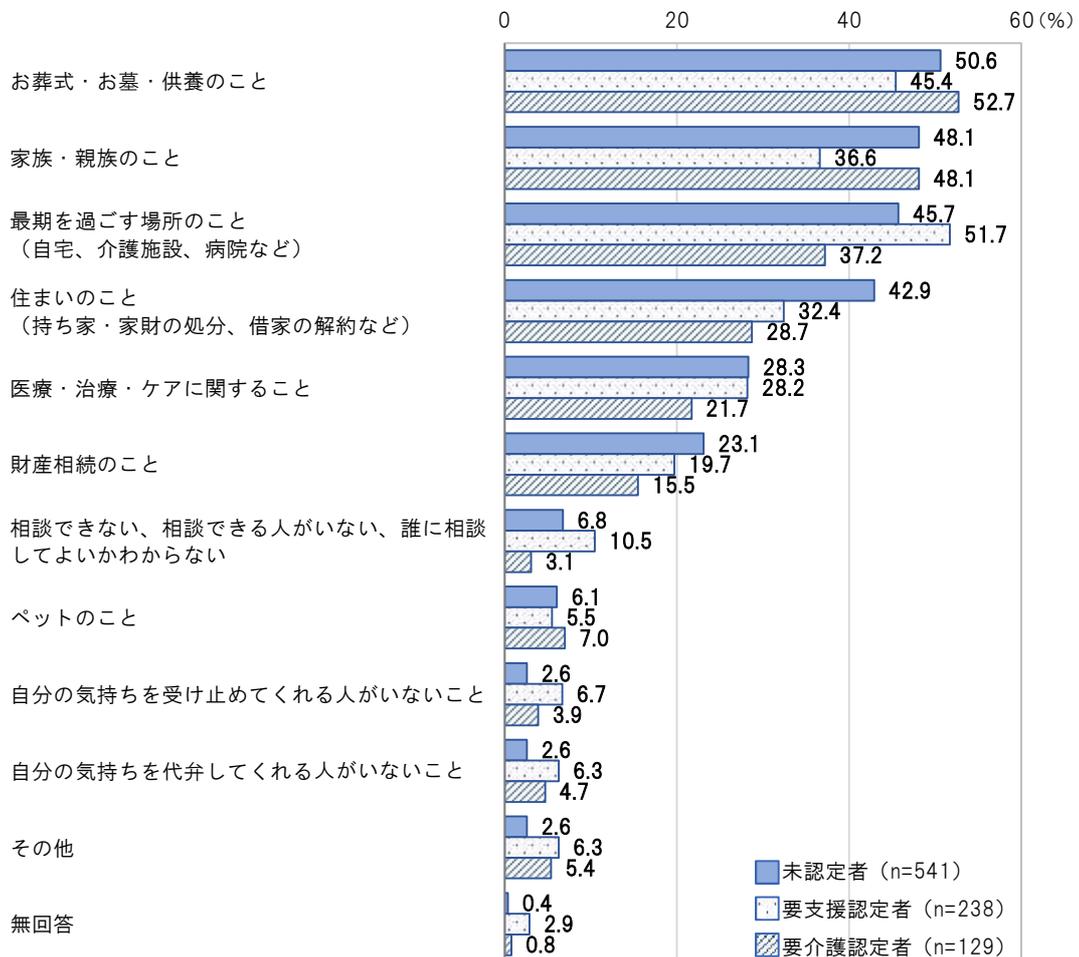
○人生最期を迎えるにあたっての気がかりの有無は、すべての区分で「気がかりがある」が「気がかりはない」を上回っており、特に未認定者・要支援認定者では4割を超えている。



(5-1) 人生最期を迎えるにあたっての気がかりの内容

(5) で「気がかりがある」と回答した人のみ
問 どんなことを気がかりだと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

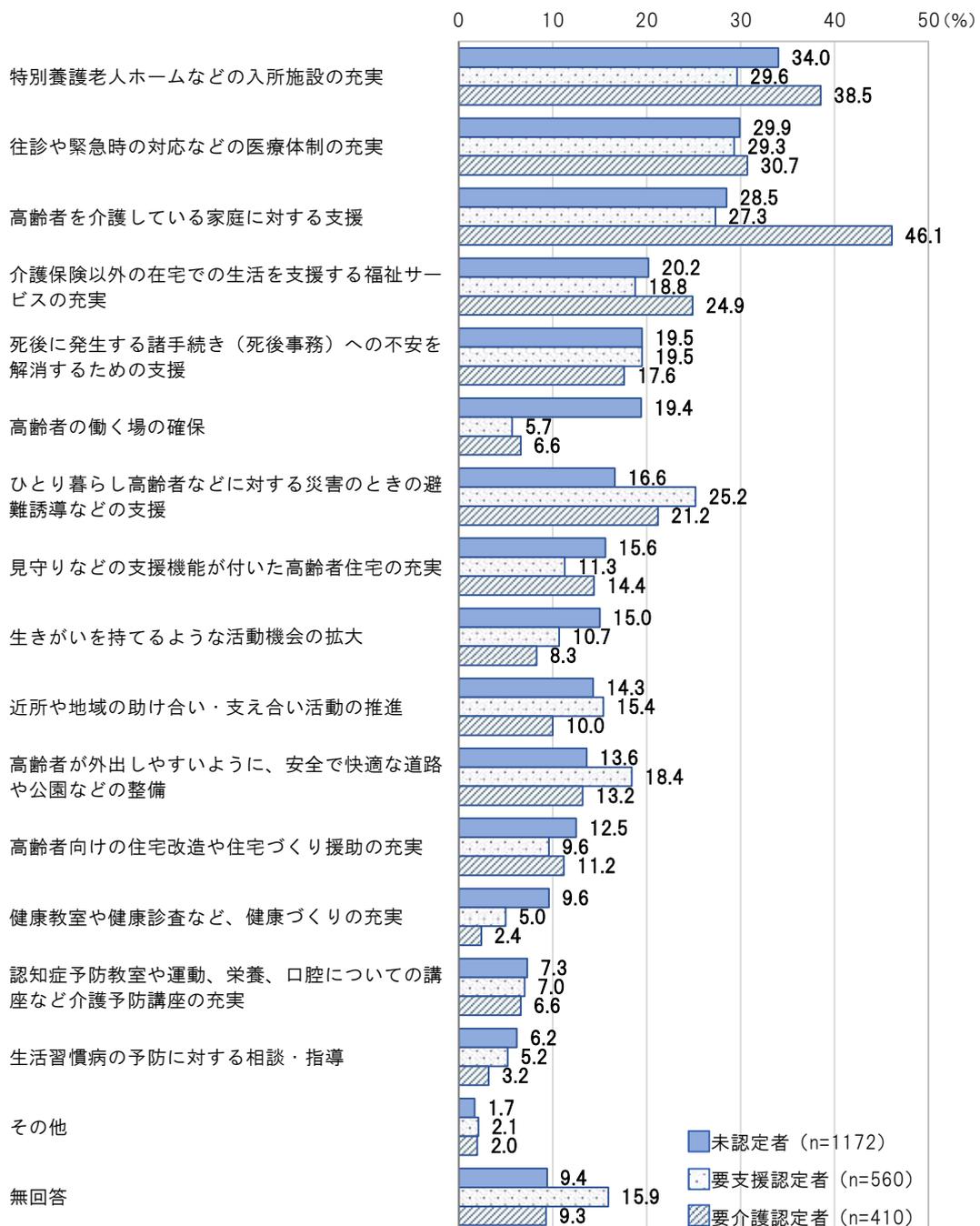
○人生最期を迎えるにあたっての気がかりの内容は、未認定者・要介護認定者では「お葬式・お墓・供養のこと」、要支援認定者では「最期を過ごす場所のこと」が最も高くなっている。また、未認定者では「住まいのこと」が要支援認定者・要介護認定者に比べて高くなっている。



(6) 市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うこと

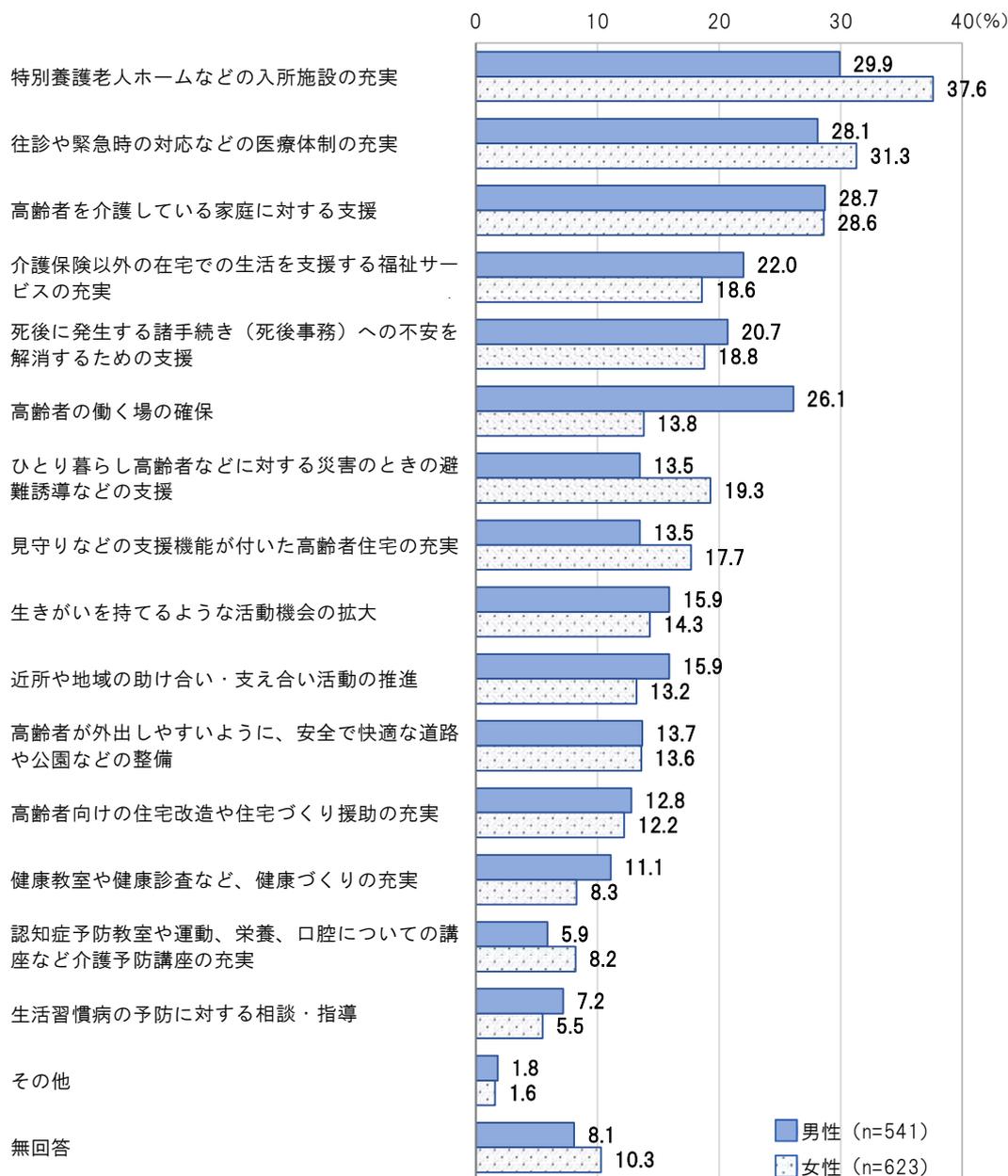
問 今後、市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。
(重要と思われるもの3つまでに○)

- 市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことは、未認定者・要支援認定者では「特別養護老人ホームなどの入所施設の充実」、要介護認定者では「高齢者を介護している家庭に対する支援」が最も高くなっている。その他、「往診や緊急時の対応などの医療体制の充実」や「介護保険以外の在宅での生活を支援する福祉サービスの充実」などが高い割合となっている。
- 未認定者では「高齢者の働く場の確保」、要支援認定者では「ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導などの支援」や「高齢者が外出しやすいように、安全で快適な道路や公園などの整備」などが、その他に比べて高くなっている。



《性別（未認定者）》

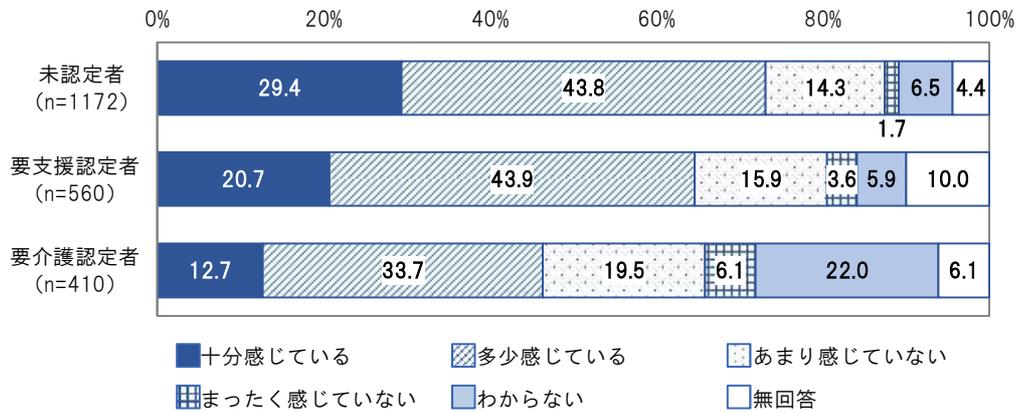
- 未認定者での市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことを性別にみると、男性では「高齢者の働く場の確保」が2割を超えて女性に比べて約2倍の割合となっている。
- また、女性では「特別養護老人ホームなどの入所施設の充実」や「ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導などの支援」、「見守りなどの支援機能が付いた高齢者住宅の充実」などで男性に比べて大きく上回っている。



(7) 生きがい（喜びや楽しみ）の有無

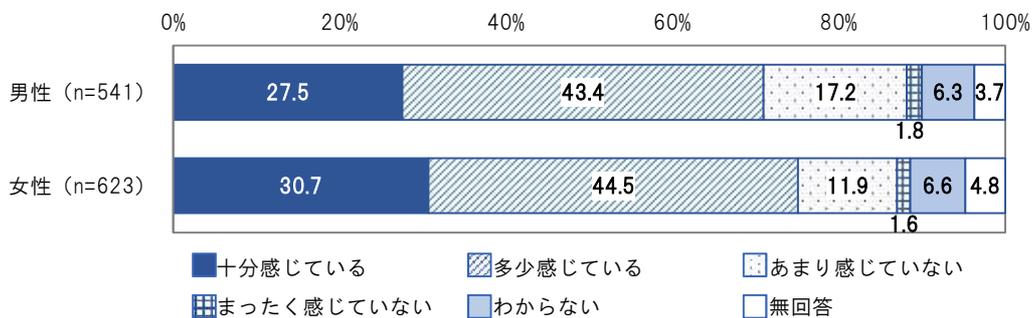
問 あなたは、現在どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。（1つに○）

○生きがい（喜びや楽しみ）の有無は、「十分感じている」と「多少感じている」を合わせた『感じている』の割合をみると、未認定者では7割以上、要支援認定者では6割以上となっているのに対し、要介護認定者では半数未満と低くなっている。



《性別（未認定者）》

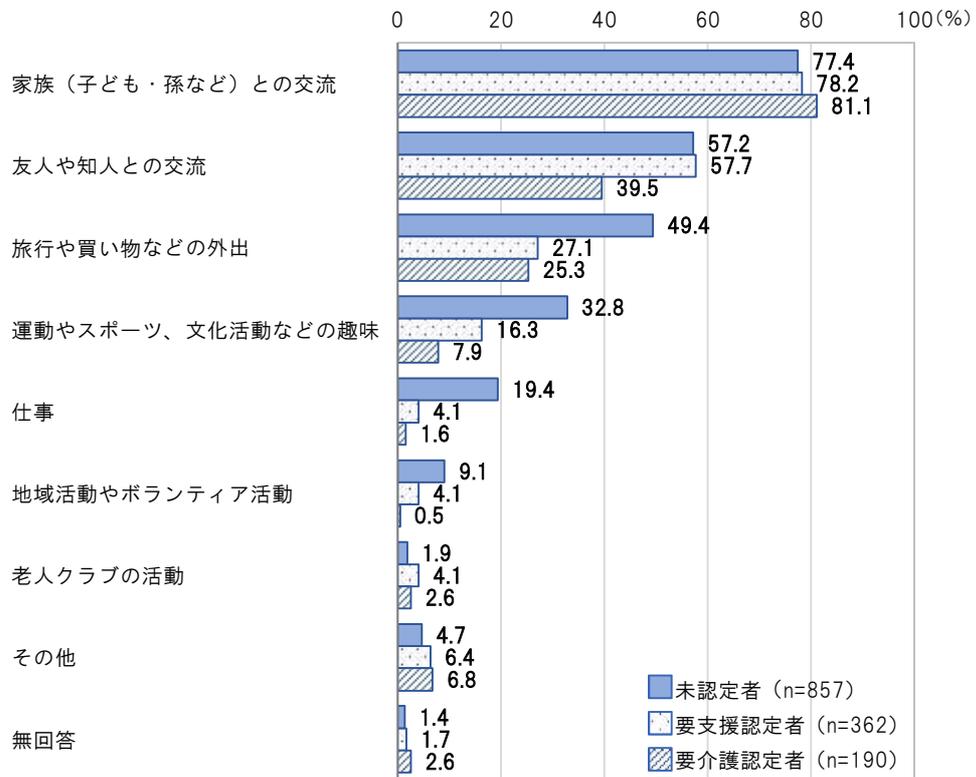
○未認定者での生きがい（喜びや楽しみ）の有無を性別にみると、「十分感じている」と「多少感じている」を合わせた『感じている』の割合が、女性が男性に比べてやや高くなっている。



(7-1) 生きがいを感じる時

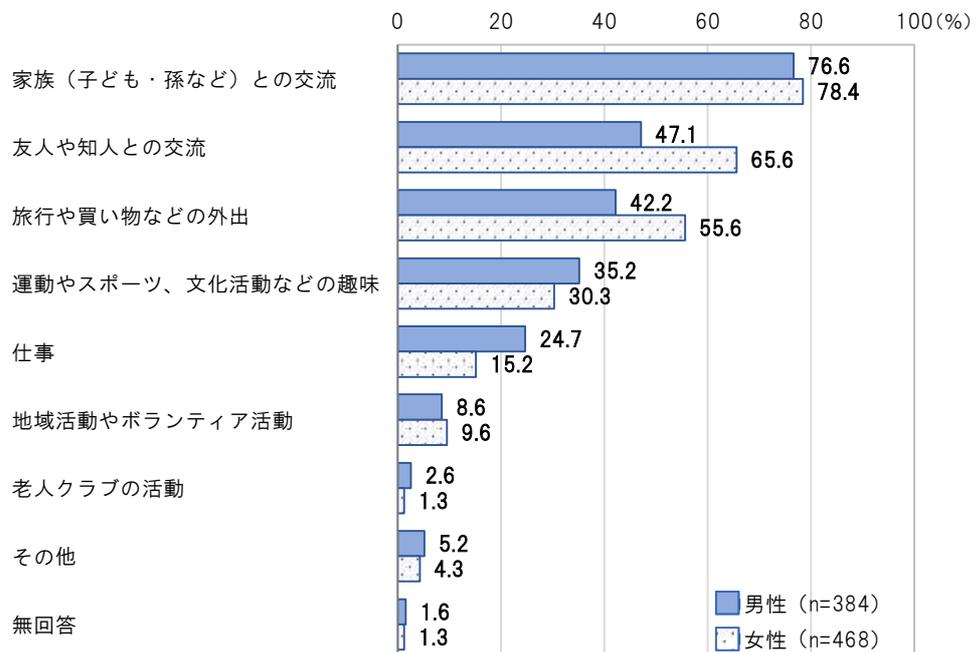
(7) で「十分感じている」または「多少感じている」と回答した人のみ
 問 生きがいを感じる時はどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

○生きがいを感じる時は、すべての区分で「家族（子ども・孫など）との交流」が最も高く、次いで「友人や知人との交流」、「旅行や買い物などの外出」の順となっている。



《性別（未認定者）》

○未認定者での生きがいを感じる時を性別にみると、男性では「仕事」が女性に比べて高く、女性では「友人や知人との交流」や「旅行や買い物などの外出」で男性に比べて高くなっている。



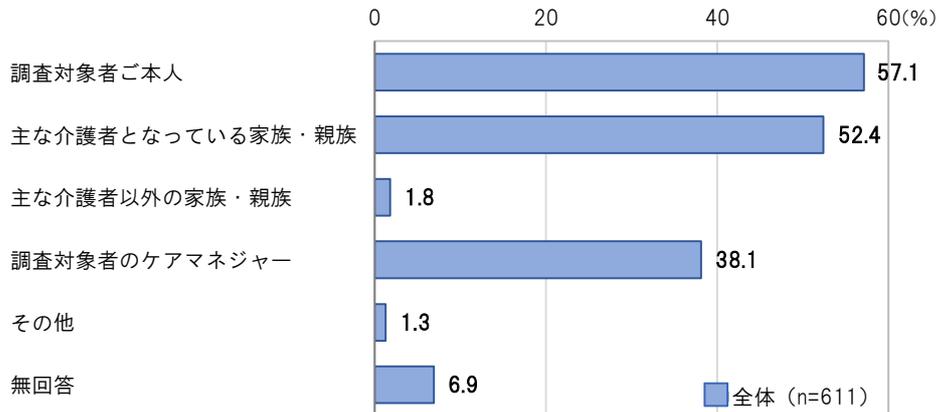
Ⅲ 在宅介護実態調査結果

1. 回答者の属性

(1) 聞き取りを行った相手

問 聞き取りを行った相手の方は、どなたですか。(複数選択可)

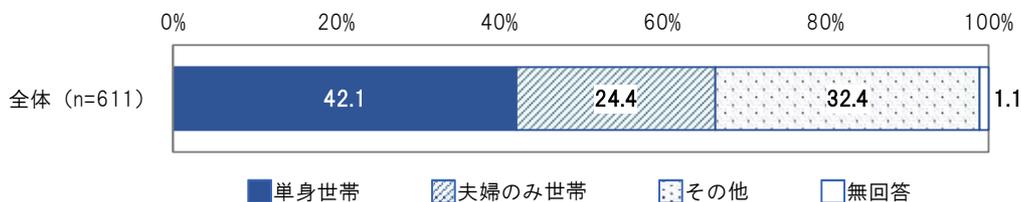
○調査の聞き取りを行った相手は、「調査対象者ご本人」が6割近くを占めて最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」、「調査対象者のケアマネジャー」の順となっている。



(2) 世帯類型

問 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択)

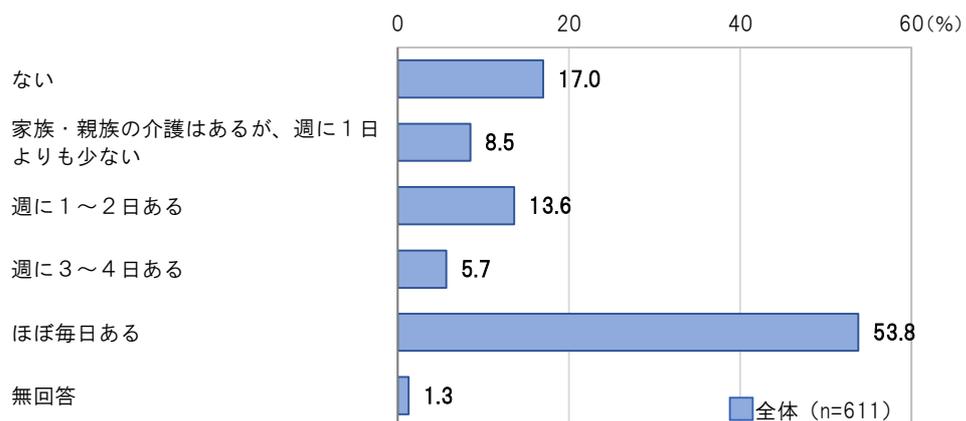
○世帯類型は、「単身世帯」が4割を超えて最も高く、「夫婦のみ世帯」が2割を超えており、「その他(同居世帯)」は3割程度となっている。



(3) 家族や親族からの介護の頻度

問 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(1つを選択)

○家族や親族からの介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が半数以上を占めて最も高く、「週に1～2日ある」、「週に3～4日ある」と合わせると、『週1日以上ある』が7割以上を占めている。

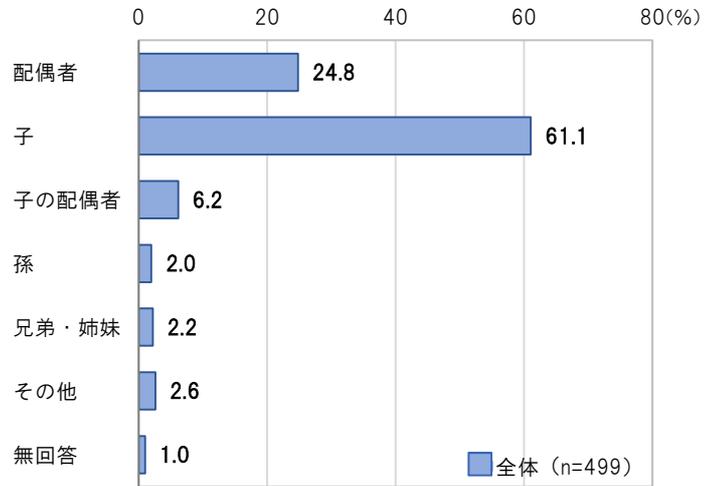


2. 主な介護者について ※家族や親族からの介護が「ある」人のみ

(1) 主な介護者の続柄

問 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択)

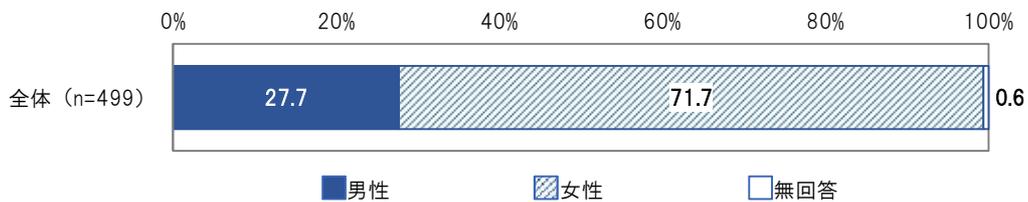
○主な介護者の続柄は、「子」が6割以上を占めて最も高く、次いで「配偶者」となっている。



(2) 主な介護者の性別

問 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

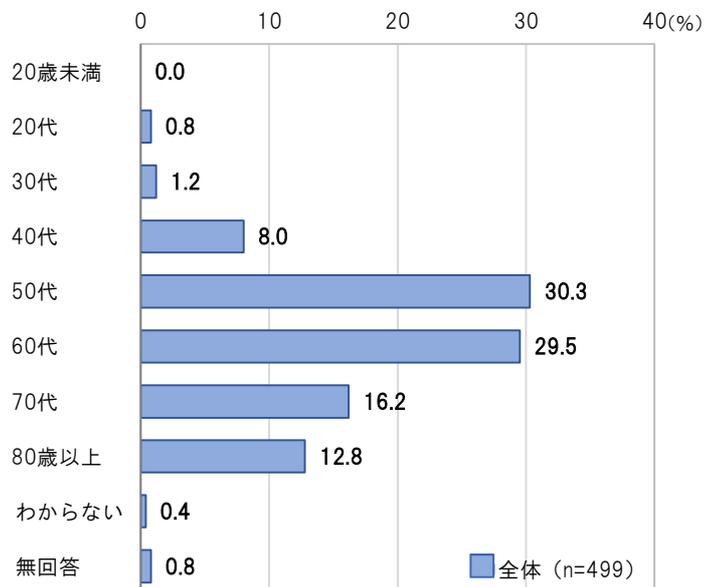
○主な介護者の性別は、「女性」が7割を超えており、「男性」は3割未満となっている。



(3) 主な介護者の年齢

問 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

○主な介護者の年齢は、「50代」が約3割を占めて最も高く、次いで「60代」、「70代」と続いており、『60歳以上』が6割近くを占めている。

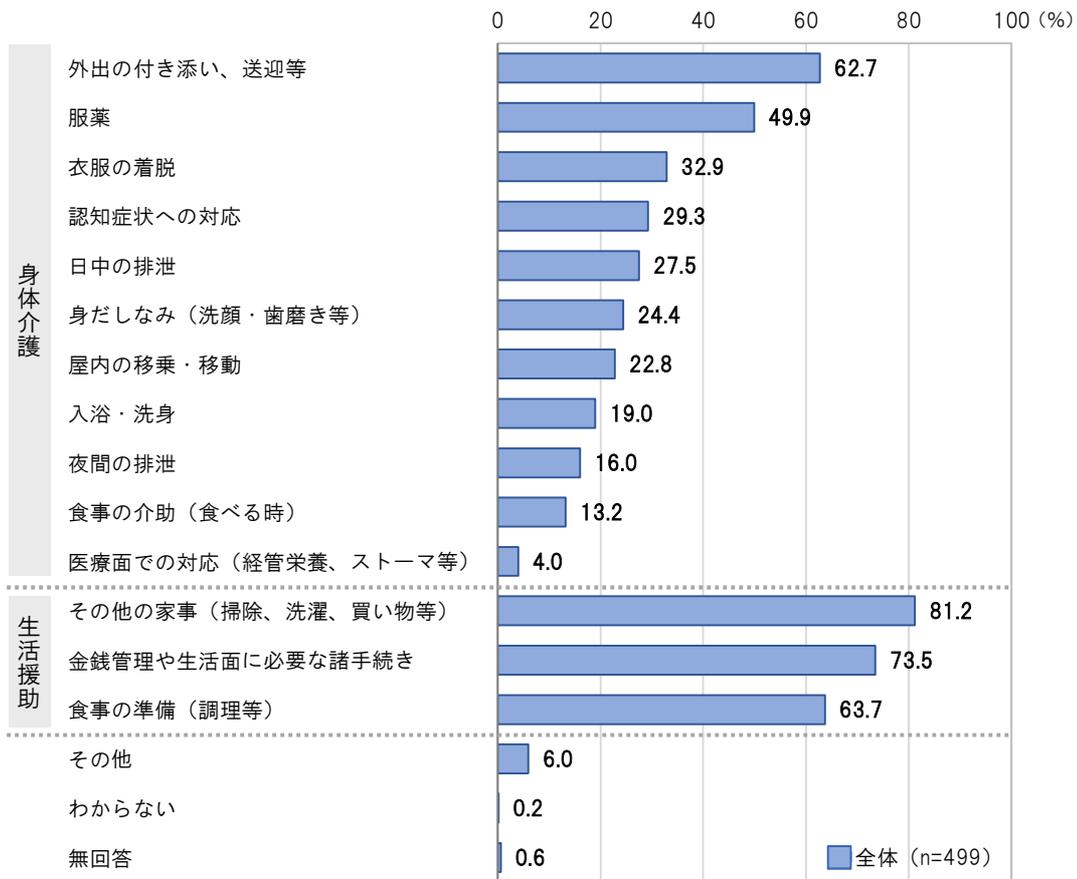


(4) 主な介護者が行っている介護等

問 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)

○主な介護者の方が行っている介護等は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が8割を超えて最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「食事の準備（調理等）」の順となっており、生活援助をしている人が多い。

○身体介護では、「外出の付き添い、送迎等」が6割を超えて高く、次いで「服薬」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」の順となっている。



(5) 主な介護者が介護している他の対象者の有無

問 現在、主な介護者の方が介護しているのは、本調査の対象者の方のみですか。それ以外の人も介護していますか。(1つを選択)

○主な介護者が介護している他の対象者の有無は、「対象者の方のみ」が約8割を占めているものの、「対象者以外の方も介護している」と回答した複数の介護をしている人が1割を超えている。

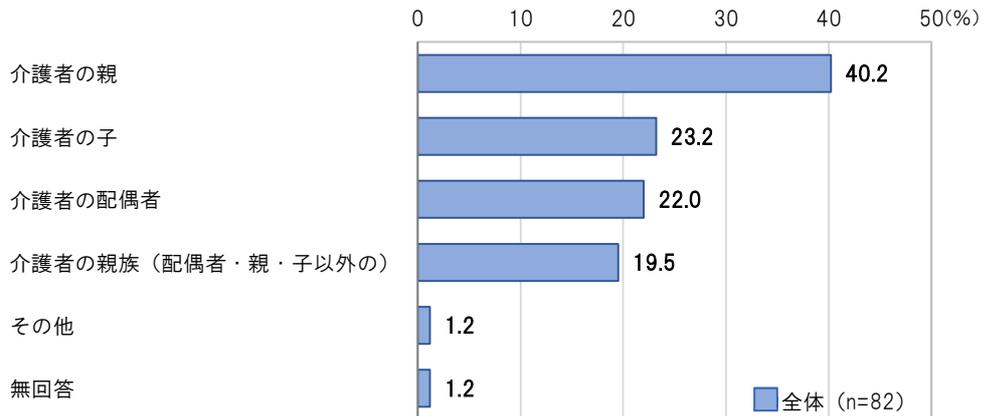


(5-1) 調査対象者以外に介護をしている人との関係

(5) で「対象者以外の方も介護している」と回答した人のみ

問 本調査の対象者のほかに、現在、主な介護者の方が介護している方は、どなたですか。介護者の方との関係についてお答えください。(複数選択可)

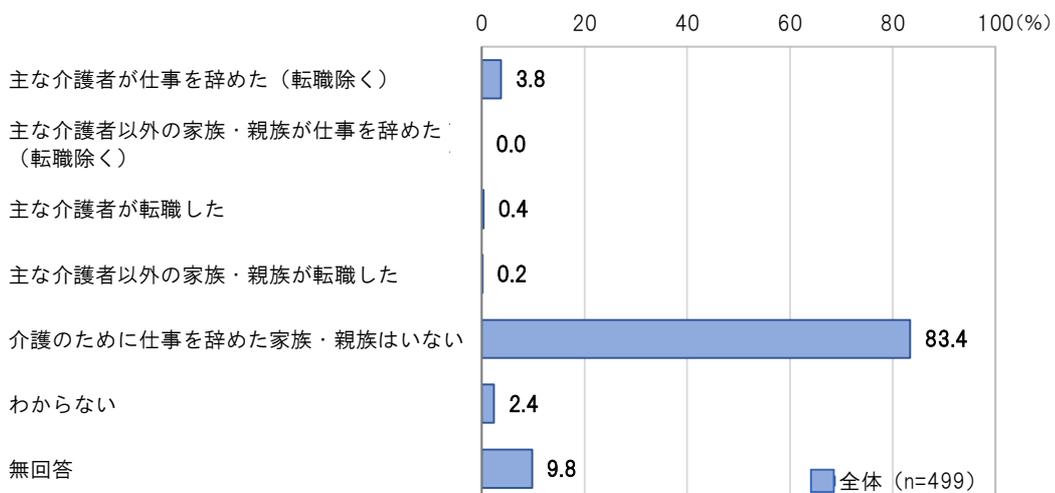
○調査対象者以外に介護をしている方がいる人の関係は、「介護者の親」が約4割を占めて最も高く、次いで「介護者の子」、「介護者の配偶者」、「介護者の親族（配偶者・親・子以外の）」の順となっている。



(6) 介護離職の状況

問 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年間の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。(複数選択可)

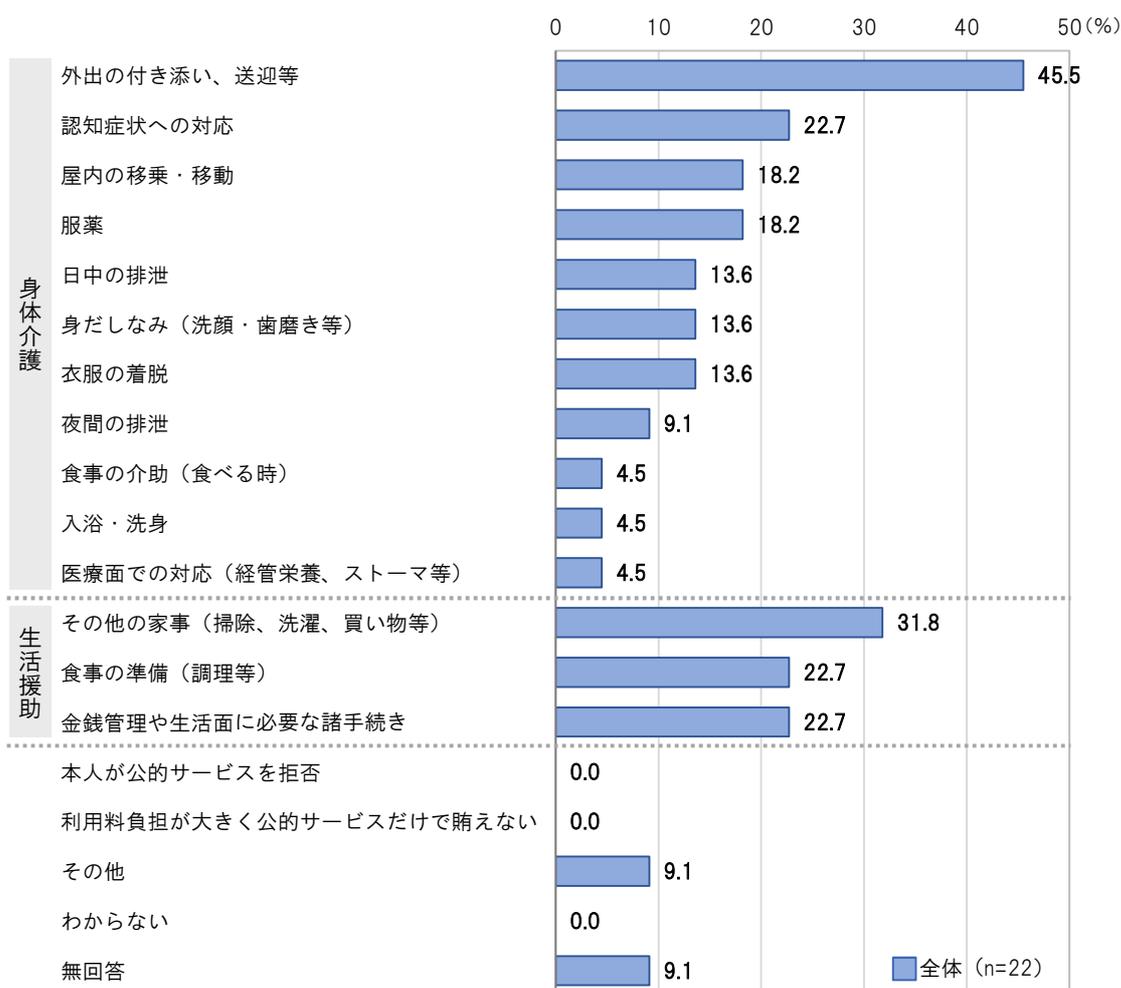
○介護離職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が8割を超えているものの、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」や「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」、「主な介護者が転職した」、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」を合わせた『介護のために仕事を辞めた家族・親族がいる』が約5%となっている。



(6-1) 仕事を辞めるあるいは変わるようになった原因

(6) で『介護のために仕事を辞めた家族・親族がいる』と回答した人のみ
 問 仕事を辞めるあるいは変わる一番の原因となったのは何ですか。(1つを選択)

- 仕事を辞めるあるいは変わるようになった原因は、「外出の付き添い、送迎等」が4割を超えて最も高くなっており、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の順となっており、生活援助を原因とする人が多い。
- 身体介護では、「外出の付き添い、送迎等」に次いで、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」の順となっている。



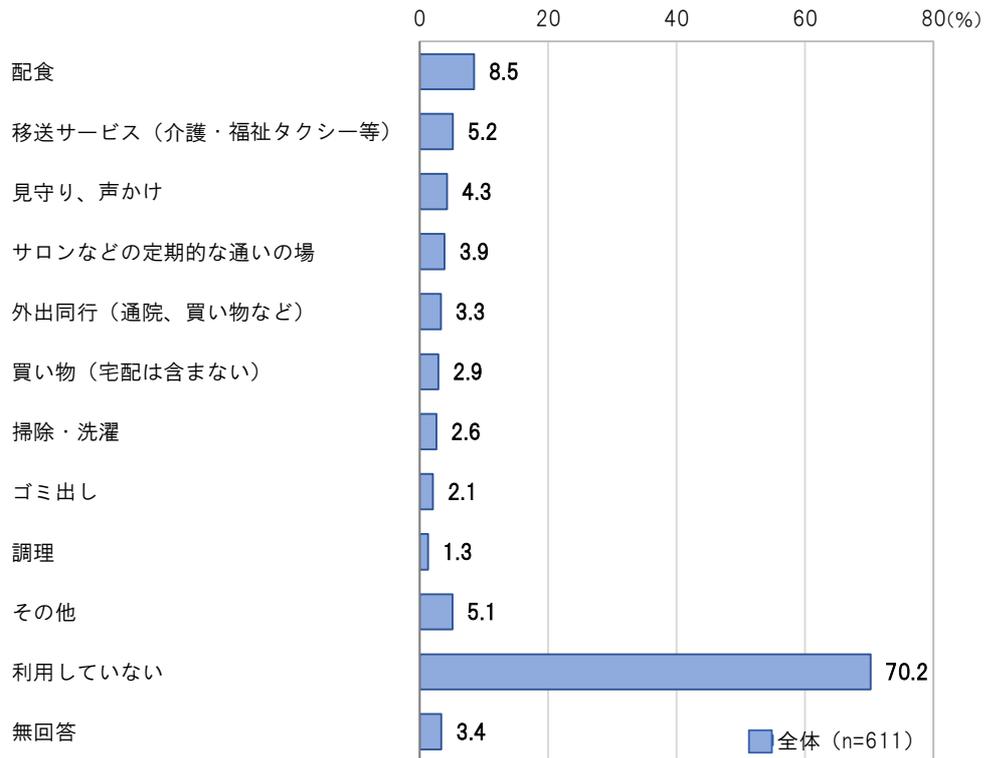
3. 高齢者に対するサービスについて

(1) 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

問 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。
(複数選択可)

○現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスは、「利用していない」が約7割を占めており、利用している人は3割未満となっている。

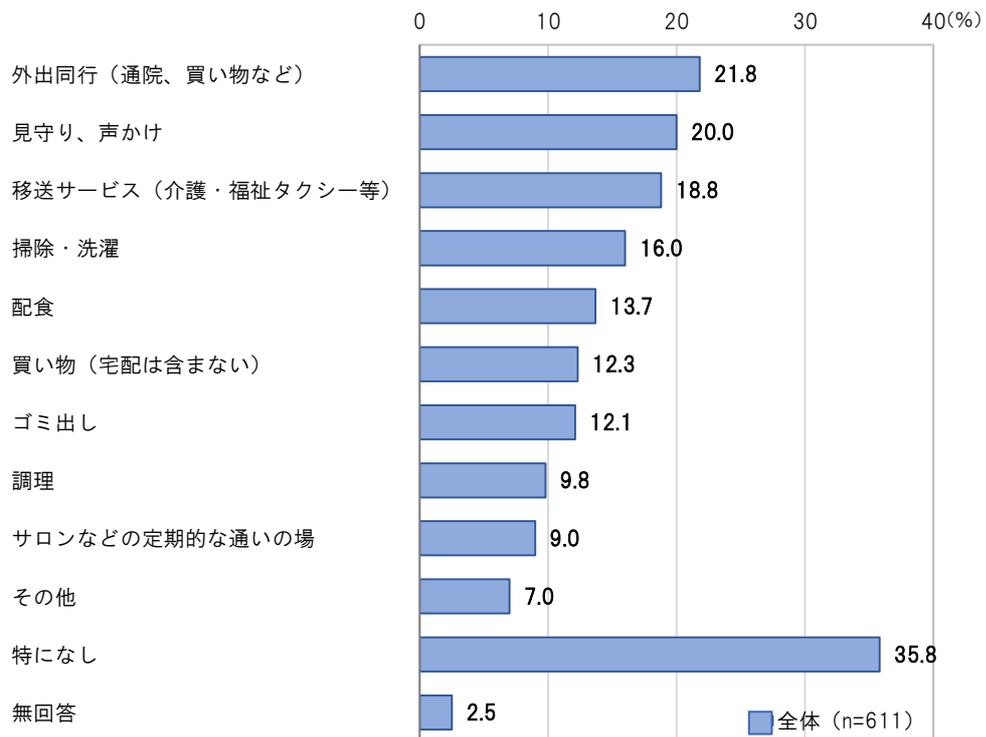
○利用している支援・サービスでは、「配食」が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」の順となっている。



(2) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

問 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）

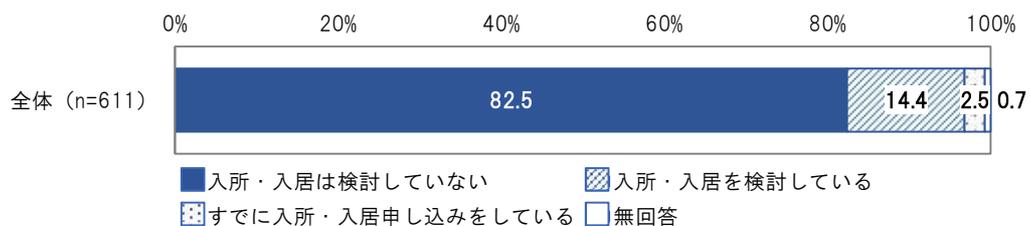
- 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「特になし」が3割を超えて最も高くなっている。
- 具体的な支援・サービスでは、「外出同行（通院、買い物など）」が2割を超えて最も高く、次いで「見守り、声かけ」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「掃除・洗濯」の順となっており、外出に関する支援・サービスを望む人が多い結果となっている。



(3) 施設等への入所・入居の検討状況

問 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つを選択）

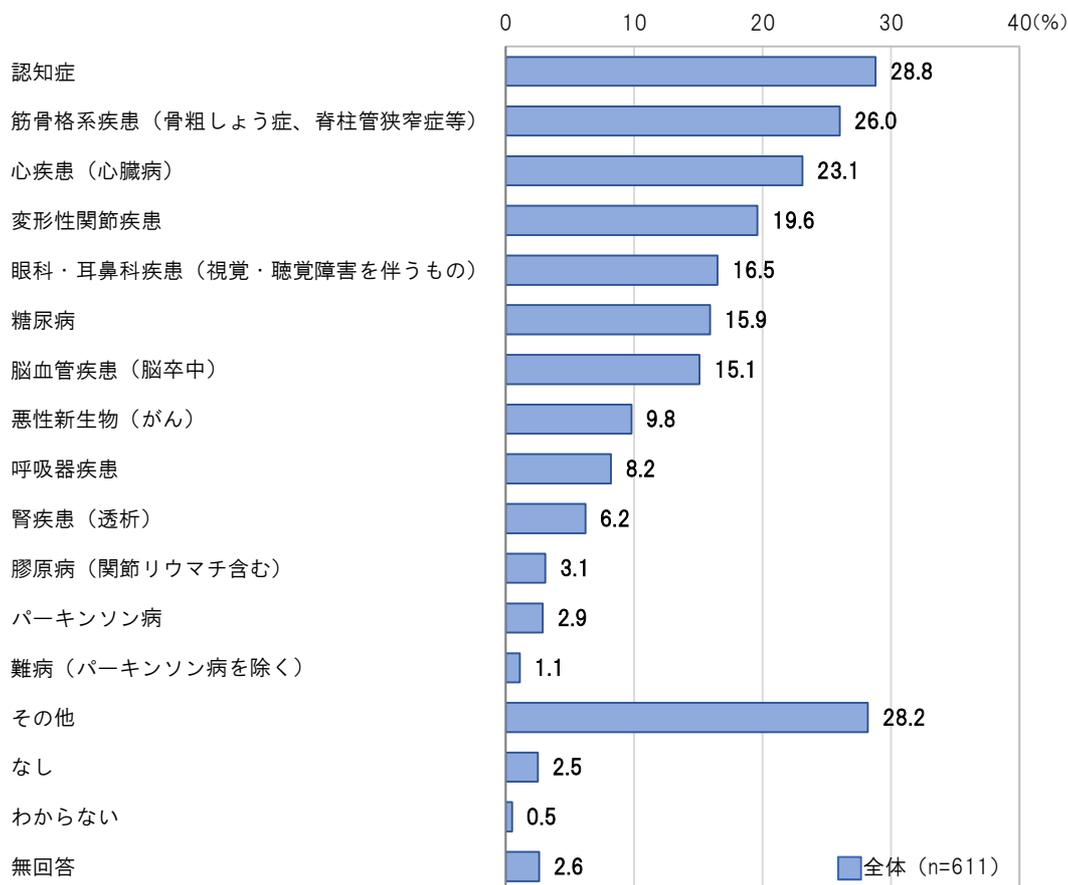
- 施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」が8割を超えている。
- 一方で、「入所・入居を検討している」が1割を超え、「すでに入所・入居申し込みをしている」と合わせると2割近くを占めている。



(4) 本人が現在抱えている傷病

問 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。（複数選択可）

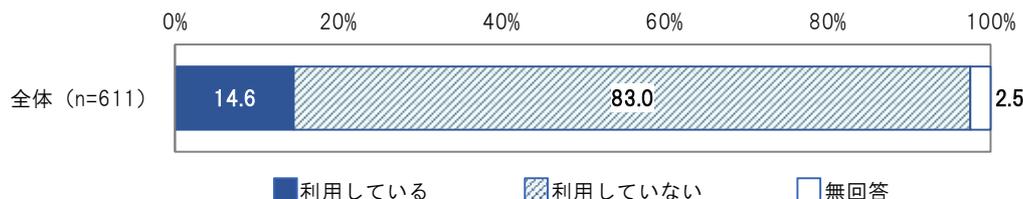
- 本人が現在抱えている傷病は、「認知症」が3割近くを占めて最も高くなっている。
- その他、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」や「心疾患（心臓病）」が2割以上、「変形性関節疾患」が約2割を占めて高くなっている。



(5) 訪問診療の利用状況

問 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（1つを選択）

- 訪問診療の利用状況は、「利用していない」が8割を超えており、「利用している」は2割未満となっている。



(6) 介護保険サービスの利用状況

問 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか。
(1つを選択)

○介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が約8割を占めており、「利用していない」は2割未満となっている。

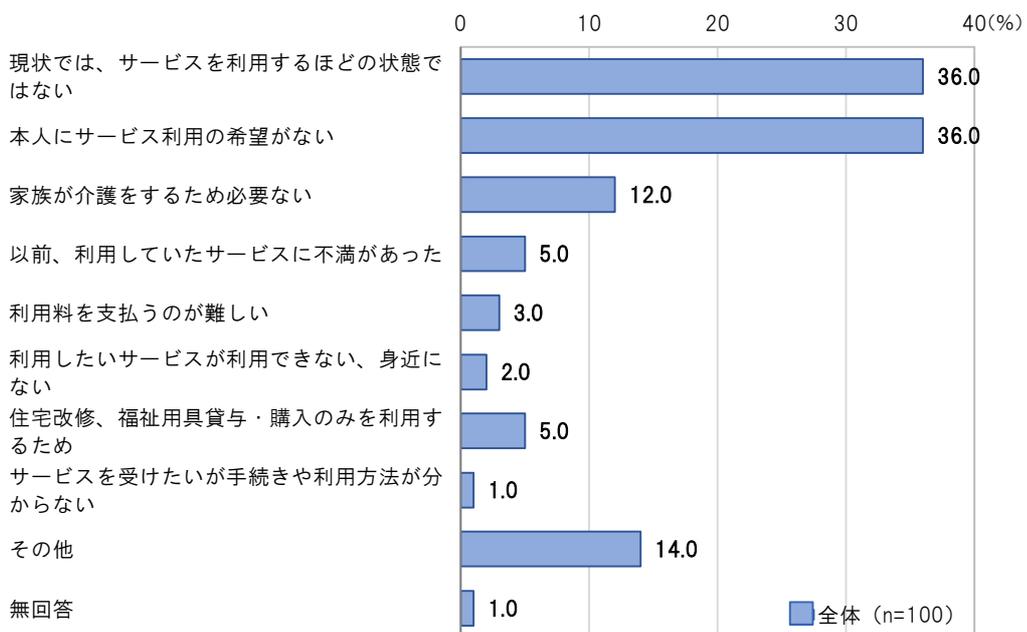


(6-1) 介護保険サービスを利用していない理由

(6) で「利用していない」と回答した人のみ

問 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

○介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」及び「本人にサービス利用の希望がない」がともに3割を超えて最も高くなっている。

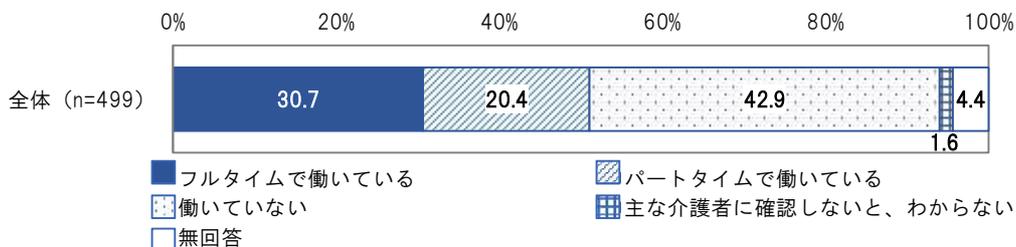


4. 主な介護者の就労状況について ※家族や親族からの介護が「ある」人のみ

(1) 主な介護者の勤務形態

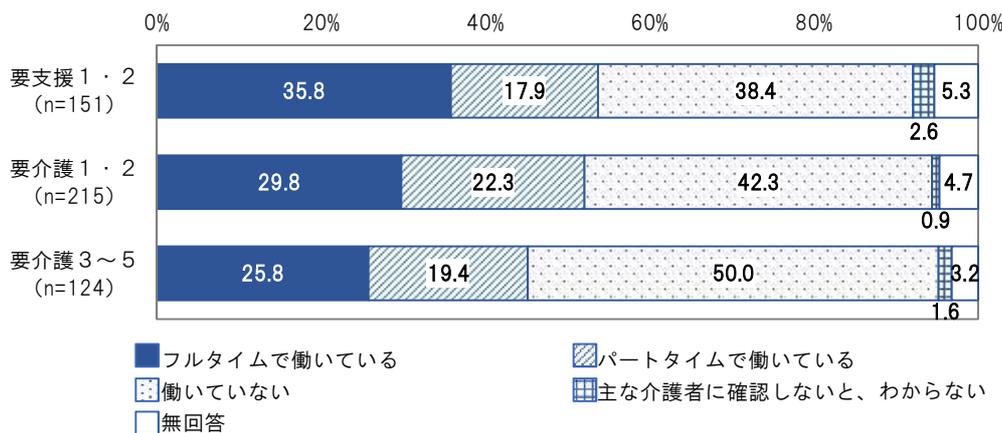
問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

○主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が4割を超えて最も高くなっているものの、「フルタイムで働いている」が約3割、「パートタイムで働いている」が約2割となっており、『働いている』人が約半数を占めている。



《介護度別》

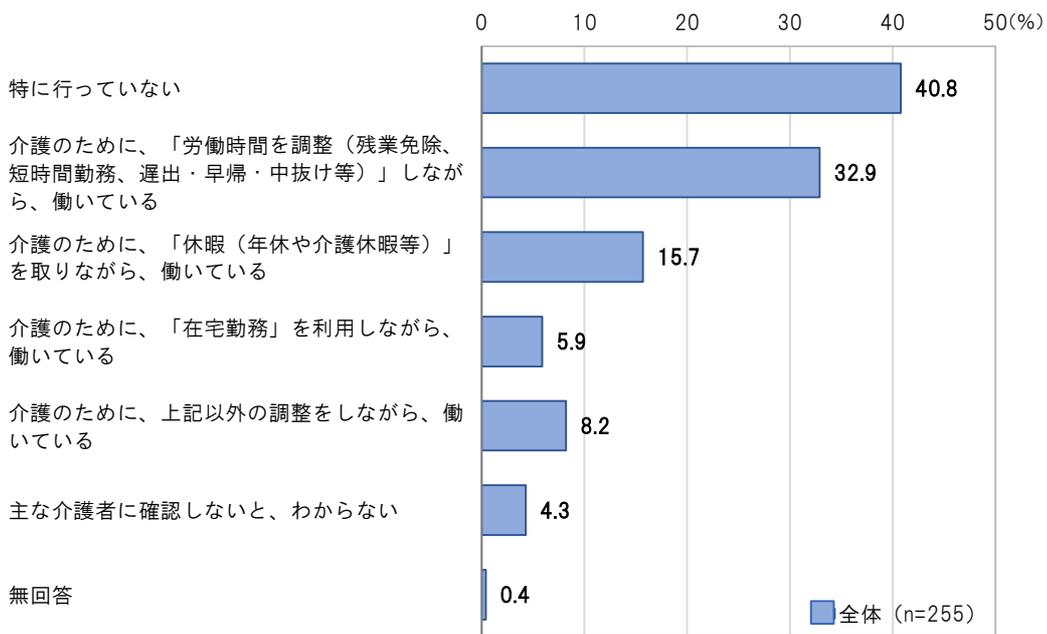
○介護度別にみると、要支援1・2、要介護1・2では『働いている』が半数以上を占めるのに対し、要介護3～5では4割程度となっている。また、介護度が上がるほど、「働いていない」が高くなる傾向がみられる。



(1-1) 就労している主な介護者の働き方についての調整等の有無

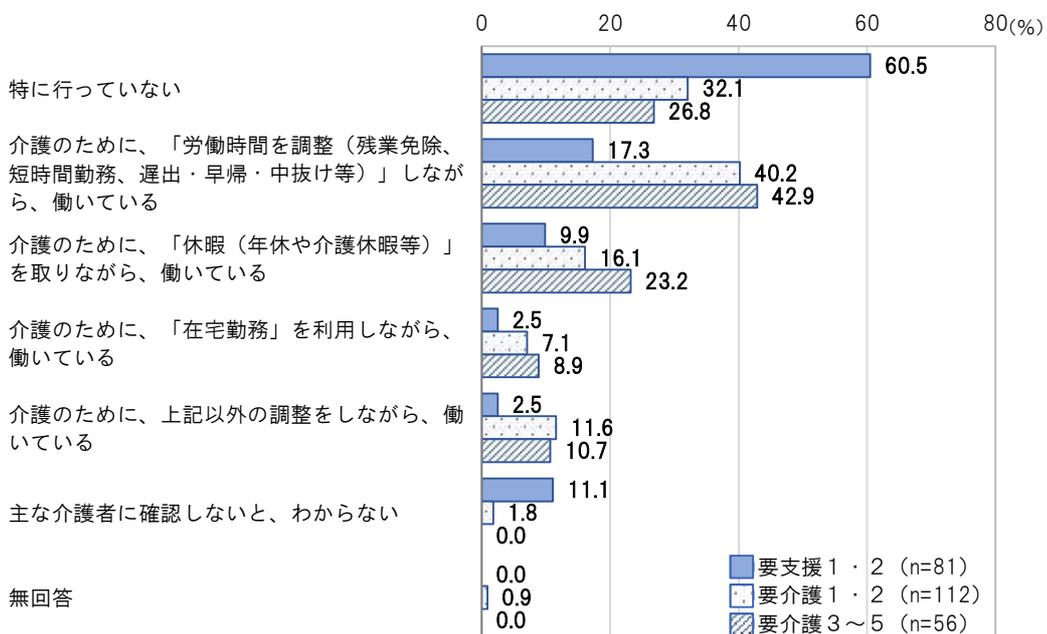
(1) で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
 問 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
 (複数選択可)

○就労している主な介護者の働き方についての調整等の有無は、「特に行っていない」が約4割を占めて最も高くなっているものの、次いで「介護のために“労働時間を調整”しながら、働いている」が3割を超えて高くなっており、休暇の取得や在宅勤務などを合わせると、『何かしら働き方について調整等をしている』人が半数以上を占めている。



《介護度別》

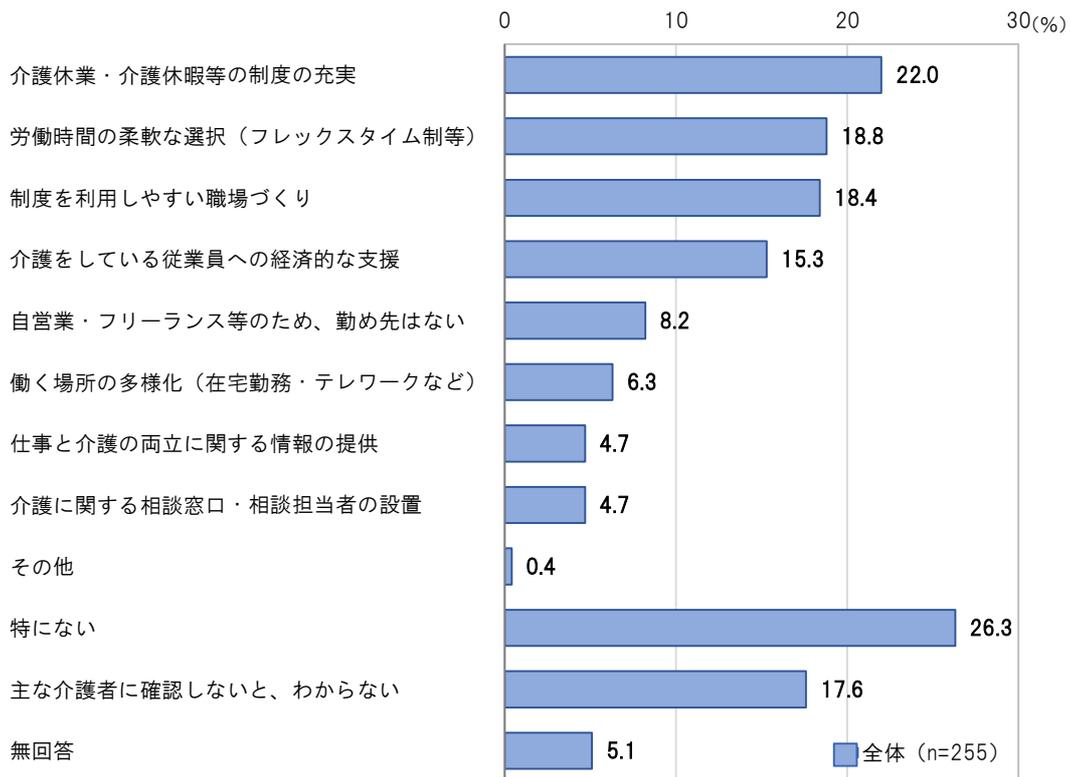
○介護度別にみると、介護度が上がるほど「特に行っていない」が低くなる傾向がみられ、『何かしら働き方について調整等をしている』人が要支援1・2では3割未満となっているのに対し、要介護1・2では6割以上、要介護3～5では7割以上を占めている。



(1-2) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

(1) で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
 問 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思
 いますか。(3つまで選択可)

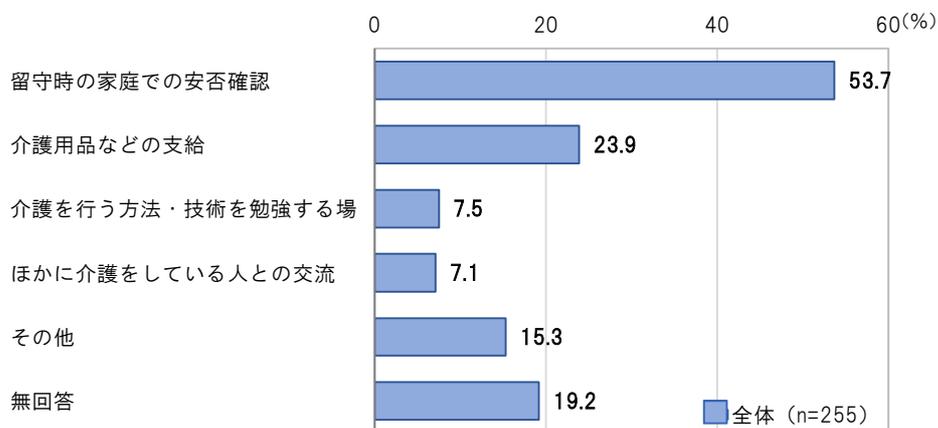
○仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援は、「特にない」が最も高くなっているものの、具体的な支援では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が2割を超えて高くなっており、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制等)」、「制度を利用しやすい職場づくり」の順となっている。



(1-3) 介護をしている方への手助けとして必要なこと

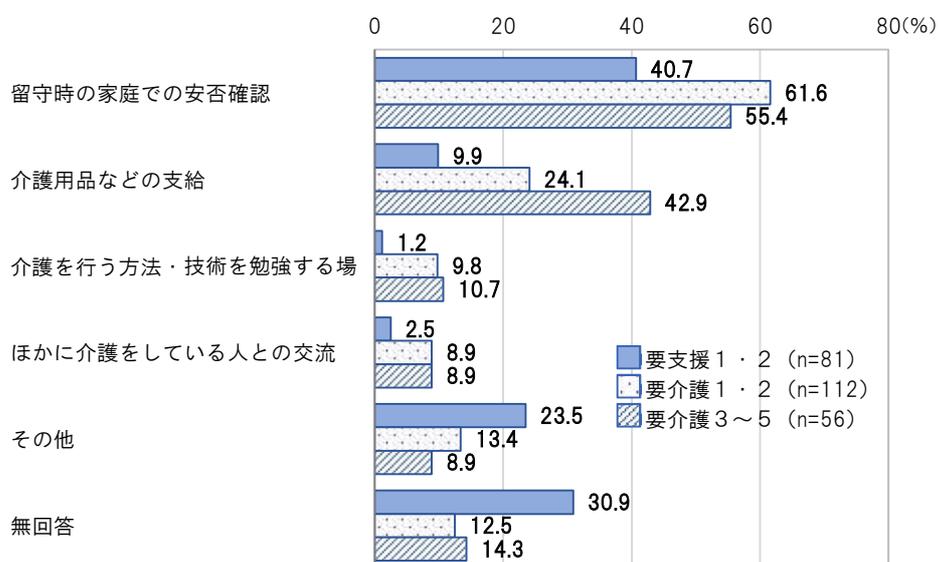
(1) で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
 問 介護をしている方への手助けとして、必要と思うものは何ですか。(複数選択可)

○介護をしている方への手助けとして必要なことは、「留守時の家庭での安否確認」が半数を超えて最も高く、次いで「介護用品などの支給」となっている。



《介護度別》

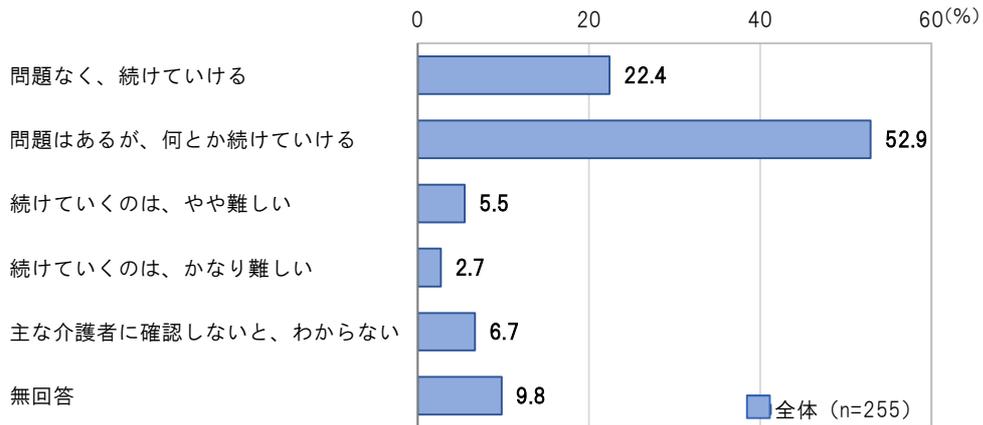
○介護度別にみると、ほとんどの項目で、要支援1・2に比べて要介護で高くなっており、特に「介護用品などの支給」では介護度が上がるほど高くなる傾向がみられる。



(1-4) 今後の就労継続

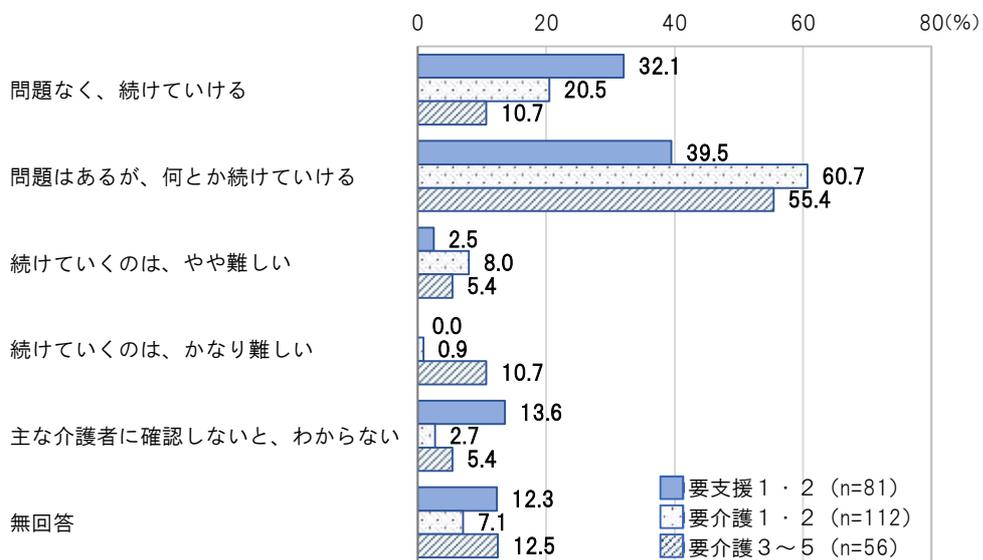
(1) で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ
 問 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

- 今後の就労継続は、「問題はあるが、何とか続けていける」が半数を超えて最も高く、次いで「問題なく、続けていける」となっており、『続けていける』が7割を超えている。
- 一方で、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』は1割近くとなっている。



《介護度別》

- 介護度別にみると、介護度が上がるほど『続けていくのは難しい』が高くなる傾向がみられ、要介護1・2では1割近く、要介護3～5では1割以上を占めている。

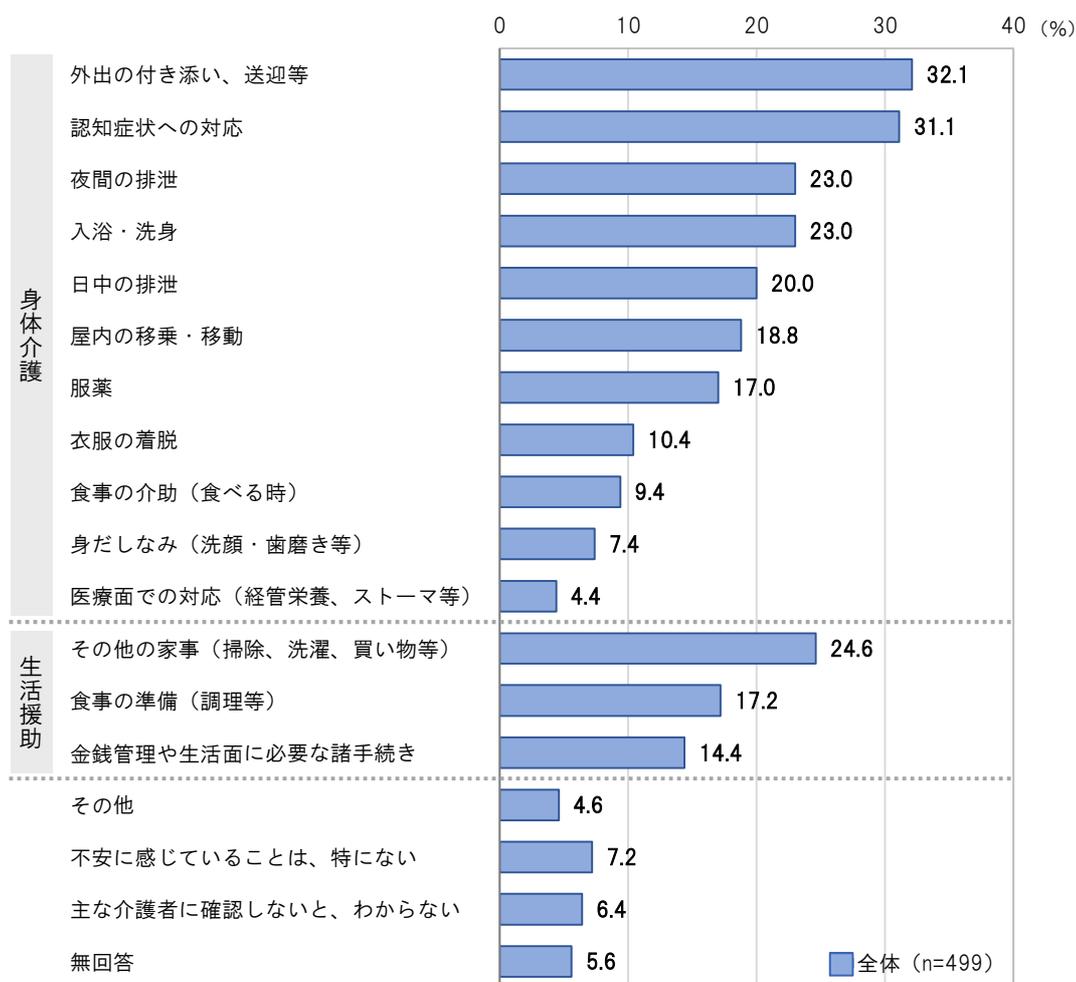


(2) 現在の生活を継続していくにあたって不安を感じる介護等

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（3つまで選択可）

○現在の生活を継続していくにあたって不安を感じる介護等は、「外出の付き添い、送迎等」及び「認知症状への対応」がともに3割を超えて最も高く、身体介護に不安を感じている人が多い結果となっている。

○生活介護では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が2割を超えてやや高くなっている。

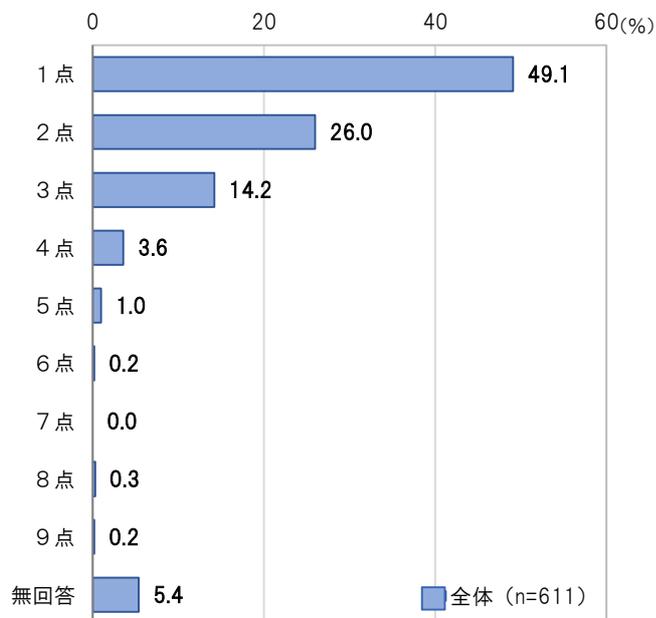


5. 生活状況について

(1) 自宅（部屋）の状況

問 ご自宅（部屋）の状況は、別紙の尺度（スケール表）のうち、どれにあたるとお思いますか。
（1つを選択）

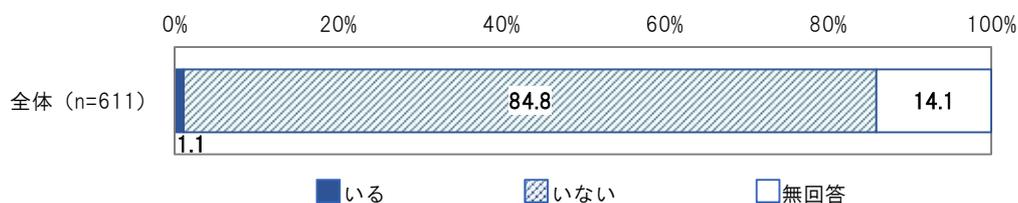
○尺度にあわせた自宅（部屋）の状況は、「1点」が約半数を占めて最も高く、次いで「2点」、「3点」の順となっている。



(2) 同居者の中のひきこもりの方の有無

問 同居の方で、家族以外の人との交流をほとんどせず、かつ仕事や学校に行かず、6か月以上続けて自宅でふさぎ込んでいる方がいますか。（1つを選択）

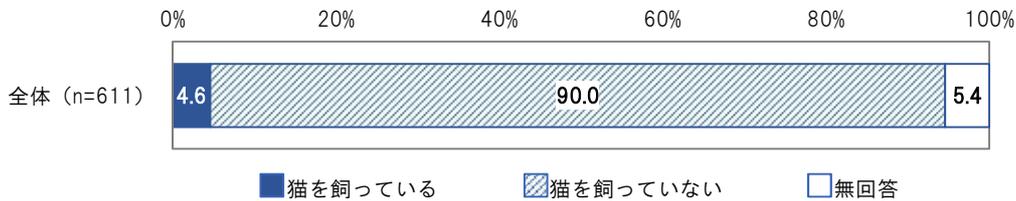
○同居者の中のひきこもりの方の有無は、「いない」が8割を超えて大半を占めており、「いる」は1.1%となっている。



(3) 猫の飼育の有無

問 猫の飼育をしていますか。(1つを選択)

○猫の飼育の有無は、「猫を飼っていない」が約9割を占めており、「猫を飼っている」は5%未満となっている。

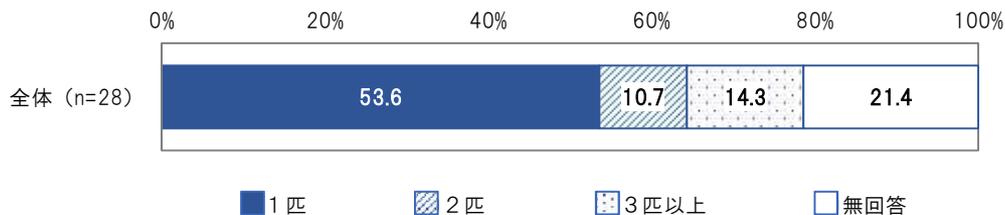


(3-1) 猫の飼育数

(3)で「猫を飼っている」と回答した人のみ

問 何匹飼われていますか。(数を記入)

○猫を飼育している人の飼育数は、「1匹」が半数を超えて最も高くなっているものの、「3匹以上」が1割を超えている。また、最大では「8匹」の回答がみられた。



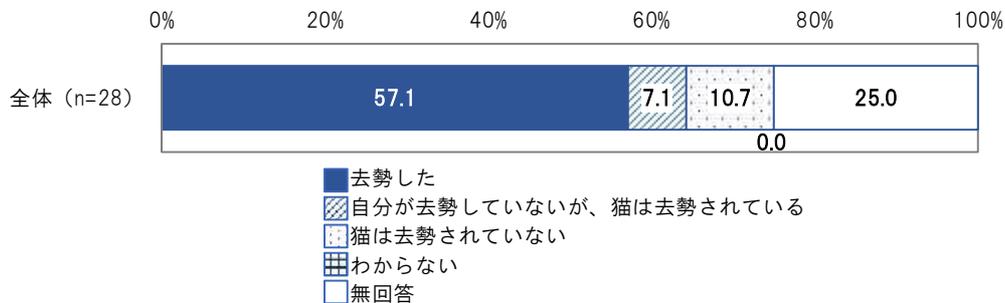
(3-2) 飼育している猫の去勢の状況

(3)で「猫を飼っている」と回答した人のみ

問 その猫は去勢されていますか。(1つを選択)

○飼育猫の去勢の状況は、「去勢した」が6割近くを占めて最も高く、「自分が去勢していないが、猫は去勢されている」と合わせると『去勢している』が6割を超えている。

○一方で、「猫は去勢されていない」が約1割となっている。



尼崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
(生き生き!!あま咲きプラン) 策定のための
アンケート調査結果報告書
(令和5(2023)年3月)

編集・発行

尼崎市 健康福祉局 福祉部 高齢介護課

〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号

電話：06-6489-6356

FAX：06-6489-6528